

都市・暮らし
18世紀の東京と北京

The Metropolises and
the Prosperities

Within Tokyo and Beijing
in the 18th century

江戸東京博物館
首都博物館 編

18世紀的
東京与北京

都市生活



北京出版集团公司
北京出版社

《都市·生活——18世纪的东京与北京》 展览项目组成员



荣誉出品人 郭小凌 竹内诚

学术顾问 宋向光 崔学谙 褚塑维

出品人 白杰 藤森照信

项目主持 韩战明 黄雪寅 小林淳一

展览策展人 穆红丽 江里口友子

项目统筹 吴明 刘梅

项目责任人 穆红丽 徐涛

展览内容 市川宽明 江里口友子 川口友子 沓泽博行 杉山哲司
春木晶子 张靓 杨丽明 赵雅卓 郭良实

展览设计 高叶环

翻译统稿 杨丽明

展品管理 李健 刘丞 杨静兮 李文琪 迟海迪 丁炳赫 李梅
杨丽丽 刘轶丹 王显国 柳彤 马英豪 马悦婷 李兵
韩冰 闫娟 江里口友子 杉山哲司 真下祥幸
饭冢晴美 冈冢章子 小山周子 松野友美 洼田直子

照明设计 索经令 吕欧

摄影 梁刚 谷中秀 张京虎 朴识

图片编辑 白琳 韩晓 杨妍

致辞

在《中日和平友好条约》缔结 40 周年之际，由中国首都博物馆和日本江戸东京博物馆共同策划推出的“都市·生活——18 世纪的东京与北京”展览在首博开幕。

“都市·生活——18 世纪的东京与北京”是一个关于城市文明的展览。东京与北京同为首都城市 and 历史文化名城，从展览中展出的《熙代胜览》与印版《康熙六旬万寿图》两个长卷中，我们可以看到两个城市 18 世纪的繁盛样貌，也从一个侧面展现了两个一衣带水邻邦的城市文明。展览运用比较的方法，从城市规划到百姓生活，再到城市艺术，对同世纪的两座城市进行了多角度的展示。

“都市·生活——18 世纪的东京与北京”是一个关于社会生活的展览。在展览中，我们可以看到两个城市同一行业，却形制不同的店铺招幌；可以看到上巳、端午、七夕、重阳等这些共有的传统佳节，同一世纪、两座城市里人们的风俗习惯；可以看到，从婴儿出生再到长大成人，两国有着不尽相同的各种礼节和教育方式。从居

住到服饰，从节日到娱乐，从育儿到教育，城市生活的方方面面、社会礼俗的林林总总，“都市生活”的丰富多彩展现了 18 世纪东京与北京的特点与风情。

本展览是“中日韩博物馆国际学术研讨会”机制下的国际合作成果，2002 年，中日韩三国首都城市的博物馆馆长创立了这一机制，每年一届研讨会。本展览开幕的同时，第 17 届研讨会在首都博物馆举办，三国博物馆同人在联合声明中再次强调“共同为人类文化的发展作出贡献”。我们希望以此展览，互鉴“德不孤，必有邻”的历史智慧，与邻为善，以邻为伴。祝愿两座城市、两个国家，在未来的日子里有美好的前景。

首都博物馆党委书记 白杰

馆长 韩战明

2018 年 8 月 15 日

ご挨拶

『日中和平友好条約』が締結されてから四十周年という節目に際し、日本東京都江戸東京博物館（以下、江戸博）と中国首都博物館（以下、首都博）の共同企画による展覧会「都市・暮らし—18世紀の東京と北京」が首都博で開催された。

「都市・暮らし—18世紀の東京と北京」は都会文明にまつわる展覧会である。東京と北京はともに都会であり、ともに名立たる歴史・文化都市でもある。展示品である絵巻物の『熙代勝覧』と『印版康熙六旬万寿図』の中に、私たちは18世紀の両都市の繁栄の様子を見ることができ、また、ある側面では、ふたつの一衣帯水の隣国の都市文明を展開している。本展覧会では、比較法を用いて、都市計画から庶民生活、そして都市芸術に至るまで、同じ時代における二つの都市に関し多角的に展示している。

「都市・暮らし—18世紀の東京と北京」は社会生活に関する展覧会である。本展覧会では、ふたつの都市では同じ業

種の店舗でも異なる形な看板を使用すること、また、上巳節（三月三日「桃の節句」）や端午節（五月五日「端午の節句」）、七夕節（七月七日「七夕祭り」）、重陽節（九月九日「菊の節句」）など伝統的な行事は、日本にも中国にも行っていることを展示され、同じ時代にふたつ都市の様々な風俗習慣は見られる。さらに、両国において子供の育ち方やしつけ方もそれぞれであることもよくわかる。

住居や服飾、祝日や娯楽、または育児や教育までの都市生活の色々な様子、および様々な礼儀と習俗は、今回の展覧会を通し、18世紀の東京と北京の暮らし特徴や生活風景を生き生き展示することになる。

本展覧会は、「中日韓博物館国際学術シンポジウム」のメカニズムによる、国際協力の成果であり、2002年、中日韓三カ国の首都の博物館館長により作られたものであり、年一回シンポジウムが開かれる。そして、本展覧会開幕と同時に、

第17期シンポジウムも首都博において開催され、三カ国の博物館の参加者は共同声明を発表し、改めて「ともに人類文化の発展に寄与しよう」と強調した。われわれは本展覧会を通じて、お互いに「徳は孤ならず、必ず隣有り（徳のある人は孤立しない。必ずその人を理解し助力する人が現れるのだ）」（論語・理仁編）の歴史的知恵に鑑み、隣国同士の友好関係を更に深めていくことができれば、と考えている。

最後に、東京と北京、そして日本と中国がともに美しき未来を迎えられることを祈念してやみません。

首都博物館党委員会書記 白 傑

館長 韓戦明

2018年8月15日

致辞

“都市·生活——18世纪的东京与北京”展，是东京都江户东京博物馆首次在中国举办的展览。此次选送的112件馆藏资料包括浮世绘、木版印刷品、民俗生活资料和工艺品等，反映了18世纪的江户城及其居民丰富多彩的生活。

18世纪的东京称为“江户”，从1603年到1868年的江户时代，又是一个极为长期的和平时期。到了18世纪初，江户在这种和谐的社会环境里，已经发展成为一座约有百万人口的大型城市。同在18世纪，北京作为中国清朝的都城也经历了一个极其繁荣的时代。中日两国的文化交流历史悠久，即便是在日本对外坚持闭关锁国的江户时代，一脉相承的文化活动也从来没有停止过。

东京都江户东京博物馆是一家综合性的博物馆，旨在向人们展示江户和东京400年的历史、文化以及城市生活。自2002年起，江户东京博物馆作为东京具有代表性的文化设施，与北京的首都博物馆、韩国的首尔历史博物馆每年轮流举办研讨

会，身居亚洲主要国家的日本、中国、韩国的首都，我们在博物馆的业务活动、馆藏资料和研究等方面进行交流，交换信息和意见。2006年，沈阳故宫博物院也加入了这个交流行列，因此，截至目前，我们是在三个国家的四家博物馆之间不断开展交流活动。

2017年2月至4月，作为其中一项交流活动，东京都江户东京博物馆举办了以“江户与东京——18世纪的城市与生活”为主题的展览。由于展览带有交流性质，我们借用了北京首都博物馆和北京故宫博物院的藏品，与我馆藏品共同展出，对18世纪为主的江户和北京两大都城的发展、生活和文化进行比较，完成了一次前所未有的尝试。为期44天的展览有4.4万人前来观看，尤其吸引了年轻一代的关注，成为人们热议的话题。

此次在北京首都博物馆举办的“都市·生活——18世纪的东京与北京”展，与去年举办的“江户与北京——18世纪的城市与生活”展一样，同属北京首都博物

馆与我馆的交流展览。我知道，由于博物馆的语言和制度不同，举办这种展览交流活动并不容易，但我坚信，本次展览一定能够为进一步加强我们两馆之间的友好关系，加深北京和东京这两座城市及市民之间的友谊、相互尊重和相互理解做出新的贡献。如果本次展览能够让前来参观的市民们对中日文化交流的历史，对江户和东京的历史文化有所理解，我将感到无比欣慰。

最后，谨向鼎力相助的有关人士表示衷心感谢，预祝本次展览圆满成功！

东京都江户东京博物馆
藤森照信

「都市・暮らし—18世紀の東京と北京」展は、東京都江戸東京博物館の所蔵資料が中国において展覧される最初の展覧会です。当館の収蔵品の中から、浮世絵や版本、生活民俗資料、工芸品など、18世紀の都市と人々の生活を物語る多彩な資料112件を出品いたします。

18世紀の東京は、「江戸」と呼ばれており、1603年から1868年にいたる江戸時代は、きわめて長期間にわたり平和が続いた時代でもありました。その平和のもとで、江戸は、18世紀初頭には推定人口100万という巨大都市として発展したのです。北京もまた、18世紀は、清朝の首都として繁栄を極めた時代でありました。日本と中国には、文化交流の長い歴史があり、日本が諸外国に対して国を閉ざしていた江戸時代も、文物の流れが滞ることはありませんでした。

東京都江戸東京博物館は、江戸・東京の400年にわたる歴史と文化、都市の生活を人々に伝える総合的な博物館です。

当館は、東京を代表する文化施設として、北京の首都博物、韓国・ソウル歴史博物館と2002年から毎年持ちまわりのシンポジウムを開催し、日本・中国・韓国のアジア主要国の首都における博物館の活動や資料、研究について情報・意見交換を行ってきました。2006年には中国・瀋陽故宮博物院も加わり、現在に至るまで3か国4館の間で交流を続けています。

そして交流の一環として、東京都江戸東京博物館では、2017年2月～4月、「江戸と北京—18世紀の都市と暮らし—」展を開催いたしました。交流展である本展は、首都博物館、故宮博物院の収蔵資料を借用し、当館の資料とあわせて展示することにより、18世紀を中心とした江戸と北京の両都市のなりたちや生活、文化を比較した、かつてない試みとなりました。44日間の会期で4万4千人もの来場者があり、特に若い世代の関心を集め、大変話題になりました。

今回の首都博物館での「都市・暮ら

し—18世紀の東京と北京」展は、「江戸と北京—18世紀の都市と暮らし—」展と同じく、首都博物館と当館の交流展です。言語も制度も異なる博物館の展示交流は、簡単なものではありませんが、展覧会の開催により、2館の絆がより一層堅固なものとなり、北京と東京の2都市間と両市民間の友情の深化、相互尊重、相互理解に寄与するものと確信しております。そして展覧会をご覧になる皆様が、日本と中国の文化交流の歴史と江戸・東京の歴史と文化について、少しでも理解を深めていただければ、これにまさる喜びはありません。

最後になりましたが、本展のご成功をお祈りするとともに、ご協力賜りました関係各位に、心より御礼申し上げます。

東京都江戸東京博物館
藤森照信





目录

	前言	013
第一章	城市营建	017
第一节	北京（时称京师）	021
第二节	东京（时称江户）	026
第二章	城市生活	035
第一节	居住	048
第二节	经商	056
第三节	服饰	080
第四节	育儿	102
第五节	节日	118
第六节	教育	134
第七节	娱乐	144
第三章	城市艺蕴	171
	结语	187

目録

	始め	014
第一章	城郭と治世	018
第一节	当時、京師と呼ばれ	020
第二节	当時、江戸と呼ばれ	026
第二章	都市生活	036
第一节	居住する	048
第二节	商う	056
第三节	「装う」	080
第四节	育てる	102
第五节	歳時	118
第六节	学ぶ	134
第七节	遊ぶ	144
第三章	都市の文化芸術	172
	終わりに	188

前言



中日两国，一衣带水。

东京，日本国首都。其前身江户位于关东平原江水的入海口。江户随幕府统治的确立而成为日本的政治中心。明治维新后，日本天皇迁居江户，作为国家象征的皇权与现实政治中心合在一处，江户改称东京。

北京，中国首都。曾经是元明清三朝的帝王之都，如今是中华人民共和国首都。

18世纪的东京处于江户幕府管制之下，18世纪的北京处于康乾盛世时期，两地政治安定，生活富足，尽显东方文化的城市共性。然而从城市规划到百姓生活，再到丰富多彩的手工艺，两座城市的个性折射出两国文化的差异。



始め

中国と日本は一衣帯水の隣国であり、長い歴史のなかで相互交流は続いております。

江戸は現在の日本国の首都・東京の前身であり、関東平野の河川が集まり、太平洋に流れ込む位置にあります。徳川幕府の樹立とともに、江戸は大きな発展を遂げ、一大中心地となりました。明治維新後、明治天皇の江戸への行幸に伴い、江戸は東京と改称されました。

北京は、元・明・清・三つの王朝の都であり、現在は中華人民共和国の首都です。

18世紀の東京と北京は、共に繁栄を極めた大都市でした。北京は康熙帝・乾隆帝の「治世」の時代にあり、一方の江戸は幕府の支配下にありました。当時の東京と北京では、都市計画や庶民の暮らし、芸術文化で違いもありますが、両都市とも、安定した政治と、豊かな庶民の生活という、共通性を有していました。



Prelude

Facing each other across a narrow strip of water, China and Japan are neighboring countries with a history of relations for centuries.

Tokyo, the capital city of Japan, was previously named Edo when Shogun Tokugawa Ieyasu made it the headquarter of his regime at the beginning of the 17th century. Although the meaning of Edo is literally estuary, Edo was a small coastal town on the Kanto Plain with a number of rivers flowing into the sea. It rapidly developed into the absolute center of Japan under the rule of the shogunate. With the arrival of Emperor Meiji, Edo became an imperial capital and its name changed to Tokyo after the Meiji Restoration. Tokyo has been since then turned into a symbol of political and imperial power.

Beijing, once the imperial capital of the Yuan, Ming and Qing empires, is now the capital of the People's Republic of China.

In the 18th century, as the two largest cities in the world, Tokyo and Beijing were both celebrating great prosperity. Beijing was booming with the economic success under the reigns of Emperor Kangxi and Emperor Qianlong; whilst people in Tokyo were also living affluently in peace under the rule of the Tokugawa Shogunate. Although urban planning, life styles and artistic cultures between Tokyo and Beijing were very different, the two cities shared common traits of stability and sustainability during this period of time.





明清北京城的前身为 1267 年建成的元大都城。1420 年，明朝第三位皇帝朱棣将都城从南京迁往北京，并正式定都于北京。1644 年明朝灭亡后，大清帝国称北京为“京师”，仍定都于此。

江户这一地名据说取意于“入江门户”，早在镰仓时代的文献里即见有此称谓。12 世纪，以该地名命名的江户氏统治这一区域，进入室町时代后因其势力衰退，被太田道灌取而代之，在此筑城作为其大本营。1590 年德川家康分封至关东后，因江户地域广阔、水运畅通，故在此安营扎寨，开始了新城的开发建设。1603 年，德川家康成为征夷大将军并

设立幕府，江户也成为日本的政治中心。

至第二代将军德川秀忠，又开始营造以石垣围筑的内郭为中心的江户城，环绕江户城郭的街区也随之逐步得以完善。



城郭と 治世

明清朝の首都北京は、1267年に着工した元朝の大都から発展してきた。1406年（永楽4）に宮殿の建設が始まり、紫禁城が完成した後の1420年（永楽18）に遷都の勅が下され、北京は明の唯一の首都として位置づけられた。明朝が1644年（順治1）に滅亡した後は、大清帝国が明代の北京を継承し「京師（順天府）」として再び首都と定めた。

江戸という地名は「入江の門戸」を意味するとされ、鎌倉時代の文献にすでにその名を見ることができる。12世紀にはその地名を取った江戸氏が地域を支配したが、室町時代になると衰退し、代わって太田道灌が城を築いて本拠地とした。その後1590年（天正18）に徳川家康が関東に領地を移されると、広大な土地と水利に恵まれたこの地を拠点とし、新たな都市の開発を始めた。

1603年（慶長8）に家康が征夷大將軍となり幕府を開くと、江戸は日本の政治の中心ともなり、二代將軍秀忠の時代にかけて本丸石垣の造成をはじめとした江戸城の造営が行われ、城を取り巻く江戸の町も整備された。



The Construction of Beijing and Edo

The building of Beijing initiated in 1267 during the Yuan dynasty when the city was called Dadu and known as

Khanbaliq by the Mongols. It was stretched in scale a century later over the Ming and Qing periods. In 1420, Emperor Zhudi, the fourth ruler of the Ming dynasty, moved his capital from Nanjing to Beijing, and officially designated Beijing as the new imperial capital of the Ming Empire. In 1644, when the Ming Empire collapsed to its end, Beijing subsequently became the capital of the Great Qing Empire under the administration of the Shuntian Prefecture. The Qing emperors followed the traditions of urban planning outlined in the Ming, hence the general layout of the city remained unchanged.

The name of Edo was allegedly taken from the Japanese word for estuary, the geographic name of Edo can be traced in historical documents recorded during the Kamakura period (1185-1333). As the earliest settlers in the area, the Edo clan claimed ownership of the land in the 12th century, and the location was later known as Edo. The Edo clan lost its power by the end of Muromachi period (1336-1573) and the ownership of the region was taken over by the famous general Ōta Dōkan (1432-1486), a military tactician, who was considered as the founder of the castle of Edo. In 1590, Tokugawa Ieyasu was granted lands in the Kanto area. With the advantages of vast landscapes and good water transportation systems, Ieyasu built his stronghold here and constructed his new castle as secure as it could be. In 1603, Ieyasu was awarded the title of Sei-i Taishōgun (Commander-in-Chief of the Expeditionary Force Against the Barbarians), and had Edo developed into a political center of Japan. The second Shogun of the Tokugawa shogunate, Hidetada, succeeded the power from his father Ieyasu and started building the internal stone walls as the core center of the castle of Edo. Streets and blocks within the walls were therewith improved and perfected.



第一节

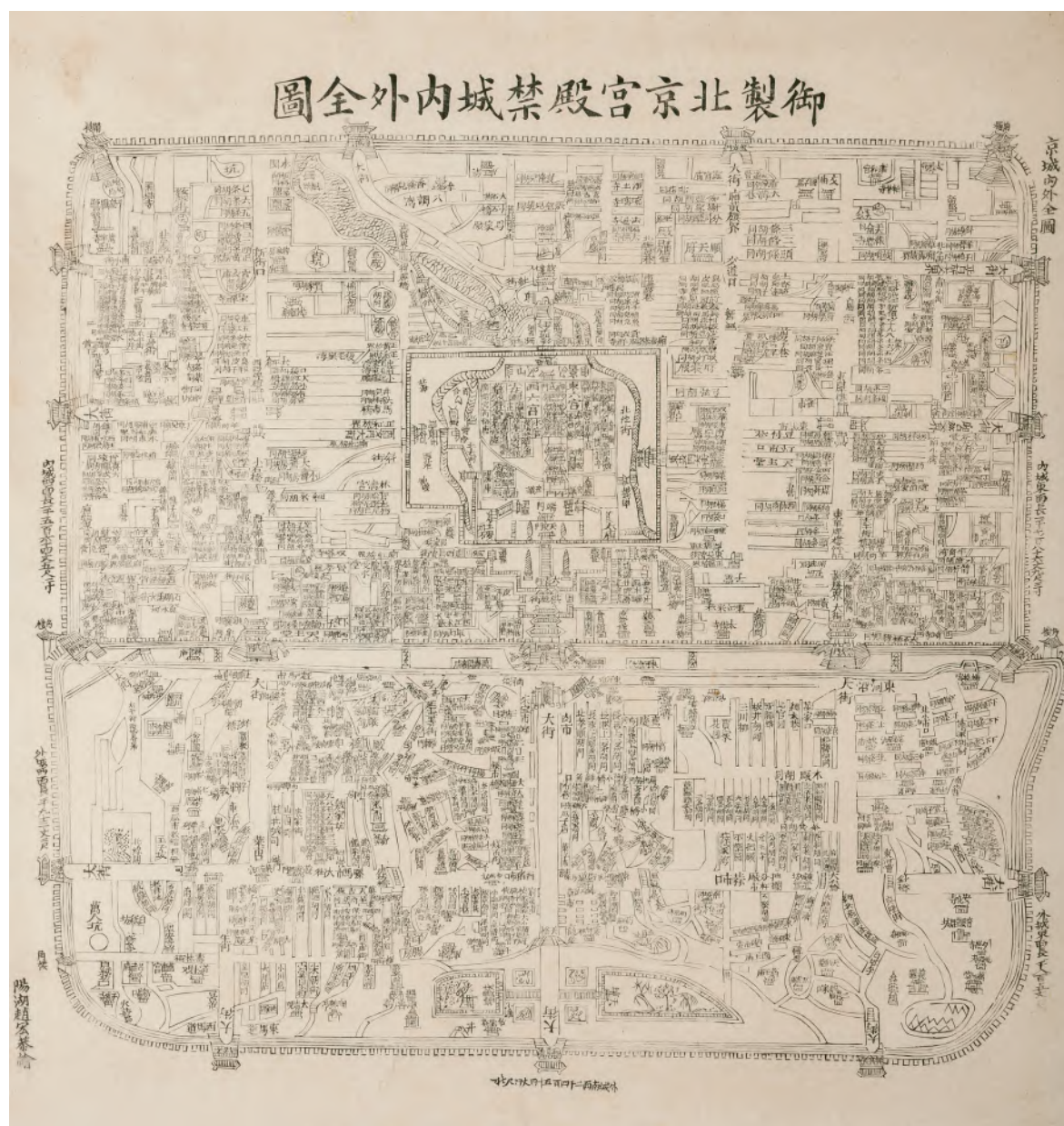
北京（时称京师）

北京城是依据儒家经典《周礼》的理念建造的都城，可以说是中国古代都城规划与建设的典范之作。它设有多道分隔内外的城墙，属于典型的城墙围绕型城市。皇帝所在的紫禁城即宫城位于中心，包围着紫禁城的“皇城”，由宫廷方面的政府机关与宫苑组成，皇城外则是各级官府衙门所在以及官僚和百姓居住的“内城”。“内城”“皇城”“宫城”依次嵌套，内城南侧又增筑了“外城”，整体形成“凸”字形布局。清朝规定内城基本上由隶属于八旗的旗人居住，汉人官吏和商人等平民百姓皆在外城居住。

当時、京師と呼ばれ

北京城は儒教の古典である『周礼』考工記の理念をもとに造営された都城で、中国の都市の基本形ともいえる、内外を隔てる城壁を複数にめぐらせた围郭都市となっている。皇帝の座する紫禁城を中心に、宫廷に関わる官庁や庭園からなる「皇城」、様々な官庁や官民の居住区がある「内城」が入り子構造となって位置し、さらにその南側には「外城」が構築され、凸字型の都市が形成されている。清代において内城は基本的に八旗に属する旗人のみが居住し、漢人の官僚や商人などの民間人は外城に住んでいた。





北京内外城地图 | 北京内外城地圖 | Map of Beijing

清 (1644—1911) | 清時代 (1644—1911) | Qing dynasty (1644-1911)

长 61 厘米; 宽 55.5 厘米 | 縦 61 cm 横 55.5 cm | Length: 61 cm, width: 55.5 cm

赵宏 / 画 | 趙宏 / 画 | Cartographer: Zhao Hong

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

19 世纪后期的北京城全图，详尽地展示了清朝北京的布局。除皇城、内城、外城以及城门、衙署（官署）之外，还详细地绘出了胡同及主要街道、满族八旗在内城的驻防分布。该城图由江苏阳湖（现江苏省常州市武进区）出生的清代画家赵宏所作，左下角有“阳湖赵宏恭绘”署名字样。

19 世紀後半の北京城全図で、清朝の北京城市のプランを詳しく反映している。皇城、内城、外城及び城門、衙署（役所）のほか、胡同や主要街道、満州八旗の内城における駐屯防衛分布まで描いている。江蘇省陽湖（現在の江蘇省常州市武進区）出身の清代画家趙宏の作品で、銘を左下に記す。

正阳门正脊上银质压胜宝盒

正陽門正背上銀質压勝宝盒(正陽門に納められた鎮具類)

Silver treasure box from the ridge of the Zhengyangmen Gate

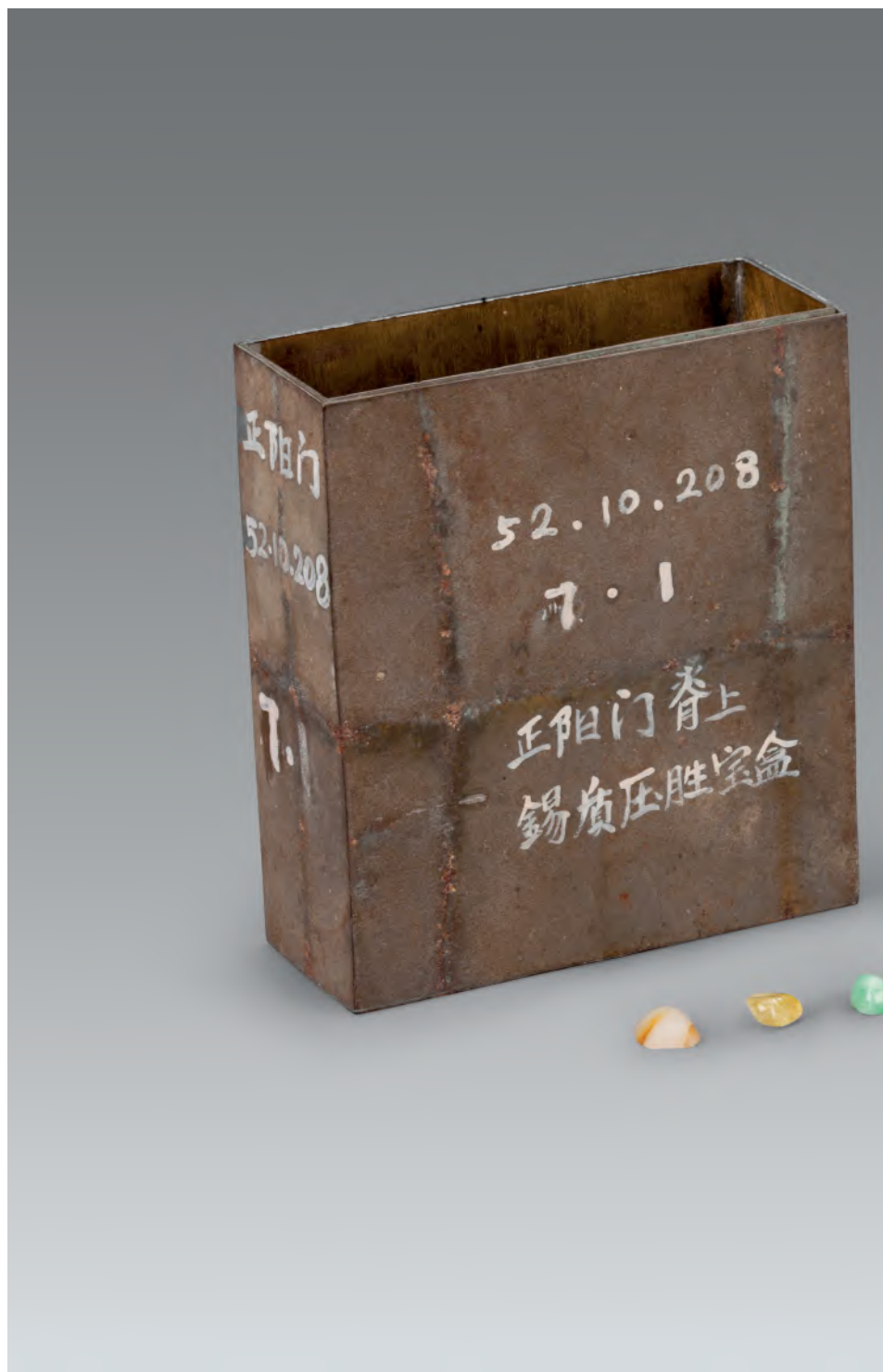
明(1368—1644) | 明時代(1368—1644) | Ming dynasty (1368-1644)

长 15.8 厘米; 宽 14 厘米; 高 5.5 厘米 | 縦 15.8 cm 横 14 cm 厚さ 5.5 cm | Length: 15.8 cm; width: 14 cm; height: 5.5 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

规模比较大的建筑在修建过程中, 在正脊位置专门放置一个盒子, 按照五行理论在盒子里放入代表金木水火土的物品。“金”代表物: 五枚金属锭; “木”代表物: 方木; “水”代表物: 五色丝线; “火”代表物: 五色宝石; “土”代表物: 五谷; 以及佛经等物, 取趋利避害, 保护建筑物免遭天灾人祸之意。

比較的大きな建物を建築する途中で、屋根の棟裏に納められた鎮具。五行の思想に基づき、その5種を表すものが入れられた。金は五つのお金、木は四角い木、水は五色の糸、火は五色の宝石、土は五穀で象徴させ、さらに経文を加えている。これらを納めることで、災いを祓い、天災などから建物を護ろうとした。





黄琉璃龙纹瓦当 | 黄瑠璃龍文瓦当 Yellow glazed eave-end tile with dragon design

清 (1644—1911) | 清時代 (1644—1911) | Qing dynasty (1644-1911)
直径 18.5 厘米; 厚 2 厘米 | 径 18.5 cm 厚さ 2 cm | Diameter: 18.5 cm, thickness: 2 cm
首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

瓦当正面是五爪龙形纹饰，装饰图案大气，当面立体感极强，器形规整，背面铃有“赵”字。根据颜色、造型、制作等推测，应是用于皇家最高等级的建筑物。

瓦当面に 5 本の爪を持つ龍を表す。本資料も、色や形、造りなどから最上クラスの建物に使用されたと推測される。5 本爪の龍は、皇帝だけが使用できたことから、紫禁城のものと考えられる。



兽面绿琉璃瓦 | 獸面綠瑠璃瓦 Green glazed animal-head-shaped ridge-end roof tile

清 (1644—1911) | 清時代 (1644—1911) | Qing dynasty (1644-1911)
高 30 厘米; 宽 25 厘米; 厚 10 厘米 | 高さ 30 cm 幅 25 cm 厚さ 10 cm | Height: 30 cm, width: 25 cm, thickness: 10 cm
首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

琉璃瓦以颜色区分等级。黄色等级最高，用于皇宫、社稷坛、天坛及先祖庙等。绿色其次，用于亲王宅邸、皇帝离宫等次等重要的建筑物，以及重要的佛教、道教寺院的主殿。

清代の瓦は、色により等級が分けられていた。黄色が最上で、皇宮、社稷、天壇や先祖廟等に使用された。緑色は二番目で、親王の邸宅、皇帝の離宮など次に重要になる建物や、重要な仏教・道教寺院の主殿に使われた。

明清北京朝阳门城楼模型 | 明清北京朝陽門城楼模型

Wood crafted scale model of Beijing Chaoyangmen Gate Tower in the Ming and Qing dynasties (1368-1911)

现代 | 現代 | Modern

长 86 厘米; 宽 34 厘米; 高 55 厘米 | 縦 34 cm 横 86 cm

高さ 55 cm | Length: 86 cm, width: 34 cm, height: 55 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

明清两代北京的内城共有九座城门，各有不同功能。朝阳门在元代时称齐化门，因紧邻运河，而运河是南方物资运至北方的通道，所以凡是运送粮食的车辆皆由此门过，作为城墙防御体系的瓮城门洞内刻有谷穗一束。此模型是按照比例制作的朝阳门城楼模型，原朝阳门城楼与宣武门结构类似，面阔七间，通宽 32.5 米，进深三间，通进深 25 米。

明清代、北京の内城の門は、9つで、それぞれ役割があった。朝陽門は、南方から北方に物資を運ぶ運河に通じていたことから、穀物輸送の車は、すべてここを通過した。門前に設けられた防御用の円形城壁には稲穂の束の絵が刻まれていた。門上には幅7間(約32.5メートル)、奥行3間(約25メートル)の楼閣が建てられた。



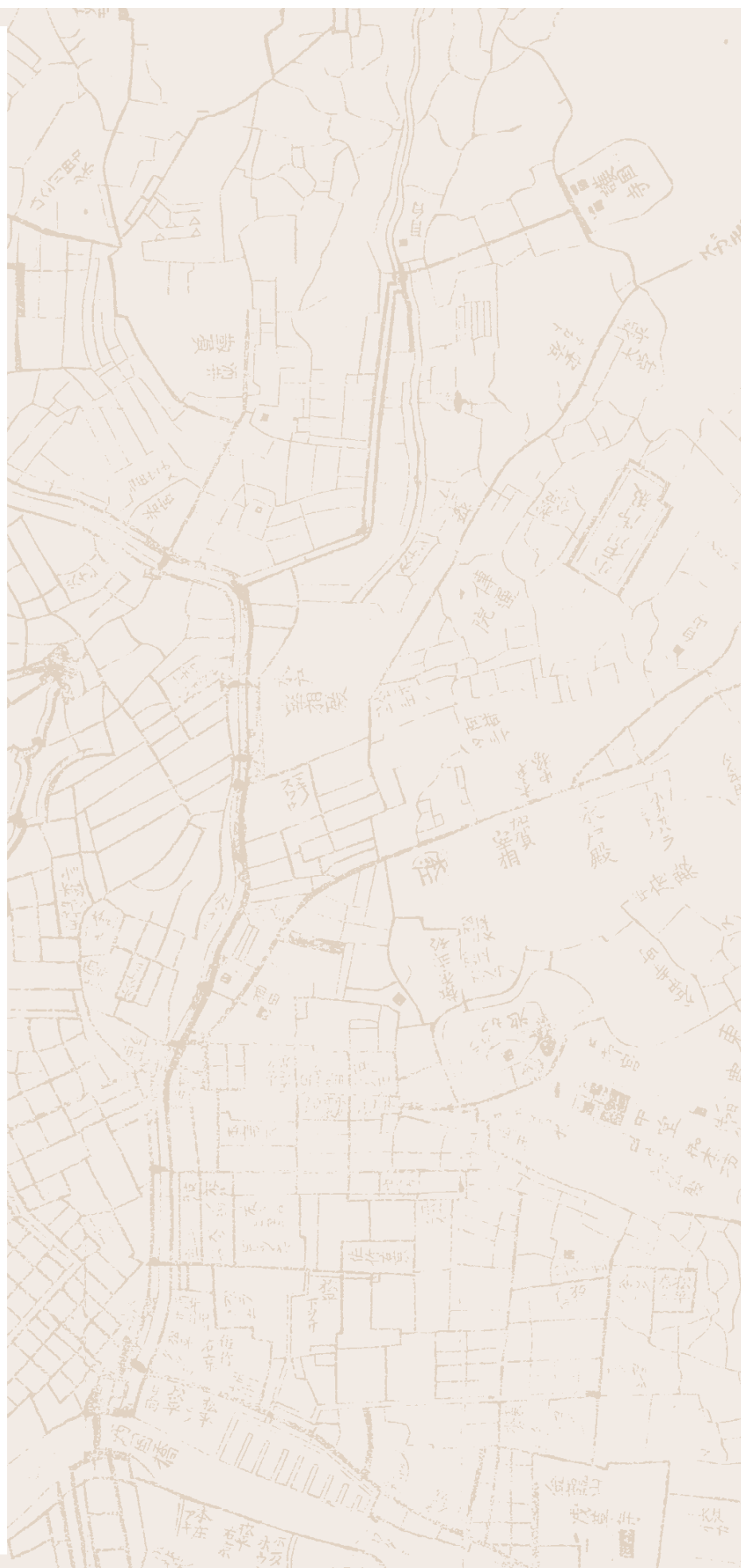
第二节

东京（时称江戸）

江戸城是由石砌的城墙以及呈顺时针螺旋状的内护城河与外护城河共同围成的防御性结构。在内护城河环绕的“内城”里，坐落着以幕府的中枢机构“本丸”（主城堡）为首的“御殿”（府邸）。外护城河内侧的“外城”里，靠近螺旋中心处是与德川家较为亲近的“谱代大名”（世袭家臣）的宅院。顺着螺旋的方向往外，依次为“外样大名”（旁系诸侯）、直属于将军的武士“旗本”（禁卫军）和“御家人”（下级武士）的居住区。再往外，便是“町人”（商人、手艺人）的地界。武士与商人、手艺人生活空间比邻，形成了江戸城极具特色的城市结构。

当時、江戸と呼ばれ

江戸城は石垣と「の」の字のような右回りの螺旋状に配された内堀、外堀によって囲われた惣構の構造となっている。内堀に囲われた「内郭」には、幕府の中核である本丸をはじめとした御殿が位置し、外堀の内側になる「外郭」には、渦の中心に近い部分に徳川家に近い譜代大名の屋敷が配され、そこから外側へと渦をめぐっていく形で、外様大名、そして將軍直屬の武士である旗本・御家人の居住地が続く。その先は町人地が広がっていき、武家と町人の生活空間が隣接する特徴的な都市構成となっている。



江戸名胜图 | 江戸名所之絵 (江戸鳥瞰図)

A bird's-eye view of Edo

1803 年 | 1803 年 (享和 3) | 1803

长 55.6 厘米; 宽 41.7 厘米 | 縦 41.7 cm 横 55.6 cm | Length: 55.6 cm, width: 41.7 cm

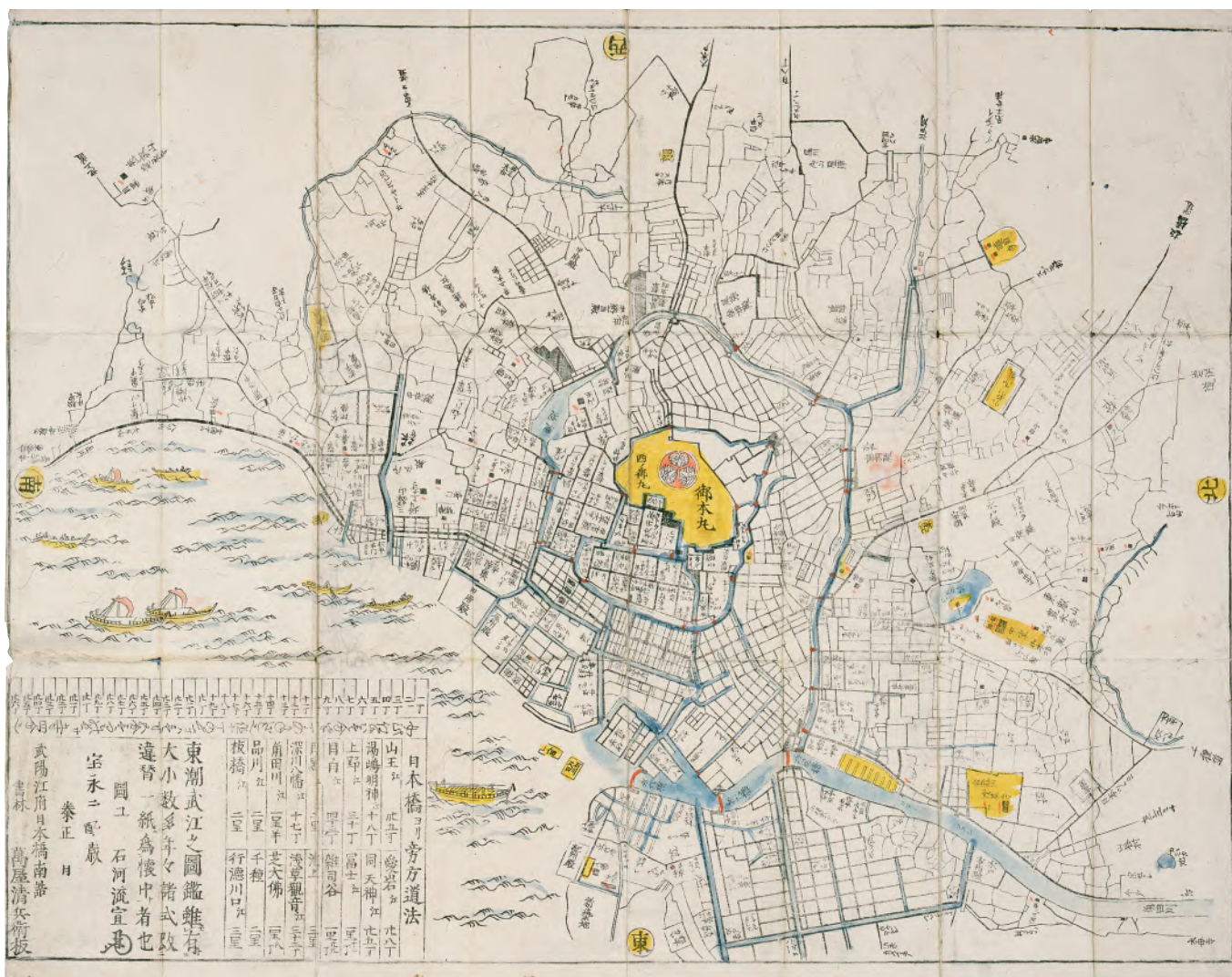
锹形蕙斋 (北尾政美) / 画 | 锹形蕙斋 / 画 | Artist: Kitao Masayoshi (AKA: Kuwagata Keisai)

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

这是一幅从空中俯瞰并采用一点透视法描绘的江戸城景观图。该图将整个江戸城尽收其中,各处名胜和街景都有细致地描绘。画面中央的上方绘有江戸城内城和内护城河,下方绘有外护城河的一部分——日本桥川以及架在河川上的日本桥。

本所の上空あたりの視点から、一点透視図法で描いた江戸の景観図。江戸全体を大胆な構図で一枚に収め、個々の名所や街並を精緻に描く手法は当時の人気を博した。画面中央上に江戸城内郭と内堀が位置し、その下には外堀の一部でもある日本橋川と、そこに架かる日本橋も描かれている。(沓沢)





携式江戸地图 | 懷宝江戸図 Portable Edo map

1705 年 | 1705 年 (宝永 2) | 1705

长 47.4 厘米; 宽 37 厘米 | 縦 37 cm 横 47.4 cm | Length: 47.4 cm, width: 37 cm

石川流宣 / 绘 | 石川流宣 / 作 | Depicted by Ishikawa Tomonobu

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

18 世纪初发行的携式江戸地图。因版面小巧，所以只记录了较大的寺院和大名（高级幕僚、幕府家臣）的宅邸，但是此图清晰地显示出了当时江戸城的组织结构以及街道分布情况。

18 世紀の初頭に発行された携帯用の江戸図。非常に小さなもののため、記載されているのは大きな寺院と大名屋敷に限られるが、当時の江戸の構造や町割りがよく分かる。（沓沢）

江戸城内城绘图 | 江戸城内廓绘图 (惣廓御内之图)

Ground plan of the inner bailey of Edo castle

江戸后期 (1746—1841) | 江戸後期 (1746—1841) | Late Edo period (1746-1841)

长 44.7 厘米; 宽 33.8 厘米 | 縦 33.8 cm 横 44.7 cm | Length: 44.7 cm, width: 33.8 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

该图描绘了由内护城河环绕的江戸城内城部分。核心的主城御殿位于画面中央的右侧，依次往下是第二城、第三城，左侧是隐居的将军、子嗣们居住的西侧城御殿。上面是皇居御苑以及三卿中的田安家、清水家的宅邸。由此可清晰地明了江戸城的构造是由中心呈螺旋状展开的。

内堀に囲われた江戸城の内郭部分が描かれる。画面中央右手に中心となる本丸御殿が位置し、下には二丸、三丸、その左には隠居した将軍や世継が住まう西の丸御殿、そして上に吹上御庭、さらに御三卿である田安家、清水家の屋敷が位置するなど、中心から螺旋状に展開する江戸城の構造がわかる。(沓沢)



徳川家康画像 | 徳川家康画像

Portrait of Tokugawa Ieyasu

江戸时期 (1603—1867) | 江戸時代 (1603—1867) | Edo period (1603-1867)
縦 93.3 厘米; 横 42 厘米 | 縦 93.3 cm 横 42 cm | Length: 93.3 cm, width: 42 cm
江戸東京博物館 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

此画是建立江戸幕府的第一代将军——徳川家康的肖像画。因其生前的丰功伟绩，徳川家康在去世后被视作神明供奉在东照宫，并成为江戸时期人们信奉的对象。这幅画像描绘的是作为神明的“东照大权现”徳川家康的形象。

江戸幕府を開いた初代将軍徳川家康の肖像画。その功績により死後は東照宮に祀られて神格化され、江戸時代を通じて信仰の対象となった。本図も神である「東照大権現」としての家康の姿が描かれている。(沓沢)



铭文带有“景光”二字的长刀 | 太刀 銘景光

Longsword engraved with the crafts man's name *Kagemitsu* (granted to Doi Toshikatsu by the second shogun, Tokugawa Hidetada)

日本南北朝时期 (1336—1392) | 南北朝時代 | Nanboku-Chō period (1336-1392)

长 77.3 厘米; 宽 2.4 厘米 | 長さ 77.3 cm 反り 2.4 cm | Length: 77.3 cm, width: 2.4 cm

加贺国 景光 (初代) / 作 | 加賀国 景光 (初代) 作 | Crafted by the First Kagemitsu from the State of Kaganokuni

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

带金属配饰的梨皮地水车纹泥金三叶葵纹缠柄长刀 梨子地水車紋散蒔絵三葉葵紋金具付糸卷拵

Maki-e longsword with gold flakes sprinkled onto the surface and decorated with the hollyhock emblem of the Tokugawa Shogun and images of a waterwheel, and a sharkskin-wrapped handle (granted to Doi Toshikatsu by the second shogun Tokugawa Hidetada)

17 世纪上半叶 | 17 世紀前半 | The first half of the 17th century

长 93.5 厘米; 宽 8 厘米 | 長さ 93.5 cm 反り 8 cm | Length: 93.5 cm, width: 8 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

这是土井利胜从第二代幕府将军德川秀忠手中领赏的长刀。配套的刀柄上配有土井家水车纹泥金彩绘的家徽, 因此一般认为, 刀柄是在获赠长刀后制作的。利胜是家康的堂 (表) 弟, 跟随效忠了家康、秀忠、家光三代将军, 历任老中 (幕府政务官)、大老 (幕府最高级幕僚)。他决定铸造宽永通宝, 取代此前流通的永乐通宝等明朝货币, 是一位为巩固幕府统治立下汗马功劳的人物。

土井利勝が二代將軍秀忠より拝領した太刀。付属のこしらえ拵は土井家の家紋である水車文の蒔絵が施されていることから、拝領後に製作されたものと思われる。利勝は家康の従弟にあたり、家康・秀忠・家光の3代に仕えて老中・大老を歴任し、それまで流通していた永楽通宝などの明銭に替わる寛永通宝の鑄造を決めるなど、幕政の基礎を固めるのに貢献した人物である。(沓沢)





18 世纪的北京与东京同为汇聚全国各地丰富物资及人才的巨大繁华城市。两座城市的城市景观以及熙攘繁华的景象，从《康熙六旬万寿图》《熙代胜览》等画卷及印版中可见一斑。为了满足旺盛的消费需求，各种行业及营生应运而生。

两座城市独有的自由豁达的氛围又孕育出特有的文化。如江户人喜好祭祀，他们在各地传统习俗基础上，开始举办独特的岁时活动，并乐在其中。此外，还出现了上至武士下至平民不论身份贵贱的“文化沙龙”，从而推动了文学、艺术、科学等文化领域的繁盛。



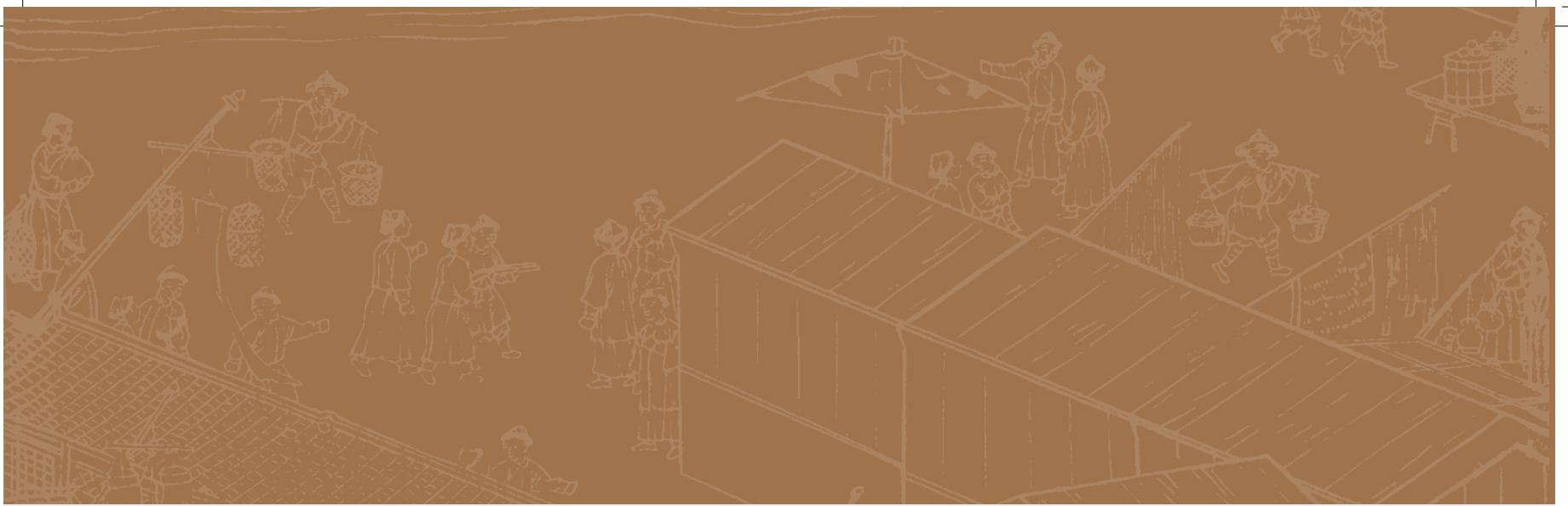


都市・生活

生 城 活 市

18世紀の江戸と北京は、共に全国各地から多種多様な物資や人材が集まる巨大消費都市であった。両都市の景観と繁栄や賑わいの様子は、「熙代勝覧(きだいしょうらん)」「万寿盛典「康熙六旬万寿盛典図(こうきろくじゅんぱんじゅせいてんず)」」などの絵巻や版本などの名所案内本類などが良く伝えている。旺盛な商品需要に応え、多種多様な業界や営みが生まれた。

両都市の闊達な雰囲気、独特の文化を育て、上げた。江戸の人々は祭り好きで、各地に伝えられた行事をもとに独自の年中行事も楽しんだ。また武士や町人の身分を超えた「文化サロン」が誕生し、文学・芸術・学問などの文化創造をうながした。



Urban life in Beijing and Edo

Being consumption-oriented, both Beijing and Edo were bringing an influx of wealth, goods and talented people into the

cities from every corner of the countries.

It is not difficult for us to imagine the hustle and bustle of Beijing and Edo from the vivid depictions in the paintings of “*Wan Shou Sheng Dian*” (Scenes of Emperor Kangxi’s 60th Birthday Celebrations) and “*Kidai Shōran*” (Excellent Views of Our Prosperous Age) respectively. Various of trades and professions emerged in both cities to accommodate the exuberantly growing demands of people’s needs.

As the result of the progressive development in trades and commerce in Edo by the 18th century, a liberal and open-minded way of thinking played an essential role in the formation of a distinctive, yet unique culture in Japanese society. For example, people in Edo were keen on festivities and ceremonies of worshiping, therefore some events were specifically created to incorporate popular traditional local customs. Moreover, cultural salons embraced people from all social backgrounds to join in. No matter to what social stratification they belonged, noble or not, samurai or civilians, all were welcomed. These cultural salons were powerhouses in recovering, promoting, and developing literature, arts and, learning.



都市
·
生活

《康熙六旬万寿盛典图》中的北京 万寿盛典にみる北京

《康熙六旬万寿盛典图》全书 120 卷，1717 年（康熙五十六年）发行，是记录康熙皇帝六十岁诞辰庆典活动的书籍，其中第 41 卷和第 42 卷为版画。书中刊载有 148 张图，前后相连，展开便是一幅长达 50 多米的画卷。所绘景致真实地再现了康熙皇帝从西郊离宫畅春园返回紫禁城时的盛大庆祝场面，一路銮仪执仗，沿街张灯结彩、戏台高筑、歌舞欢腾，图中也惟妙惟肖地描绘了看热闹的行人。

作者使用俯瞰描绘的手法，不仅画出了店铺和住宅的外观，甚至连院子、水井和房子内部都纤毫毕见，当时的百姓生活可见一斑。

『万寿盛典』（全 120 卷、1717 年（康熙 56）刊行）は、康熙帝の 60 歳の誕生祝賀行事を記録した書物で、その巻 41・42 は図版である。掲載された 148 枚の絵は、つなぎ合わせると一続きの絵になり、長さ 50 m 余りにもなる。康熙帝が、西郊の離宮・暢春園から内城にある紫禁城に戻るまでの行列と、沿道を彩る装飾や多種の演劇舞台など華やかな慶祝の様子が、忠実に描写され、見物に集まった人々も描かれる。

注目すべきは、その後ろに展開する背景である。俯瞰描写で店舗や住宅の表だけでなく中庭、井戸、建物の内部までも描かれ、庶民の暮らしが垣間見える。なかでも巻 41 の大通り脇の小路の入口に設けられた防犯用木戸や、武器を備えた番小屋は、江戸と共通する施設構成である。さらに店の業種が一目でわかる様々な看板や店先に並べられた野菜・豚の脚・漢方薬材等の商品、桶屋や車屋などの職人から洗濯物を干す人までもが描かれており、都市北京のしくみや人々の生活を如実に示している。

《康熙六旬万寿盛典图》（局部） 印版『万寿盛典』（康熙六旬万寿盛典图）（一部）

A section of the woodblock print of the Emperor Kangxi's 60th Birthday Celebrations

康熙五十六年（1717 年） | 康熙 56 年 | 1717

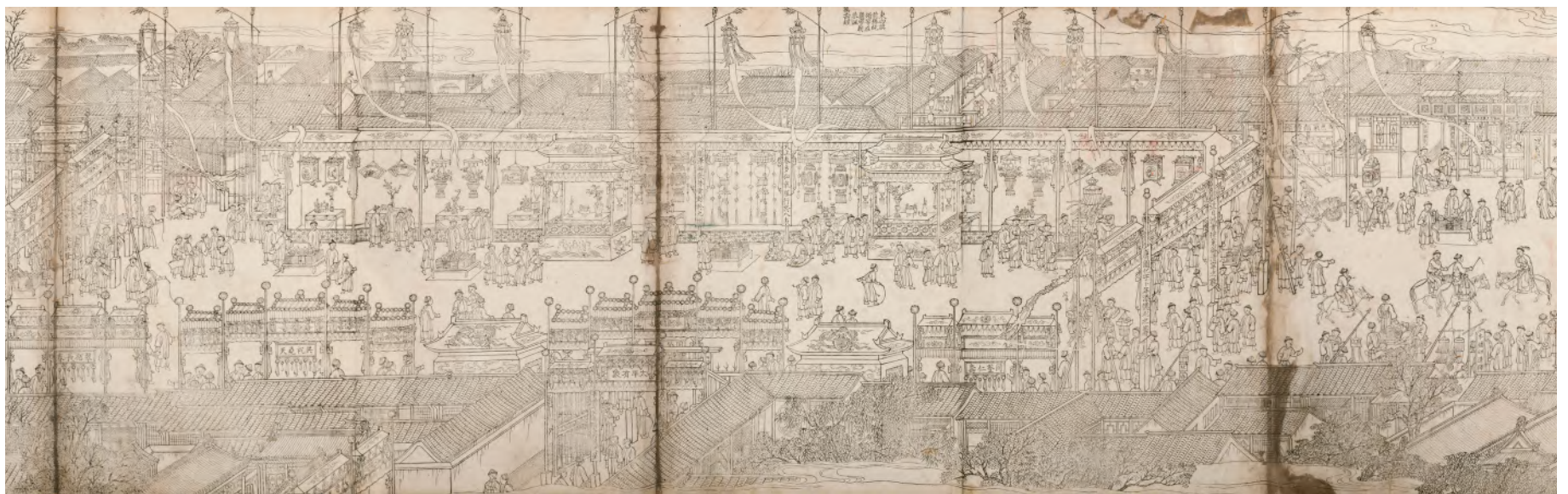
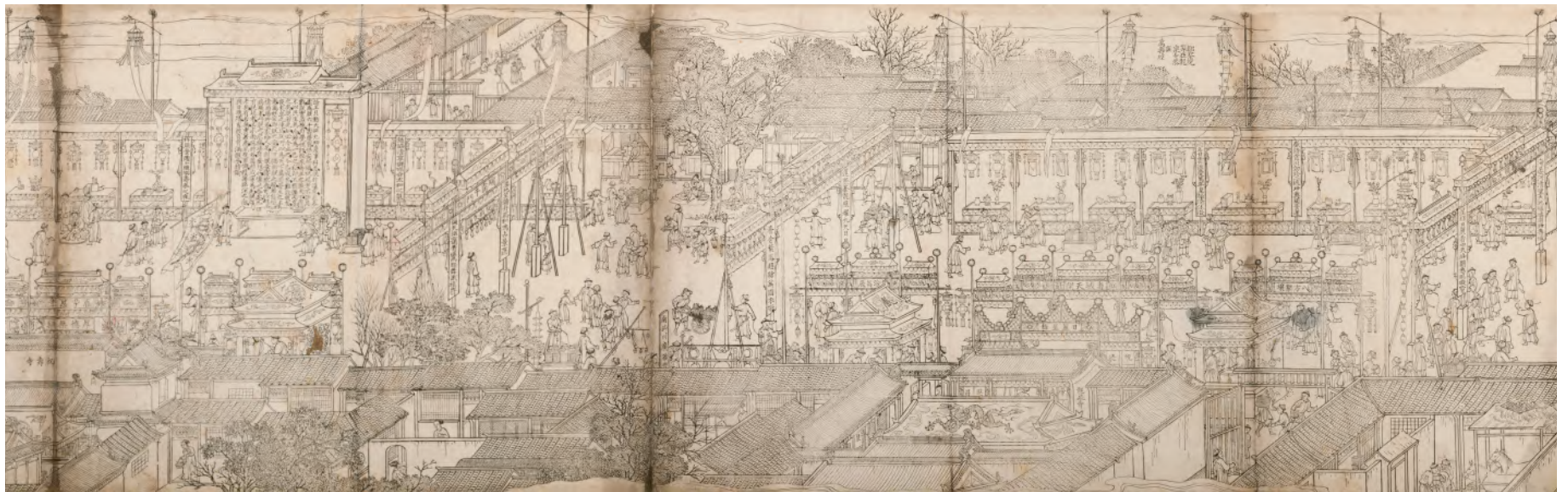
长约 1209.3 厘米；宽 26.7 厘米 | 全長約 1209.3 cm 縦 26.7 cm | Length: ca. 1209.3 cm, width: 26.7 cm

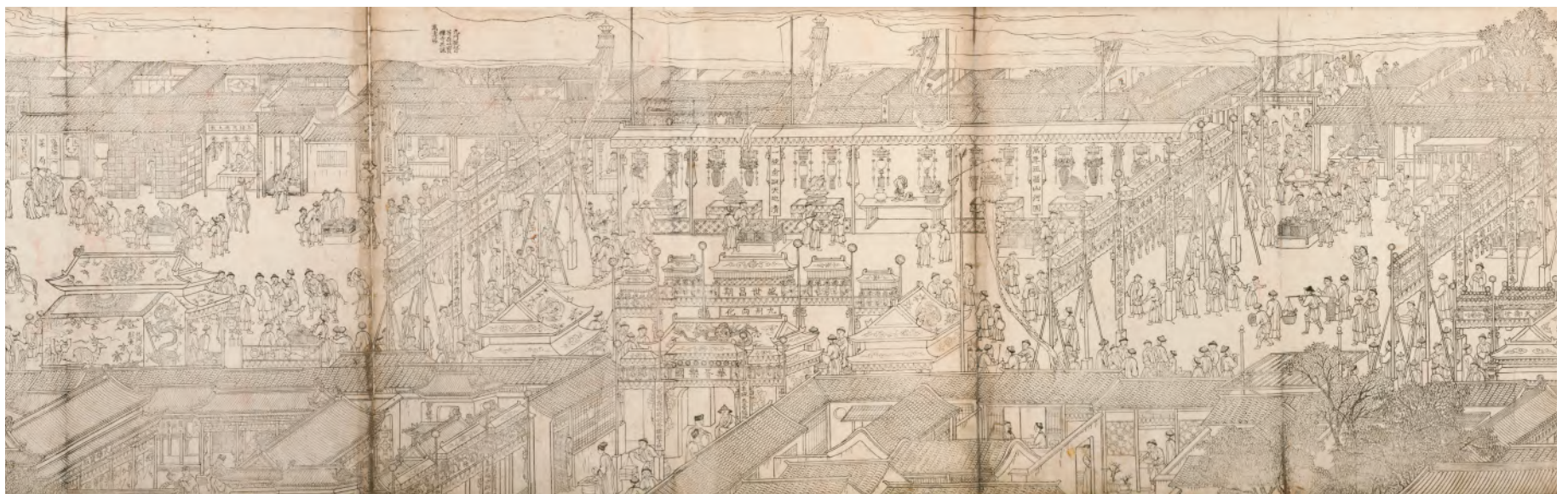
首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

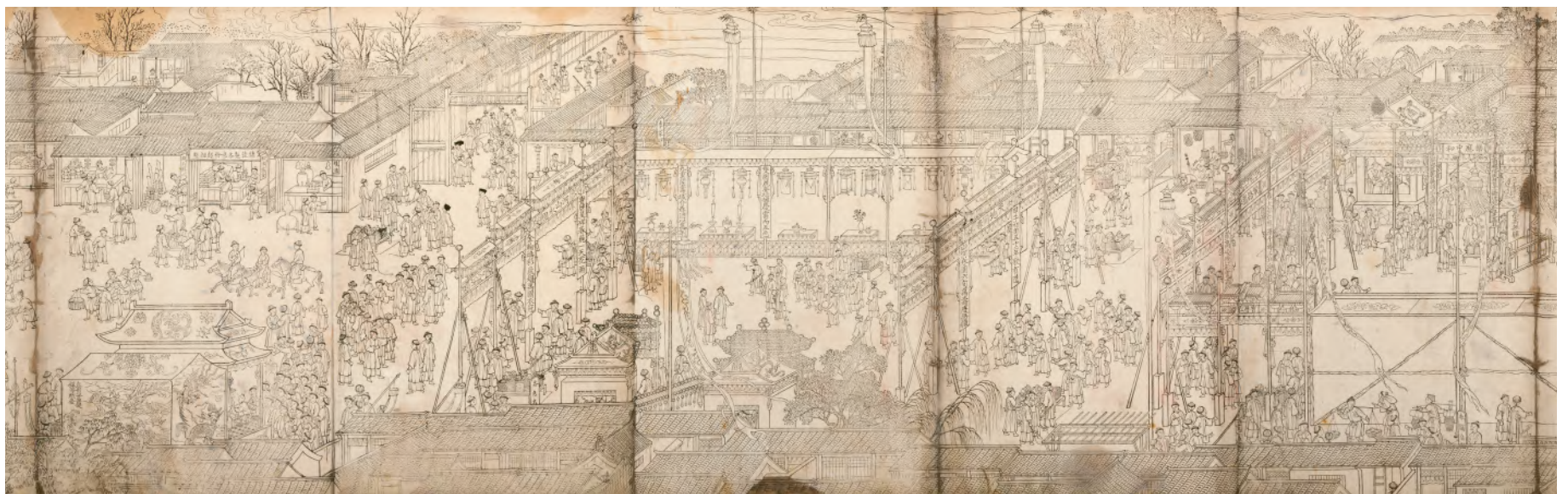
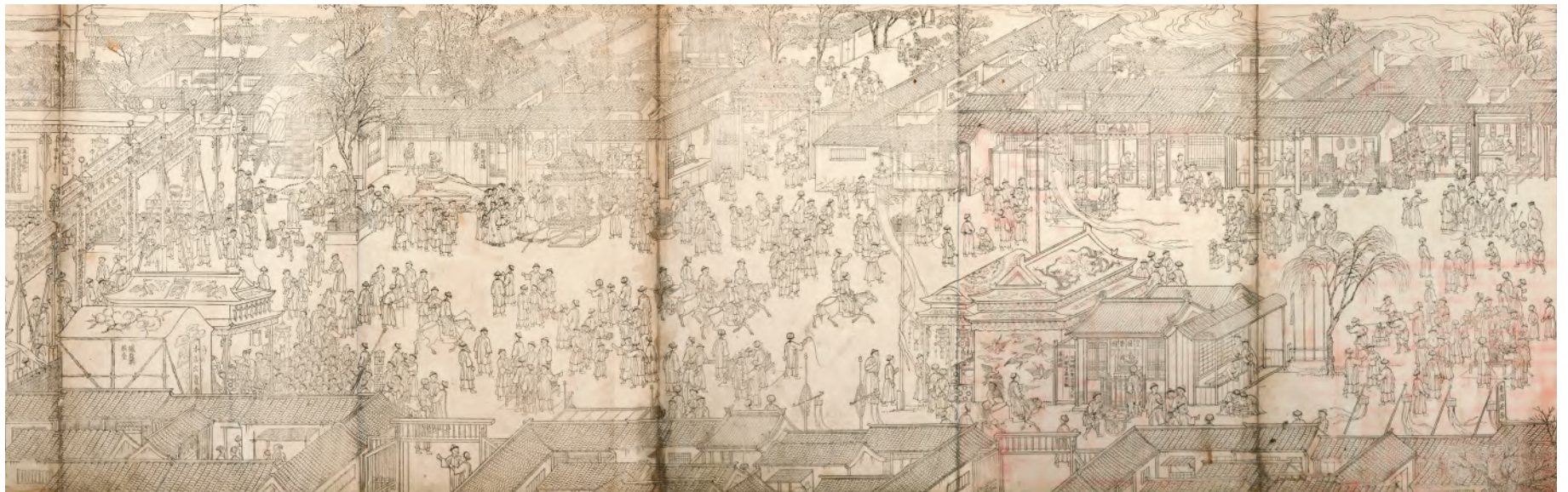
此图为木版画，载于《万寿盛典初集》刻本（全书 120 卷）的第 41 卷和第 42 卷。描绘了康熙六旬万寿节庆典盛况，真实地再现了康熙皇帝从西郊畅春园返回紫禁城的途中，官民迎接皇帝仪仗和贺寿的场景。此图的底本为绢本《万寿盛典图》，绘制于康熙五十二年五十六年（1713—1717 年），先后由宋骏业、王原祁、王奕清主持，冷枚等十余位画家执笔，但此绢本已毁于嘉庆二年（1797 年）乾清宫大火。此图对考察清代庆典活动和市民风情是难得的图像资料。

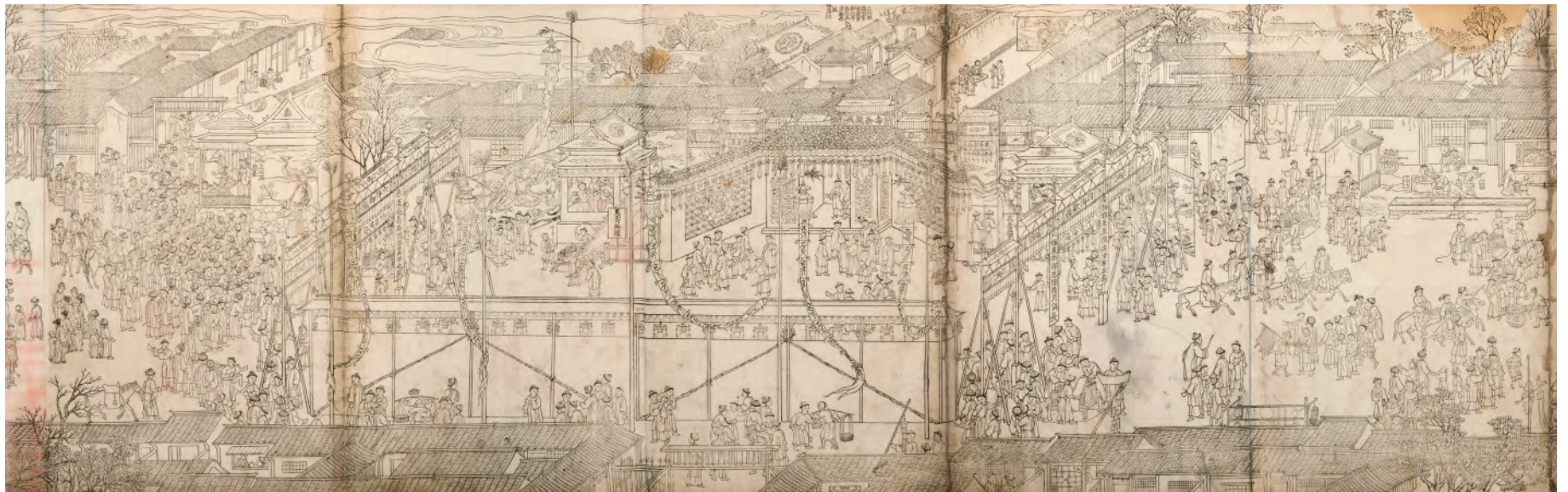
【万寿盛典初集】は、康熙帝の 60 歳を祝して帝の詩文や事績、祝賀行事などを記録したもので、家臣の献上の品リストや詩歌も掲載される。全 120 冊で、うち巻 41・42 は、西郊の離宮暢春園から紫禁城神武門に至る、帝の鹵簿（行幸）と沿道の祝賀の様子を描く。この木版の初版は、絹製『万寿盛典图』。康熙 52 年～56 年製（1713 - 1717 年）。嘉慶 2 年（1797 年）の乾清宫火事で焼失。











《熙代胜览》中的江戸生活

《熙代胜览》以俯瞰的视角，描绘的是神田今川桥至日本桥中间的市井街区，生动展现了神田今川桥西侧将近 90 家林立的商铺和鱼市等繁盛景象，以及各行各业、不同身份的人物形象。图中挨家挨户屋檐上悬挂的雨水桶，恐怕只有在火灾频发的江戸才能看到。从各家店铺所摆放的瓷器等商品，到让人对所售商品一目了然的蜡烛店招幌，这些所绘内容不仅使我们了解到经营项目，也能了解到营业状况。画面中出现的人物大约有 1700 人，有信使、轿夫、挑担行的脚商、药商、箍桶匠、耍猴儿艺人等等，充分展现了当时形态万千的各行各业和乡土人情。

熙代勝覽にみる江戸の暮らし

「熙代勝覽」は、神田今川橋から日本橋までのメインストリートを東側から俯瞰し、神田今川橋の西側に並ぶ 90 軒近くの商家や魚河岸などの繁盛と、様々な職種や身分の人々を生きいきと描く。天水桶をのせた屋根が連なる街並は、火事の多い江戸ならではの。各店に並ぶ瀬戸物などの商品や一目で売り物がわかる蝋燭屋などの看板からは、業種だけでなく営業形態までもが窺える。登場人物は約 1700 人で、飛脚、駕籠かき、荷を担いだ行商人や薬売り、桶の箍直し、猿回しなど、多様な生業と風俗が描かれている。

《熙代胜览》（日本桥繁华胜景长卷）（复制品）

《熙代勝覽》（日本橋繁盛絵巻）（複製）

The Kidai Shōran depicting the prosperity of the Nihonbashi district (replica)

约 1805 年 | 1805 年（文化） | Ca. 1805

全长 1232.2 厘米；宽 43.7 厘米 | 全長 1232.2 cm 縦 43.7 cm | Length: 1232.2 cm, width: 43.7 cm

原作收藏于柏林亚洲艺术博物馆 | ベルリン国立アジア美術館原蔵 | The original is collected in Museum für Asiatische Kunst (Asian Art Museum in Berlin)

© 柏林国家博物馆，亚洲艺术博物馆（汉斯·约阿希姆及英格·屈斯特原藏，曼弗雷德·鲍姆斯捐赠） |

© ベルリン国立博物館アジア美術館ハンス・ヨアヒム& インゲ・キュスター氏旧蔵，マンフレート・ボームス氏寄贈 |

© Staatliche Museen zu Berlin, Museum für Asiatische Kunst Former collection of Hans-Joachim and Inge Küster, gift of Manfred Bohms.

此图描绘了由神田今川桥绵延至日本桥一带商业繁荣，商铺鳞次栉比，行人熙熙攘攘的景象。画面中出现的人物大约有 1700 人，有信使、轿夫、挑担子的脚商和药商、箍桶匠、耍猴儿艺人等等，充分展现了当时形态万千的行业分工与乡土人情。根据为重建回向院寺而募集捐款的募捐箱上记载的文字推断，此图应是文化二年（日本光格天皇年号，1805 年）前后绘制的。虽然文化三年一场大火烧毁了那片区域，但凭此卷可以帮助回忆起火灾之前 18 世纪后期日本桥周边的景象。卷首题字为“熙代胜览”，有“帝王盛世·绝代美景”之意。

神田今川橋から日本橋までの日本橋通りにおける、商家が続く街並と人々で賑わう様子を詳細に描く。登場人物は約 1700 人で、飛脚、駕籠かき、荷を担いだ行商人や薬売り、桶の箍直し、猿回しなど、多様な生業と風俗が描かれている。回向院再建の勸進箱に記される文字から、文化 2 年頃の制作とされる。文化 3 年の大火で当該地域は焼失しており、それ以前の 18 世紀後半における日本橋風景が想起される。巻頭の題字「熙代勝覽」には、「熙ける御代の勝れたる景観」の解釈がある。（江里口）

熙代勝覽







第一节

居住

北京の内城，早在元代就已建成，连接城门的主干道——大街和城内纵横交错的枝干小路——胡同，形成了棋盘状的道路格局。北京代表性住宅“四合院”，因其四周建筑房屋，将院子围合在中间，故名四合院。从平民百姓居住的小院，到八旗王爷居住的王府，甚至皇家宫殿，都是在此形式基础上建成的。

江戸の地形は西北高、东南低，低地一侧也被称作“下町”（平民区），这里利用填海造地平整出很多土地，按照网格状的街区进行划分，形似围棋盘。江戸大部分土地被武士占据，然而“町人”（商人、手艺人）与武士的人口数量相差无几，因此他们的人均居住面积很小。特别是人口快速增长的18世纪以后，町人居住的“町屋”（日本都市中狭长的传统建筑群，两户之间共用一道墙，家家户户相连而每户单独出入，相当于中国城市中的临街的商铺或住宅）被称作“长屋”，几户人家分住在这一座长屋内的情况比较普遍。

居住する

北京は内城では元の時代にすでに城門を結ぶ幹線道路である「大街」と、内側を縦横に走る支線となる小路の「胡同」が整備され、碁盤の目状の街が形成されていた。一方外城は既に形成されていた市街を取り込む形で成立したため、不規則な町割となっており、細い胡同が入り組んで存在した。こうした胡同に面して多く建てられた、北京の代表的な住宅建築として「四合院」がある。中庭（院子）を囲んで四方に建物を配置することからその名があり、庶民の住む小規模なものから、旗王の住む王府やさらには宮殿まで、この形式を基本に建てられた。

一方江戸の地形は西北方面の台地と、東南方面の低地で構成され、下町とも呼ばれる低地側には埋め立てによって新たに造成された土地も多く、碁盤の目状の町割りが形成された。江戸の土地の大半は武家地が占めていたが、人口でいえば武士と町人にあまり差はなく、町人は密度の高い居住を余儀なくされた。そのため、特に人口の増加が進む18世紀以降、町人の住む町屋は「長屋」と呼ばれる、一棟の細長い建物に複数の世帯が住み分ける形態が一般的となった。



四合院模型（二进院落） | 四合院模型（二進院）

Siheyuan compounds with two layers of courtyards

现代 | 現代 | Modern

长约 110 厘米；宽 146 厘米；高 30 厘米 | 縦約 110 cm 横 146 cm 高さ 30 cm | Length: ca.

110 cm, width: 146 cm, height: 30 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

四合院是中国的传统住宅形制之一。因规模的大小、等级的高低，形成多种类型，常见的有：一进四合院、二进四合院、三进四合院、四进院落及复合式四合院。其中一进四合院是最基本的单位，基本形状是由东、西、南、北四面的房屋将“院子”（内院）合围起来，呈“口”字形。围出内、外两“院”，呈“日”字形的，称为二进四合院。三进院落呈“目”字形。大门多开在东南角，院中的北房为正房，通常是院子主人夫妇等长者居住。东西两侧厢房通常由晚辈们居住。南边的临街房屋用来做下人的居室或会客室等。

四合院は中国でみられる伝統住宅である。基本の形は、東、西、南、北の四面にある部屋から「院子」（中庭）を取り囲む「口」の字のようになる。「日」の字のような外と奥の二つの「院」がある場合は二進式の四合院と呼び、「目」の字の場合は三進式の四合院となる。玄関は東南または西北の隅に作られ、北に配置する主屋は主人夫婦など位が上の者が住む。東西両側の脇部屋は通常、子供たちが住む。南側の部屋は使用人の居室や応接室などに使われる。



广义窑记款砖、花纹砖

潘家胡同民居廣義窯記帶款磚（「広義窯記」刻印のある
磚）（左）潘家胡同民居后院廊心磚（中庭回廊の磚）（右）

House bricks bearing the mark of Guangyi kiln

民国（1912—1949） | 民国時代（1912—1949） | Republic of China (1912-1949)

左：长 16.5 厘米；宽 13.8 厘米；高 6.5 厘米；右：长 40.5 厘米；宽 14 厘米；高 6 厘米

| 左：縦 16.5 cm 横 6.5 cm 高さ 13.8 cm 右：縦 6 cm 横 40.5 cm 高さ 14 cm

| Left: length: 16.5 cm, width: 13.8 cm, height: 6.5 cm Right: length: 40.5 cm, width: 14 cm, height: 6 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

此为潘家胡同里的四合院所使用的建筑材料。其中一块根据砖上印刻的“广义窑记”文字可知烧制于“广义”窑。另一块有图案的砖上未刻有显示出处的文字，但有菱形花纹。2012年北京市西城区实施改建工程时收集。

潘家胡同と呼ばれる胡同にあった四合院の建築部材である。刻まれた「廣義窯記」という文字から「廣義」という窯で焼かれたものであることが分かる。模様がある煉瓦は出自が分かる文字が刻まれず、菱形の模様がある。これらは2012年、北京市の西城区において改修工事の際に収集された。



《教草女房形气》中的连排屋 | 《教草女房形気》より長屋の様子
 Illustration showing a well near a 'row house' from *Lessons on Good Characters for Wives*
 (*Oshiegusa nyōbō katagi*)

1846年 | 1846年(弘化3) | 1846

长 17.6 厘米; 宽 11.6 厘米 | 縦 17.6 cm 横 11.6 cm | Length: 17.6 cm, width: 11.6 cm

山东京山作 / 第三代歌川丰国 / 画 | 山东京山 / 作 / 歌川豊国(三代) / 画 | Authored by Santō

Kyōzan Depicted by the Third Utagawa Toyokuni

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

该展品以市井家庭的妻子为题材，收录了很多生动的插图，描绘了后街连排屋的生活场景，由此我们可以了解到长屋周边公共区域的概况。其中，连排屋住户共用的水井是非常重要的，它不仅可以提供水源，还成为杂居于此的人们社交的场所。另外，水井的水大多来自上游水道，这也是江户时期的一个特点。

町人家庭の女房を題材にした本資料には、裏長屋の暮らしをいきいきと描いた挿絵が多く収録されており、そこから長屋周辺の共有空間の様子も知ることができる。なかでも長屋の住人が共同利用していた井戸は重要で、水の供給源としてだけではなく、そこに集う人々のコミュニティとしても機能していた。また、井戸は上水(水道)から取水する上水井戸が多かったことも江戸の特徴である。(杏沢)





《柳髮新話 浮世床》(《理发店闲聊漫画册》) 初卷 连排屋胡同入口
りゅうはつしんわ うきよどこ
 《柳髮新話 浮世床》初編卷之上より長屋の路地の入口

Scene of an entrance to a narrow alley near to 'row house' from Comic Books: *Chatting in the Barber's Shop* (vol. 1)

1809 年 | 1809 年 (文化 6) | 1809

长 12.2 厘米; 宽 17.3 厘米 | 縦 17.3 cm 横 12.2 cm | Length: 12.2 cm, width: 17.3 cm

式亭三馬 / 著 歌川国直、溪斎英泉 / 画 | 式亭三馬 / 著 歌川国直、溪斎英泉 / 画 | Authored by Kikuchi Hisanori (pen name 'Shikitei Sanba') Depicted by Utagawa Kuninao and Keisai Eisen

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

胡同的中央是用木制盖子覆盖起来的下水道。江户时期的(城市)下水道系统很发达,其中连排屋的生活废水被汇集到这里后会从主街道的下水道排出。平民百姓即便未拥有自己的私人小花园,也会在家门口的两侧摆上些盆景,以此来享受园艺带给他们的乐趣。连盆景这样的货品,人们都可以轻易地从走街串巷的行脚商人那里买到。

路地の中央は、木蓋で覆われた下水道が延びている。江戸は下水道も発達しており、長屋における生活排水は、ここに集められ、表通りの下水に排出された。玄関脇には鉢植えの植物が置かれ、庭が無くても庶民が、園芸を楽しんでいたことがわかる。路地まで売り歩く行商人から、鉢植えの植物も手軽に手に入れることができた。(江里口)

连排屋所用民具大全 | 新板 手遊勝手道具づく

Household furnishings and implements from the 'row houses' in the Edo period

约 1847—1852 年 | 1847—1852 年（弘化 4—嘉永 5）頃 | Ca. 1847-1852

长 36.2 厘米；宽 24.9 厘米 | 縦 36.2 cm 横 24.9 cm | Length: 36.2 cm, width: 24.9 cm

胡蜂園盛信 / 画 | 胡蜂園盛信 / 画 | Artist: Kohōen Morinobu

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

画中展示的是江戸百姓日常使用的 97 种工具，其中多为厨房用具。但生活在连排屋的人，恐怕很少能拥有如此众多的工具。该画作所描绘的用具再加上床上用品和衣物，就是普通百姓所拥有的家当。

江戸の庶民が使っていた生活道具を並べた玩具絵で、台所で使用したものを中心に合計 97 種類の道具が描かれている。おそらく長屋暮らしではここまでの数の道具を所有することは少なかっただろうが、描かれたものに寝具と着物を加えたぐらいた、庶民が持つ家財の範囲としては一般的だった。（沓沢）



厨房用具袖珍模型 | ミニチュア台所道具 Miniature kitchen accessories

明治时期 (1868—1911) | 明治期 | Meiji period (1868—1911)

长 60.6 厘米; 宽 21.7 厘米; 高 31.6 厘米 | 縦 21.7 cm 横 60.6 cm 高さ 31.6 cm

| Length: 60.6 cm, width: 21.7 cm, height: 31.6 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

日本关西地区在每年3月3日玩偶节有把微型厨房用具和玩偶一起摆放出来的习俗,本展品是摆出来的微型用品之一。据推测,该展品制作年代应该是明治时期,和江戸时期制作的厨房小模型没有很大差异。这些囊括了当时厨房必备品的微型用具,是现代了解在那个没有自来水和煤气的年代,传统厨房用具的细节,也为研究人员提供了有价值的参考。

関西地方にはこうしたミニチュアの台所道具を3月3日の雛祭りの人形に添えて出す習慣があり、本資料もそのひとつと考えられる。製作年代は明治期と推定されるが、江戸時代のものとは大きな相違はない。およそ台所で必要な道具類を網羅しており、水道やガスなどが整備される以前の伝統的な台所道具の詳細を知る上で参考になる。(市川)



小田原提灯 | 小田原提灯

Odawara lantern (Collapsible portable lantern)

江戸时期 (1603—1867) | 江戸時代 (1603—1867) | Edo period (1603-1867)

直径 13 厘米; 高 34.5 厘米 | 径 13 cm 高さ 34.5 cm | Diameter: 13 cm, height: 34.5 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

这种圆盘状可折叠的便携式提灯，是小田原地区的手艺人发明的，所以该类灯具就以地名来命名。除了便于携带，还能防雨防雾，是江戸时期人们外出旅行的必备用品。

円盤状に折りたたんで持ち歩くことができる提灯で、小田原の職人が発明したとされることから、この名がある。携帯性に優れるほか、雨や霧にも強い作りになっていて、江戸時代の旅人たちの必需品であった。(沓沢)



老鼠灯台 | 鼠短檠

Oil lamp stand with a mouse figurine on top

江戸时期 (1603—1867) | 江戸時代 (1603—1867) | Edo period (1603-1867)

长 21.6 厘米; 宽 21.5 厘米; 高 55 厘米 | 縦 21.6 cm 横 21.5 cm 高さ 55 cm | Length: 21.6 cm, width: 21.5 cm, height: 55 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

这是一件有自动续油装置的灯具，通过在该灯具支架中的管子把盘子和老鼠形状的部分连接起来。当灯油变少时，在气压的作用下，从老鼠嘴处自动上油，该装置使油灯能够在较长时间内保持亮度，体现了江戸时期手工业制造的技术水平。

江戸時代の技術を示す灯火具の一種。支柱の中を通る管によって受け皿と鼠部分がつながれており、油が少なくなると、空気圧の作用で鼠の口から自動で給油されて、灯りを長時間維持できる仕組みとなっている。(沓沢)



第二节

经商

北京城是天下商货汇聚之地，是全国最大的商业贸易中心，除了繁华的商业街和众多的老字号外，街市中游走的各色行商小贩，让人足不出户就能买到东西。商贩们在遍布高墙大院的胡同里走街串巷，借助拨浪鼓和其他响器，让叫卖声愈加嘹亮以此招揽生意。

江戸是拥有百万人口的都市，因而也云集了各行各业的商人。除了从武士处收米换银的米商及鱼商以外，京都、大阪等地资本雄厚的大型商店也纷纷前来投资开店。另外，二手家具店、二手服装店、二手五金店等从事资源回收再利用的工商业者也很多。街道上货摊比比皆是，操持各种生计的人们往来穿梭。许多游走街市、挑担沿街叫卖的货郎，为了让人们明辨他们所卖的物品，其吆喝叫卖声也各具特色，此起彼伏。叫卖声不但响彻街巷，甚至传送到小巷深处的连排屋中。

商う

当時の北京は、あらゆる商品の集散地であり、国内随一の商業都市でもあった。大繁盛を極める商店街や数多くの老舗店のほか、市中には様々な行商人が往来し、家にいながらにして物を手に入れることができた。高い壁に囲まれた四合院の並ぶ胡同を行く商人は、太鼓や楽器などを活用して売り声を響かせた。

江戸も百万都市だけあって、多種多様な商人が集まっていた。武士の俸禄米を換金する札差^{ふださし}や魚河岸商人のほか、上方資本の大店も進出していた。また、古道具屋、古着屋、古鉄屋などの資源を回収・リサイクルする業者が多かったのも特徴である。通りには多くの屋台も並び、様々な生業の人々が往来した。市中を行商する小売商人、棒手振りも多く、売り物がわかるようにそれぞれ独自の売り声を競った。その声は、通りだけでなく路地裏の長屋にまで届いた。



老北京三百六十行画册 | 『老北京三百六十行图册』

Illustrated book showing various occupations and trade professions in Beijing

清 (1644—1911) | 清時代 (1644—1911) | Qing dynasty (1644-1911)

长 48.7 厘米 (展开); 宽 31 厘米 | 縦 31 cm 横 48.7 cm | Length: 48.7 cm, width: 31 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

此图描绘了清朝五花八门的行业。一册编入 50 图, 全十册共计 500 种。描绘了农夫、渔夫、地摊商、游商、工匠, 以及扫街的、卖艺的等等。画册打开的左边绘制的是耍猴人, 带着山羊和狗。右边绘制的是双簧, 一人在前表演, 一人在后配音。人物描绘形象生动, 场景真实, 着色鲜艳。

清代の多種多様な職業人が描かれる。1冊に 50 図が収められ、全 10 冊で計 500 種となる。農夫や漁夫、露店商、行商人、職人のほか、清掃人や芸人なども描かれている。本図左は、猿回しで、山羊と犬を連れている。右は、後ろに隠れた声優の語りに合わせてパントマイマーが演じる二人芝居である。



剃头挑子 | 剃頭挑子

Equipment used by a street barber

清 (1644—1911) | 清時代 (1644—1911) | Qing dynasty (1644-1911)

挑子: 高 141 厘米; 扁担: 长 132 厘米, 厚 4.5 厘米; 椅子: 长 44 厘米, 宽 26 厘米, 高 62 厘米; 响器: 长 23 厘米

| ストープ: 高さ 141 cm 竿: 長さ 132 cm 厚さ 4.5 cm 椅子: 縦 26 cm 横 44 cm 高さ 62 cm 換頭: 長さ 23 cm

| Stove load: height: 141 cm, shoulder pole: length: 132 cm, thickness: 4.5 cm; moneybox: length: 44 cm, width: 26 cm, height: 62 cm; a noise maker similar to a tuning fork: length: 23 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

老北京走街串巷的理发行当所用的一套工具, 包括剃头梳辮的工具; 水盆、烧水的火罐; 供顾客坐的木凳, 同时也是剃头师傅放置工具和货款的钱柜; 一条扁担、唤头等。其中“唤头”用来招揽生意。“唤头”形似音叉, 前端闭合, 中央有縫隙, 用一根 15 厘米长的钉子从縫隙中间向上挑, 就发出响亮的“嗡嗡”声。

街を廻って路上で営業する床屋の道具。椅子の下に掛けられた引出には、剃刀や櫛などの道具と金銭を収納する。洗面器の下は、湯沸かし用具。それに取り付けられた木の竿に下がる、先が閉じた音叉状の道具は換頭^{かんどう}で、これで客を呼び寄せた。中央の穴に長さ約 15cm の釘を入れ、上に向けて打ち鳴らすと、ワンワンと音が響く仕組みである。





招幌（药店）| 幌子（薬屋）

Apothecary sign

清（1644—1911）| 清時代（1644—1911）| Qing dynasty (1644-1911)
 长 92 厘米；宽 42 厘米 | 縦 92 cm 横 42 cm | Length: 92 cm, width: 42 cm
 首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

老北京中药店铺外悬挂的招牌。招幌中四方形和三角形的木雕板象征着折叠的膏药包，红黑两色丸药则象征着被视为万能药的膏药。膏药为固体，用火烘软，药丸放在四方形的布上展开，贴在患处。底部坠木雕鱼，寓意“富贵有余”和“子孙满堂”，因为鱼的发音同“余”和“裕”，而且鱼的繁殖力很强。

薬屋の看板で、四角形と三角形の木彫板は折り畳まれた膏薬の包を、赤と黒の丸が万能薬とされた膏薬を表徴している。膏薬は固体で、火にあぶって柔らかくし、四角い布に丸く延ばして患部に貼られた。最下段の魚形は、魚の音が「余」や「裕」に通じ繁殖力も高いことから「富貴贅沢」「子孫繁栄」の意味を持つ。同形の看板は『万寿盛典』にも描かれる。

黒木猴 | 黒木猴（帽子屋の猿看板）

Monkey-shaped hat shop sign

清（1644—1911）| 清時代（1644—1911）| Qing dynasty (1644-1911)
 长 69.1 厘米；宽 41.1 厘米 | 高さ 69.1 cm 横 41.1 cm | Length: 69.1 cm, width: 41.1 cm
 首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

木雕，猴身呈坐姿，后肢交叉，除了脸部、耳廓、屁股、胸部涂有红漆外，全身黑漆，前肢抱有一元宝（马蹄形钱币）。据传，早年北京前门外鲜鱼口路南有一家“田老泉帽铺”，入口左右两侧放置木雕黑猴，前爪抱一个金元宝。久而久之，黑猴就成为了帽店的老招牌。因形状酷似，推测这个木雕猴也应为帽店的招牌。

木製の猿像で、全身を黒色漆、顔と耳、尻部などを赤色漆で塗り、元宝と呼ばれる馬蹄型の銭貨を両手で抱える。かつて北京前門外の鮮魚口路にあった田老泉帽子店には、入口の左右に元宝を抱えた木彫の黒猿が飾られ、店の看板となっていた。黒猿は帽子屋の看板になりました。形状が酷似することから、本像も帽子屋の猿看板と考えられる。



招幌（银号） | 幌子（両替屋看板）

Private bank sign

清（1644—1911） | 清時代（1644—1911） | Qing dynasty（1644-1911）
直径 19.5 厘米；厚 4 厘米 | 径 19.5 cm 厚さ 4 cm | Diameter:
19.5 cm, thickness of the coin-shaped part: 4 cm
首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

老北京既可兑钱又兼借贷的店铺外悬挂的招牌。一枚大铜钱的上下串着钱串，顶部为金属制的帽形装饰。钱币和钱串为木制。钱币背面的满文意思是钱币铸造局宝泉，正面为“国宝源流”四字。

両替だけでなく貸付もした両替屋の模型看板。大きな銭貨を挟んで上下に緞銭（孔に紐を通した銭の束）を連ね、最上部に金属製の帽子型飾りを付す。銭貨と緞銭は木製で、銭貨は、背面に銭貨鑄造局寶泉を示す満州文字、表面には両替屋の看板に特徴的な「國寶源流」の4文字を記す。下端に下がる紅い布は、他の模型看板にも共通する。



招幌（醋店） | 幌子（酢屋看板）

Vinegar shop sign

清（1644—1911） | 清時代（1644—1911） | Qing dynasty（1644-1911）
长 67 厘米；宽 27 厘米 | 縦 67 cm 横 27 cm | Length: 67 cm, width: 27 cm
首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

悬挂于醋店门口，作为出售食醋的标志。黑色木板制成葫芦形状，正面刻“腊”“醋”、背面刻“醋”“魁”。“醋”与“酢”是通假字。“腊醋”是指腊月酿造的醋，这时酿的醋保质期长，不易变质。“醋魁”是指最上等的醋。

酢の販売店に掛けられた瓢箪形の看板。木製で、一部に朱塗が残る。表面に「臘」「醋」、背面に「醋」「魁」の漢字を刻む。「醋」は「酢」と同意で、「臘醋」は旧暦12月に醸造した酢をさす。この時期のものは変質しにくく賞味期限が長いとされる。「醋魁」は最上等の酢の意味。



铜茶汤壶 | 銅茶湯壺（お茶売りのやかん）

Copper teakettle

民国（1912—1949） | 民国時代（1912—1949） | Republic of China (1912-1949)

通长 60 厘米；高 44 厘米；直径 36 厘米 | 径 36 cm 高さ 44 cm 幅 60 cm（注ぎ口含む） | Length: 60 cm with spout, height: 44 cm, diameter: 36 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

用于冲泡北京传统小吃茶汤的铜壶，红铜制作。茶汤系以油炒面、藕粉等加糖并用开水冲泡而成的一种小吃。茶壶分壶心和壶肚两部分，壶心装燃煤，壶肚装水。壶底可收纳煤和火筷子。庙会时，对于烧香拜佛乏累一天、口干舌燥的妇女、老人和小孩来说，茶汤是受欢迎的小吃之一。

北京の伝統的な軽食「茶湯」を作るためのお湯を沸かす銅製のやかん。「茶湯」はキビ粉、レンコンの粉、或いはゴマやクルミを加えて炒ったムギ粉に熱湯を注ぎ、砂糖を入れたもの。やかんは中心とそりの周りの部分に分けられ、中心部には燃する石炭を、また周辺には水を入れる。やかんの底は石炭と火箸が収納できる。廟会（お寺の祭）の際などに供され、疲れて喉が渴いた女性、老人や子供たちに人気があった。



拨浪鼓

でんでん太鼓（行商人用）

Pellet drum used by haberdasher to attract customers

民国（1912—1949） | 民国時代（1912—1949）

| Republic of China (1912-1949)

柄长 30 厘米；鼓直径 21 厘米；厚 10 厘米 | 柄：長さ 30 cm 太鼓：直径 21 cm 厚さ 10 cm

| Handle length: 30 cm, drum diameter: 21 cm, depth: 10 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

老北京走街串巷卖针线、布头和妇女用品等百货的小商贩，为了招揽客人而使用的小鼓。

針糸や布、女性の日用品などの行商人が、客寄せのために使用した鳴りものの太鼓である。『万寿盛典』や『老北京三百六十行図冊』にも度々描かれている。



货郎钱箱 | 貨郎錢箱

Money box of itinerant traders

民国（1912—1949） | 民国時代（1912—1949）

| Republic of China (1912-1949)

长 43 厘米；宽 14 厘米；高 22.5 厘米 | 縦 43 cm 横 14 cm 高さ 22.5 cm | Length: 43 cm, width: 14 cm, height: 22.5 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China



此为老北京走街串巷出售货品的货郎（肩挑货担走街串巷，卖小日用品、化妆品和儿童玩具等的小商贩），随身携带、存放货款的木箱。

北京市内を行商する貨郎（婦人・子供用の小間物や玩具などを担いで売り歩く行商人）の錢入れ。担いで携行した。

药铃 | 藥鈴（路上の医者が集客用に鳴らす鈴） Bell used by folk healthcare practitioners to attract customers

清（1644—1911） | 清時代（1644—1911） | Qing dynasty (1644-1911)
内直径 1.2 厘米；外直径 5.9 厘米 | 内径 1.2 cm 外径 5.9 cm | Inner diameter: 1.2 cm,
outer diameter: 5.9 cm
首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China



市内行医看病的先生或卖药小贩招揽生意用的响器。手指伸入环中转动，铁环内部的小铁珠子撞击环壁发出声响，北京人又称其为“虎撑子”。相传是唐初名医孙思邈的发明，为了给喉咙肿痛的老虎治病，又不被老虎咬伤，便放入铜环撑住虎口。

市内を流しながら薬販売や患者を診る医者が、客引きのために鳴らした道具。輪の中に指を入れて回し、中の鈴を鳴らす。北京の人は、これを「虎撑子」とも呼んだ。その謂れは、孫思邈（唐初に活躍した医者、神仙家、薬上真人）が喉を腫らした虎を治療した際に、噛みつかれないよう虎の口に銅製の輪を嵌めたという故事に由来する。

药箱 藥箱（路上で治療する医者 の手提藥箱）

Portable medicine box used by folk
healthcare practitioners

民国（1912—1949） | 民国時代（1912—1949）
 | Republic of China (1912-1949)
长 32 厘米；宽 22.5 厘米；高 26 厘米 | 縦 22.5 cm
横 32 cm 高さ 26 cm | Length: 32 cm, width: 22.5
cm, height: 26 cm
首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

此为中医出诊郎中手提的药箱，中间分隔成若干个抽屉，存放必备的藥物以及诊脉、针灸等医治病人的工具。

流しの医者が往診に携行した手提げの薬箱。中は引出が小さく分かれていて、薬や脈を診る道具、針治療具などの治療用具類を収納した。



铜钱（乾隆通宝）（1套2件）

銅錢（乾隆通寶）

Copper coins (Qianlong Tongbao)

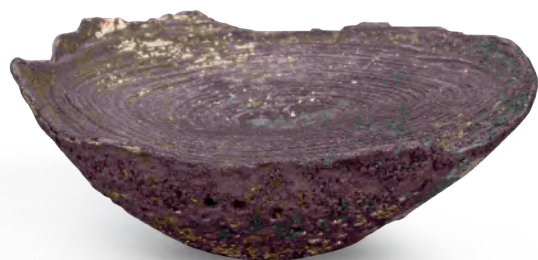
清乾隆时期（1736—1795） | 清乾隆期（1736—1795） | During the reign of Qianlong, Qing dynasty (1736-1795)

直径 2.8 厘米 | 径 2.8 cm | Diameter: 2.8 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

乾隆时期铸造并通用的货币，一面铸有“乾隆通宝”四字，一面铸有满文。黄铜制，钱体十分规整。根据钱币中央的方孔和周边的轮廓及背面文字的形状来分析，为乾隆时期官方的钱币铸造机构——宝泉局所造。

乾隆元年（1736）初鑄の錢貨。表面に「乾隆通宝」の4文字が、背面には満州文字が表されている。中央の孔とその周りの郭、及び背面文字の形状から、政府の錢貨鑄造機関である北京の宝泉局で鑄造されたものと考えられる。



银錠（1套2件） | 銀錠

Silver sycee (silver ingot currency)

清（1644—1911） | 清時代（1644—1911） | Qing dynasty (1644-1911)

上图：长 4.9 厘米，宽 3 厘米；下图：长 4.4 厘米，宽 3.4 厘米 | 上の図：

縦 4.9 cm 横 3 cm 下の図：縦 4.4 cm 横 3.4 cm | Above: length: 4.9

cm, width: 3 cm Below: length: 4.4 cm; width: 3.4 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

银錠，即熔铸成錠的白银，中国古代货币。始自汉代具有货币价值，明朝后期，成为主要货币流通。

銀錠は、白銀を錠形に鑄造した中国古代の錢貨で、漢代より清朝に至るまで主要錢貨として流通した。本資料は、元宝と呼ばれる形で、頂端に1つの突起があり、その周囲に幾重もの波紋を刻む。

《近代职业大全》之雨衣店及其他店铺的场景 「近世職人絵巻」より合羽屋などの様子

Scene of a rainwear shop and a monkey trainer from *Kinsei Shokunin-e Zukushi*
(*Illustrations of Various Occupations and Professions*)

1890年 | 1890年(明治23) | 1890

长 1035 厘米 (卷轴展示 89 厘米); 宽 36.5 厘米 | 全長 1035 cm 縦 36.5 cm | Length: 1035 cm (89 cm on display), width: 36.5 cm

狩野晏川 / 作 (北尾政美 / 原作) | 狩野晏川 / 画 北尾政美 / 原画 | Artist: Kanō Ansen (original by: Kitao Masayoshi)

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

画作左上方依次排列着烟袋店、小型收纳用具专卖店、烟草店，还有路过店铺门前的耍猴人。左下方画有桐油雨衣店的工作场景，雨衣店挂着的招牌模仿展开的雨衣形状。将桐油涂在日本制的纸张上制作雨衣，防水效果好，而且轻便、易于折叠，是旅行的必备物品。描绘这一行业的画面出现在《熙代胜览》中。

画面左上より煙草入れ屋、袋物屋、煙草屋が並び、その前を猿回しが歩く。そして左下には広げた合羽の形を模した看板を下げた桐油合羽屋の作業風景が描かれる。和紙に桐油をひいて作る合羽は防水効果が高く、しかも軽くて折り畳みも容易なため、旅の必需品であった。描かれている業種はいずれも「熙代勝覧」に登場する。(沓沢)



西式日本风俗画页 | 洋風日本風俗画帖

Picture album depicting various trade professions in the city of Edo, painted in Western style

江戸末期（1842—1867） | 江戸末期（1842—1867） | Towards the end of Edo period (1842-1867)

长 28.7 厘米；宽 19.2 厘米；厚 1.2 厘米 | 縦 19.2 cm 横 28.7 cm 厚さ 1.2 cm | Length: 28.7 cm (unfold length: 55.9 cm), width: 19.2 cm, thickness: 1.2 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

西式装订的画册，作者不详，但卷尾处有署名为“J. W. Beackwith”的“A collection in yedo May 1866”的记录。据推测此人是幕府末期来到日本，收集到这些画页。它以独特的笔触描画了江戸的各行各业、节日活动、人物等，与《熙代胜览》一样，可以从了解当时江戸地区人民的生活。

洋装の装丁がなされた画帳で作者などは不明だが、巻末には「A collection in yedo May 1866」というメモと「J.W.Beackwith」の署名があり、幕末に来日した人物が入手し持ち帰ったものと推察される。江戸の様々な生業や行事、人物などが独特の筆致で描かれており、熙代勝覧と同様に江戸の暮らしの一端を見ることができる。（沓沢）





蜡烛店招幌 | 蠟燭屋看板 Shop sign belonging to a chandler

江戸时期～明治时期（1603—1912） | 江戸～明治期

Between the Edo period and the Meiji period (1603-1912)

长 75.5 厘米; 宽 29.5 厘米; 厚 2.7 厘米 | 縦 75.5 cm 横 29.5 cm 厚さ 2.7 cm | Length: 75.5 cm, width: 29.5 cm, thickness: 2.7 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

在蜡烛店的招幌上，绘有蜡烛并写有“清浄生挂”的文字。“生挂”是关于如何制作蜡烛的术语，可在《熙代胜覧》中找到同类招牌。当时，蜡烛是婚丧嫁娶及祭祀等特殊场合才使用的高档物品，平民百姓则以鱼油、菜籽油等作为燃料去点亮一种纸糊的灯笼作为日常照明的光源。

蠟燭を扱った店の看板で、蠟燭の絵とともに「清浄生掛」の文字がある。生掛とは製法を指す言葉で、「熙代勝覧」に描かれた同種の看板にも記載が見られる。当時、蠟燭は冠婚葬祭などの特別な場で使用する高級品で、庶民は魚や菜種などから採った油でともし^{どん}灯などを日常の光源に用いていた。

药铺招幌（治疗小儿疳积） 薬屋看板「むしおさへ蒼龍丸」 Apothecary sign (treating children for worm infestation associated with malnutrition)

江戸时期（1603—1867） | 江戸時代 | Edo period (1603—1867)

长 95.6 厘米; 宽 32.7 厘米; 厚 2.4 厘米 | 縦 95.6 cm 横 32.7 cm 厚さ 2.4 cm | Length: 95.6 cm, width: 32.7 cm, thickness: 2.4 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

坐落在本乡金助街区（今东京都文京区本乡第三街区）一家药店的招幌。招幌上写的苍龙丸是用来缓解由腹内寄生虫引起的腹痛症状的药。在江戸，悬挂招幌的店铺一般是比较富有的。药店、和服店、钱庄、粮店及木材铺等，都算是富裕的商家。

本郷^{きんすけちよう}金助町（現在の東京都文京区本郷三丁目）にあった薬商人の看板。看板にある蒼龍丸は、腹痛の原因となると信じられていた体内虫を駆除して症状を和らげる薬として知られていた。江戸において看板を掲げられる商人は一部の富裕商人に限られていたが、薬屋は呉服屋、両替屋、米屋、材木屋などと同様に富裕商人の多い職種のひとつであった。（市川）





扇子屋招幌 | 扇子屋看板 | Fan shop sign

江戸时期～明治时期（1603—1912） | 江戸～明治期 | Between Edo period and Meiji period (1603-1912)

长 68.2 厘米；宽 16 厘米；厚 8.7 厘米 | 縦 68.2 cm 横 16 cm 厚さ 8.7 cm | Length: 68.2 cm, width: 16 cm, thickness: 8.7 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

出售扇子店铺的招幌。江戸时期，平民百姓在参加成人典礼、婚丧嫁娶等重要场合或仪式中都会有手持扇子、折扇的习俗，因此市面上出现了很多销售扇子的商铺来满足人们对礼仪用扇子日益增长的需求。

扇子を販売する商店の看板。江戸時代、冠婚葬祭などの儀礼用に扇子を持つ習慣が庶民にも定着すると、結婚式などの引き出物としても需要が高まり、贈答用の高級な扇子を販売する商人が登場した。（市川）

钱庄招幌（寛永通宝） | 両替屋看板（寛永通宝）

Shop sign belonging to a Money Changer

江戸时期～明治时期（1603—1912） | 江戸～明治期（1603—1912） | Between Edo period and Meiji period (1603-1912)

长 10.9 厘米；宽 11.5 厘米；厚 0.9 厘米 | 縦 10.9 cm 横 11.5 cm 厚さ 0.9 cm | Length: 10.9 cm, width: 11.5 cm, thickness: 0.9 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

钱庄（货币兑换所）的招幌，其造型模仿了寛永通宝的形状。江戸时期的货币兑换业务有两种：一是提供货币兑换、贷款、汇兑等多项金融业务；另一种则只提供金银钱币之间兑换业务。这两种店铺有所区别，因此，从这家店铺的招幌上看，应该是只提供钱币兑换业务的兑换所。虽然具体制作年代不详，但从背面的波纹上判断，该招幌应该是在 1768 年（明和五年）有波纹的寛永通宝首次问世后出现的。

寛永通宝の形を模した銭両替商の看板。江戸時代の両替屋には、両替と貸付・為替といった金融の両方を手がける本両替と、金銀と銭の両替だけを行う銭両替の区別があったが、この看板は銭両替のものと考えられる。作成年代は未詳であるが、看板裏面に波模様があることから、波模様をもつ寛永通宝が初めて登場した 1768 年（明和 5）以降の看板であることがわかる。（市川）



醋店招幌 | 看板（お酢） | Vinegar shop sign

江戸时期（1603—1867） | 江戸時代（1603—1867） | Edo period (1603-1867)

长 60 厘米；宽 49 厘米；厚 3.5 厘米 | 縦 60 cm 横 49 cm 厚さ 3.5 cm

| Length: 60 cm, width: 49 cm, thickness: 3.5 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

店铺招幌的图案主题常常会和该店铺所售卖的商品有直接联系，本展品就是以装醋的瓮作为装饰图案而为醋店设计的一款招幌。在《熙代胜览》中，多次出现醋店招幌。

商う品物をモチーフにした看板を掲げる店は、日本においても中国においてもよく見られ、『熙代勝覧』などにも複数描かれている。資料は酢を入れたかめ甕をモチーフにした酢屋の看板。（沓沢）

行脚商的背箱 | 行商人の背負い箱

Chest carried by itinerant merchants to hold their wares

江戸时期 (1603—1867) | 江戸時代 (1603—1867) | Edo period (1603-1867)

长 51.8 厘米; 宽 31.7 厘米; 高 82.3 厘米 | 縦 51.8 cm 横 31.7 cm 高さ 82.3 cm | Length: 51.8 cm, width: 31.7 cm, height: 82.3 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

可能是行脚商使用的背箱, 靠背的部分被削平, 并配有穿背带的金属件。打开带锁的箱门, 里面设有 10 层抽屉, 抽屉里面又被隔成小间隔。由此推测, 这是经营日用百货等小商品的商人所使用的。

行商人が使用したと思われる箱で、背に当たる部分は削って角を取ってあり、背負い紐を通すための金具も付属している。鍵の掛かる扉を開けると中には 10 段の引出が設えられている。引出の中が細かく仕切られていることから、小間物などのこまごまとした品を扱う商人が使ったものと考えられる。(沓沢)





行脚商^{じょうざいや}的薬箱 | 定齋屋の薬箱

Medicine chest carried by itinerant dealer in traditional medicines

大正时期~昭和时期(1912—1989) | 大正~昭和期(1912—1989) | Taishō period~Shōwa period (1912-1989)

长 42.5 厘米; 宽 156.5 厘米; 高 97 厘米 | 縦 42.5 cm 横 156.5 cm 高さ 97 cm | Length: 42.5 cm, width: 156.5 cm, height: 97 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

这是走街串巷的买药小贩挑的药箱，专卖治疗中暑的药品。用棍棒穿过两个这样的箱子，这种用肩挑的方式售卖药品的工具在行脚商中被普遍使用。《熙代胜览》中也画有挑着这种箱子的行脚商。

暑気当たりの薬を売り歩く「定齋屋」が担いで使用した薬箱。このような箱2つに棒を渡して下げ持つ形の道具は行商でよく用いられた。『熙代勝覧』の中にも、こうした箱を担いだ行商人らが描かれている。(沓沢)

飞毛腿的装束 | 飛脚の装束

Garments worn by *hikyaku* courier

1864 年 | 1864 年 (元治元年) | 1864

日式短褂: 身长: 80.5 厘米, 袖长: 58.5 厘米, 袖宽: 52.5 厘米 胸甲: 身长: 55.9 厘米, 幅面宽: 26.7 厘米 | 法被: 身丈 80.5cm 衿丈 58.5cm 袖丈 52.5cm 胸当: 丈 55.9cm 幅 26.7cm | *Happi* coat: body length: 80.5 cm, length of a sleeve: 58.5 cm, width of a sleeve: 52.5 cm; chest protector: body length: 55.9 cm., width: 26.7 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

飞毛腿是用马匹或凭借脚力来送达书信、行李等各种物品的一种职业。江户时期, 长途通信主要依靠飞毛腿来完成。这份职业的业内分类很细, 除专送幕府公文的飞毛腿和为负责江户城中的封建领主府邸与其领地之间的联络而设立的官府公用飞毛腿外, 民间还有每月 3 次往返江户、京都、大阪三地的飞毛腿和承接江户市内邮送业务的飞毛腿等。

飛脚とは信書や荷物などを馬と自身の足で運び届ける職業で、江戸時代においては遠距離間の主要な通信手段であった。その種類は様々で、幕府の公用文書を運ぶ継飛脚や、大名家が江戸の藩邸と国元を結ぶために設けた大名飛脚といった公的なもののほか、民間でも江戸・京都・大阪を月に 3 回往復する三度飛脚や、江戸市中での輸送を受ける町飛脚などがあった。(杳沢)

飞毛腿使用的货箱 | 飛脚箱

Carrying box containing goods and messages for delivery used by *hikyaku* couriers

江戸后期 ~ 明治初期 (1746—1912) | 江戸後期 ~ 明治初期 (1746—1912)

| Between the late Edo period and the early Meiji period (1746-1912)

长 27.6 厘米; 宽 39.7 厘米; 高 38.5 厘米 | 縦 27.6 cm 横 39.7 cm 高さ 38.5 cm | Length: 27.6 cm, width: 39.7 cm, height: 38.5 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

这是飞毛腿用来运送物品的箱子。将收取的货物放在里面, 用杆子穿过箱子上安装的金属部件, 挑着赶往目的地。

飛脚が用いた輸送用の箱で、預かった荷物を中に入れて金具に棹を渡し、それを担いで目的地へと走った。(杳沢)





商家金泽丹后自由出入水戸徳川家の牌符 菓子職人金沢家が使用した水戸徳川家出入鑑札

Entry pass to the Mito Tokugawa domain residence for the Kanazawa family –
the *wagashi* pastry maker

1810年9月 | 1810年(文化7)9月 | September, 1810

长 11.7 厘米; 宽 8.2 厘米; 厚 1.8 厘米 | 縦 11.7 cm 横 8.2 cm 厚さ 1.8 cm | Length: 11.7 cm, width: 8.2 cm, thickness: 1.8 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

这是为点心制作师金泽家族颁发的出入水戸徳川家官邸的身份证明牌。进入官邸时手持此牌的人需要向门口值班的人出示，无论白天夜晚都可以进入水戸家的宅邸。一般情况下，出入江戸地区大名（高级幕僚、幕府家臣）的宅邸要受到非常严格的限制，但是给需要经常出入官邸的特供货商颁发这样的通行牌在当时是很常见的。

将軍家の親族であった水戸徳川家の御出入御菓子職人金沢家に対して発行された藩邸出入り鑑札。この鑑札を持つ者は、門番に提示することで昼夜を問わず水戸家の屋敷に出入りすることができた。一般に江戸の大名屋敷は出入りが厳しく制限されており、藩邸に頻繁に出入りする必要がある御用商人などにはこのような鑑札が通行証として交付されるのが一般的であった。（市川）

“金泽收取证明”印章（商家金泽丹后的印章） 菓子職人金沢家が使用した印鑑「受取金澤」

Seal for acknowledgement of receipt, owned by the Kanazawa family

江戸后期（1746—1841） | 江戸後期（1746—1841） | Late Edo period (1746-1841)

长 1.9 厘米；宽 1.3 厘米；手柄长 4.5 厘米 | 印面：縦 1.9 cm 横 1.3 cm 長さ 4.5 cm | Stamp size: 1.3 cm, High: 1.9 cm, seal length: 4.5 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

江戸首屈一指の点心制作師——金澤家族企業使用过的木制印章。印章上刻有“金泽收取”的字样，加盖在企业文件和经营账簿上用以记录物品接收、资金往来等日常业务。在当时，能够做成自家商号的企业专用印章，并在经营账簿上使用它，是衡量商户经营规模和发展的一项重要指标，通过这枚印章不难看出金泽家族的生意十分兴隆。

江戸有数の菓子職人金沢家で使われた業務用の木製印鑑。印面には「受取金澤」と彫ってあり、物品や代金などを受け取ったことを証するため業務用文書や経営帳簿に使われた。業務用の印鑑の製作は、経営帳簿の使用と並び、その経営の規模と発展を示す指標であり、金沢家の繁昌ぶりをうかがわせる。



算盘 | そろばん | Abacus

1833 年 | 1833 年 | 1833

长 43.4 厘米；宽 12.1 厘米；厚 2.5 厘米 | 縦 43.4 cm 横 12.1 cm 厚さ 2.5 cm | Length: 43.4 cm, width: 12.1 cm, thickness: 2.5 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

算盘据记载在明朝时由中国传入日本。江戸时期的算盘一般是七珠算盘，有 2 个代表数字 5 的上珠和 5 个代表数字 1 的下珠。私塾里用算盘教授的数学在当时是一门基础学科，老百姓也广泛学习使用。

算盤は明代の中国から日本へ伝わったとされている。江戸時代には資料のような五珠 2 つ、一珠 5 つの七つ珠算盤が一般的だった。算盤を利用した数学は寺子屋などで教えられる基礎的な学問として、庶民にも広く学ばれていた。（沓沢）



江戸时期流通的货币

鎌倉幕府和室町幕府均未在统治时期发行自己独有的货币，而只是在日本国内流通了像“永乐通宝”等在中国铸造的钱币。与此相对的是，在战国时期用武力建立起来的德川幕府统一管理着日本境内的金矿和银矿，并垄断了货币铸造权。江户德川幕府的货币制度规定了官方汇率，其中1两金等于50两银（1700年以后为60两银）或等于4贯钱（1842年以后相当于6贯800文钱）。在当时波动的市场行情中，这种金银质地的钱币和其他质地的钱币之间的互换独具特色。但由于江户德川幕府对金银币及其他钱币进行反复铸造，使得货币的贵金属纯度大幅下降，最后不得不用省下来的差值去贴补幕府的财政赤字。这样的做法逐渐导致了货币贬值、物价飞涨，普通百姓的生活苦不堪言。

江戸時代の貨幣

鎌倉幕府・室町幕府は日本独自の通貨を発行することなく、永楽銭など中国で鑄造された銭貨が日本国内で流通するのみであった。これに対して戦国時代を武力で統一して成立した徳川幕府は、全国の金山・銀山を支配して貨幣の鑄造権を独占した。江戸幕府の貨幣制度は、金貨・銀貨・銭貨が、金1両＝銀50匁（1700年以降60匁）＝銭4貫文（1842年以降6貫800文）の公定レートが定められていたが、社会では金貨・銀貨・銭貨が日々変動する相場で相互に交換されていた点に特質があった（三貨制度）。徳川幕府は、金貨・銀貨・銭貨の改鑄を繰り返すたびに含有貴金属の品位を低下させ、その差益をもって逼迫する幕府財政に補填した。こうした貨幣価値の切り下げは物価高を引きおこし庶民を苦しめることになった。（市川）



小判 | 享保小判

Kyōhō koban, oval shaped gold coin

享保时期 (1716—1736) | 享保年間 (1716—1736) | Kyōhō period (1716-1736)
长 6.9 厘米; 宽 3.8 厘米 | 縦 6.9 cm 横 3.8 cm | Length: 6.9 cm, width: 3.8 cm
江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

“小判”也被称为“小判金币”，是江户时期正式流通的面额为一两的金币。在中国使用的重量单位“两”也被江户时期的日本作为金币的单位来使用。一枚小判是一两金的计量货币，这里的“两”与重量无关，而是与流通的方便程度有关。由于当时采用四进制算法，所以小判不能实现小额支付。因而在日常使用中多有不便。而且不同时期的小判在重量、质量及品级上也不尽相同。该展品是享保年间使用的小判，其重量是 17.84 克，含金量是 86.8%。

小判とは、正式には小判金といい江戸時代を通じて流通した額面金一两の金貨のこと。中国では重さの単位である「両」が江戸時代の日本では金貨の単位として使われた。小判は一枚で金一两の計数貨幣であり、重さに関係なく流通する便利さがあつたが、四進法で少額の支払いが不可能であるなど日常生活で使うには不便であつた。小判の重量と品位は時代とともに変化したが、展示している享保小判の重量は 17.84 グラム、金含有率 86.8%。(市川)

一分金 | 享保一分金

Kyōhō Ichibunkin, flat gold coin

享保时期 (1716—1736) | 享保年間 (1716—1736) | Kyōhō period (1716-1736)
长 1.7 厘米; 宽 1 厘米 | 縦 1.7 cm 横 1 cm | Length: 1.7 cm, width: 1 cm
江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

四枚“一分金”相当于一两金的计量货币。其重量相当于 4.46 克，是享保小判（金币）重量的四分之一；但其含金量和享保小判一样，都是 86.8%。

一分金は 4 枚で金一両となる計数貨幣。重量も享保小判の 1/4 にあたる 4.46 グラム・金含有率 86.8% で享保小判と同一であった。（市川）



丁銀 | 享保丁銀

Kyōhō Chōgin, silver coin

享保时期 (1716—1736) | 享保年間 (1716—1736) | Kyōhō period (1716-1736)
长 8.5 厘米; 宽 3.1 厘米 | 縦 8.5 cm 横 3.1 cm | Length: 8.5 cm, width: 3.1 cm
江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum



日本江戸时期，“丁银”是在市面上流通的一种以重量来决定价值的秤量货币，它不像金币（如小判）那样是有保证的计量货币。由于丁银这种货币在计算价值时需要一枚一枚地称重，所以在使用过程中很浪费时间。“丁银”的重量不好确定，通常以 160 克（43 两）为基准，单枚重量从 120 克到 180 克不等。其质量和品级为纯银的 79.65%。

江戸時代の銀貨は金貨のような計数貨幣ではなく、重さをはかって流通する秤量貨幣であった。使用に際していちいち重さをはかる必要があり使用に手間を要した。丁銀の重量は不定であったが 160 グラム（43 匁）を中心に前後 120 g ~ 180 g までのバラつきであった。品位は銀 79.65%。（市川）

豆板銀 | 享保豆板銀

Mameitagin, bean shaped silver coin

享保时期 (1716—1736) | 享保年間 (1716—1736) Kyōhō period (1716-1736)
长 2.0 厘米; 宽 1.4 厘米 | 縦 2 cm 横 1.4 cm | Length: 2 cm, width: 1.4 cm
江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

“丁銀”是一种高面值的银质货币，而豆状散碎银则被铸造为一种低面值的银质货币。一粒豆状散碎银的重量是 10 两，约重 37.5 克，其质量和品级相当于享保丁银的 79.65%。

丁銀が高額貨幣であったため少額銀貨として鑄造されたのが豆板銀であった。重量は 37.5 グラム (10 匁) 程度のものが多かった。品位は享保丁銀と同じ 79.65%。(市川)



寛永通宝 | 寛永通宝

Kan'ei Tsūhō, coin

1668 年 | 1668 年 (寛文八年) | 1668
长 2.5 厘米; 宽 2.4 厘米 | 縦 2.5 cm 横 2.4 cm | Length: 2.5 cm, width: 2.4 cm
江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

一种形制来源于中国的圆形方孔钱，自 1636 年 (寛永十三年) 初铸造以来，被广泛使用并成为百姓生活不可或缺的货币。寛永时期以后，虽此钱币的面值和制作材料皆发生了变化，但仍在江户时期被大量铸造。寛永通宝最初的面额是以一枚一文计算，到了江户中期的 1739 年 (元文四年)，由于铸造材料中铜的缺乏，铁质的寛永通宝被铸造出来，但其品质低劣，名声很差。30 年后的 1768 年 (明和五年) 黄铜质地的四文钱铸造而成。

寛永通宝は、中国から渡来した銭と同じ円形の中心に方形の穴をもつ。1636 年 (寛永 13) に初めて鑄造されると庶民生活に不可欠の貨幣として広く普及し、寛永期以降も額面・素材などをかえながら江戸時代をつうじて鑄造され続けた。寛永通宝は、当初 1 枚 1 文であったが、江戸時代中期銅の不足により 1738 年 (元文 4) に鉄製の寛永通宝が鑄造されたが、簡単に劣化するなど評判が悪く、30 年を経た 1768 年 (明和 5) には真鍮製の四文銭が鑄造された。(市川)



第三节

服饰

服饰不仅反映时代的潮流与审美，也能体现身份与地位。

官服之外，清代普通百姓的服装，男子，无论满汉均以长衫、长裤为主。女子，满汉发展情况不一。满族主要着“旗装”，汉族主要是袄加长裙，晚清逐渐去裙着裤。此外，服饰中的各种配饰，如用来盛放烟草、钱两、眼镜等随身物品的荷包上绣着各种吉祥的图案，以显示制作者的精湛手艺。

江戸也是如此，随着城市文化不断发展成熟，人们愈加关注服饰及药盒、吊坠、烟袋、荷包等装饰物的设计，涌现出许多用材精良、技法精湛、别具匠心的华美之作。江戸人喜欢明快素雅的设计，并将从长崎进口的来自荷兰、中国等国的舶来品视为珍宝，同时也开始使用“金唐革”（装饰有贴金纹样的皮革）和天鹅绒。

「装う」

服飾は、時代の好みや美意識を反映するだけでなく、身分や地位を表わす。

清代の官僚の服飾は複雑で、儀式や季節による違いのほか、色や刺繍文様、胸飾りの文様の違いで官位の上下が厳格に区別されていた。一方、庶民の衣服は、旗袍という旗人服を元にした長衣で、男性の満州人と漢人の差はほとんどなかったが、漢人女性は短い上着と裙子（スカート）を着用した。当時流行した煙草、錢、眼鏡などを入れる小袋には、吉祥文などの刺繍が施された。

江戸においても都市文化の成熟とともに、衣服や印籠、根付、煙草入れ、袋物などの装身具の意匠に関心が高まり、素材や技法に工夫をこらした華やかなものが作られた。明快であっさりしたデザインが好まれたが、長崎を通して入ってきたオランダや中国などの舶来品は珍重され、金唐革やビロードも使われた。



青色纳纱云鹤纹方补单褂 | 青色納紗雲鶴紋方補单褂 (文官正装)

Civil officials' silk and satin jacket with court insignia badge and cloud-crane design in petit-point embroidery

清 (1644—1911) | 清時代 (1644—1911) | Qing dynasty (1644-1911)

身長 123.5 厘米; 通袖長 182 厘米 | 身丈 123.5 cm 袖全長 182 cm | Jacket length: 123.5 cm, total length of sleeves : 182 cm

首都博物館 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

此为清代一品文官夏季官服。青色纱地，前胸、后背缀方补，纳纱绣云鹤日纹为主景，另配有海水江崖，四边框为纳纱如意云纹。颜色以蓝色为主，配色沉稳。

夏用の官僚の服。青色の絹地、前後方中央に雲、鶴、太陽の刺繍をモチーフとした装飾が施されている。その他、矢のように描かれた海水江崖模様や如意雲模様を自在に配置している。藍色を基調に着彩され、全体的に落ち着いた色合いである。



瓜皮帽 | 瓜皮帽 (男性用帽子)

Gua Pi Mao (Chinese skullcap) worn by men

清 (1644—1911) | 清時代 (1644—1911) | Qing dynasty (1644-1911)
高 13 厘米; 直径 19 厘米 | 径 19 cm 高さ 13 cm | Height: 13 cm,
diameter: 19 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China



明朝至清朝时期流行的男帽。清朝时，从孩童到成人，几乎所有男子都戴瓜皮帽，根据帽顶饰物的材料，可判断出戴帽者的经济状况和社会地位。

明から清にかけて流行した男性用の帽子。切った西瓜の皮を張り合わせたような形状をしているため、このような名称がついたと言われる。材料は冬春用にはサテン、夏秋用には綿が使われることが多かった。清代、子供から大人までほぼ全ての男性が所持しており、帽子の頂点にある結び目の素材で、その経済状況や社会的地位を知ることができた。

男士长裤 | 男子長褲 (ズボン)

Men's satin trousers

民国 (1912—1949) | 民国時代 (1912—1949) | Republic of China (1912-1949)

裤长 108 厘米; 腰围 100 厘米 | 縦 108 cm 胴围 100 cm | Length: 108 cm, waistline: 100 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

男式长裤，黑色缎面，泛有光泽，腰头肥大，为蓝色条纹棉布材质。汉族男子通常着长袍(长棉衣)马褂(身长至腰的对襟盘扣上衣)，此件长裤应配合长袍穿着。

男性用の長ズボン。黒色の光沢あるサテン地で作られている。腰元は横広く、藍色の綿地に格子模様が施されている。漢族の男性は通常、長ズボンに長袍(綿入りの長い上着)や馬褂(腰丈、詰襟の上着)を合わせて着用していた。このズボンはおそらく馬褂と共に着ていたと考えられる。



千层底鞋 千層底鞋 (男性用布靴) Shoes with multi-layered soles

民国 (1912—1949) | 民国時代 (1912—1949) | Republic of China
(1912-1949)

长 25 厘米 | 長さ 25 cm | Length: 25 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

中国传统的布鞋样式，旧时男子穿着的鞋，鞋底为多层，人们形象地将其称为“千层底”。中国最早的千层底布鞋起源于周代，鞋底为白布裕褚多层叠起纳制而成，穿着舒适，保温性和透气性也好。现代千层底鞋已实现批量生产，鞋面大多采用黑色厚礼服呢等上等材料。

中国伝統の布靴の一つで、靴底に白い布を幾重にも張り固めたもの。周代が起源とされる。履き心地が良く、また保温性や通気性の高さも特徴である。現代においては、上部に黒く分厚い上質な毛織地を用いて量産されているが、流行の最盛期を迎える清代では、装飾も重要とされた。



盆底鞋 | 盆底鞋 (満州族の女性靴) High-heeled shoes for Manchurian women

清 (1644—1911) | 清時代 (1644—1911) | Qing dynasty (1644-1911)
长 23 厘米；高 13 厘米 | 長さ 23 cm 高さ 13 cm | Length: 23
cm, height: 13 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

在满族女性的传统服饰中，盆底鞋是重要的元素之一。鞋跟部分用木头制成，一般高度为 10 厘米左右。面料为绸缎，上绣五彩图案。本展品的鞋边较宽，用黑布镶裹，底部的紫色布面上装饰有绣花图案。

清代、満州族の女性が履いていた靴。盆底鞋は満州族の女性の伝統衣装の中でも重要な要素の一つである。ヒールの部分が木で作られており、高さは 10 cm ほどであった。絹地の上部には色彩豊かなデザインが刺繍された。本資料は、靴のふちが広く黒色の布で覆われており、底部は紫色の布地に花の模様が刺繍されている。



女性礼服 (1套2件) | 女性礼服

Occassion wear for women

民国 (1912—1949) | 民国时代 (1912—1949) | Republic of China (1912-1949)

上衣: 袖长 124 厘米, 身长 75.4 厘米; 裙子: 腰围 38.5 厘米, 裙长 93.5 厘米 | 上衣: 身丈 75.4 cm

袖丈 124 cm 下衣: 胸围 38.5 cm 着丈 约 93.5 cm | Sleeves length: 124 cm, top length: 75.4 cm; skirt
waistline: 38.5 cm, skirt length: 93.5 cm

首都博物馆 | 首都博物馆藏 | Capital Museum, China



黄玉刻诗扳指 | 黄玉刻詩扳指（乾隆帝御題詩を刻む指輪）

Yellow jade archer's ring engraved with Emperor Qianlong's poem

清（1644—1911） | 清時代（1644—1911） | Qing dynasty (1644-1911)

直径 2.7 厘米；高 2.4 厘米 | 径 2.7 cm 高さ 2.4 cm | Diameter: 2.7 cm, height: 2.4 cm

北京市密云区董各庄清皇子墓出土 | 北京市密雲県董各庄 清皇族墓より出土

| Unearthed from the tomb of a Manchurian prince in Donggezhuang Village, Miyun District, Beijing

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

扳指原本用于弯弓射箭时扣住弓弦，后来演变成男性的一种装饰物，也成为一种权威的象征。本品为黄玉质地，上下口沿处各雕饰一圈回纹。中段刻一“乾隆御题”诗：“缮人规制玉人为，驱沓闾抨是所资。不称每羞童子佩，如磨常忆武公诗。底须象骨徒传古，恰似琼琚匪报兹。于度机张慎省括，温其德美信堪师。”

扳指は、男性用の指輪で、元来は弓用である。次第に、装飾用や一種の権威の象徴としても使われるようになった。本品は、黄玉質で、中段に乾隆御題の詩を刻み、上下の縁部には回字紋が廻る。



绣花小件（扳指套）

绣花件（花を刺繍した指輪入れ）

Archer's ring cover with floral embroidery

清（1644—1911） | 清時代（1644—1911） | Qing dynasty (1644-1911)

长 7 厘米；宽 5 厘米 | 縦 7 cm 横 5 cm | Length: 7 cm, width: 5 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

扳指套，用于盛放扳指。圆柱状，天盖地式。通体为鹅黄色的素色绸缎，有绿色丝绦纵向穿过盒中心，底部一段系红色玛瑙珠一粒。盒筒上绣有吉祥纹饰，如插在瓶中的梅花、养在盆中的水仙、盛放着书画卷轴、拂尘的卷缸，配以铜钱、如意等纹饰点缀。小巧玲珑、精美别致。

指輪を入れる布製容器。円筒形で、上部が開く。蓋と底から緑色の紐が伸び、底の紐には結び目の上に紅色の瑪瑙玉を通す。胴部には、瓶に差された梅や水仙、巻物、払子、銅銭などの吉祥文が刺繍される。小さいものの、華やかで卓抜した存在感がある。



京绣荷包 | 京绣荷包（腰に下げる北京刺繍の中着）

Pouch with Peking-style embroidery

清（1644—1911） | 清時代（1644—1911） | Qing dynasty (1644-1911)

长（含帶子）65.5 厘米；宽 11 厘米 | 長さ 65.5 cm（帶含む） 横 11 cm | Length (with string): 65.5 cm, width: 11 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

两件均为扁圆形抽口式荷包，由一根白色绸带连接，绸带顶端为镀金云头纹金属环。两件荷包绣工各异。上面的荷包绣二龙相对，平金绣“寿”字。下面的在红绸上绣楷书“万事如意”，周围以五彩丝绒绣海水江崖及红色蝙蝠。

白色絹帯の頂部に付く金銅製の雲形金具から、飾り紐で2つの巾着型小物入れを吊り下げる。上の巾着には2頭の向かい合う龍と金銀糸で寿文字の刺繍が、下の巾着には紅絹に楷書で「万事如意」の刺繍が施されており、周囲に海水江崖（中国伝統モチーフの一種で海と山を組み合わせた波模様）や赤い蝙蝠を配す。

京绣福寿瓜瓞绵绵钱袋 | 京绣福寿瓜瓞绵绵钱袋 (吉祥模様を刺繍した小銭入れ)

Purse with symbols for happiness and longevity embroidered in Peking-style

清 (1644—1911) | 清時代 (1644—1911) | Qing dynasty (1644-1911)
长 14.5 厘米; 宽 11 厘米 | 横 14.5 cm 縦 11 cm | Width: 11 cm, height: 14.5 cm
首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

蓝绸为地，正反两面以五彩丝绒绣寿桃、蝙蝠、瓜、蝴蝶等吉祥图案。采用缠针、钱针（针脚层层相接，以后针继前针，一批一批地抢上去的针法）、打籽（用丝线绕成粒状小圈，形成绣面）、网绣等多种绣法。“瓜瓞绵绵”寓意子孙万代绵延不绝。

表裏両面に、桃、蝙蝠、瓜、蝶々など縁起が良い絵柄を色とりどりの糸で刺繍した銭入れ。戥針（刺繍の層と層が接しながらグラデーションを作る技法）、打籽（糸で粒を作り集め、繡面を完成させる）、網縫いなど、様々な技法が用いられている。「綿々瓜瓞」とは、子孫が万代まで永遠に続くようにとの意味である。



绣花荷包 绣花荷包(花鳥を刺繍した小物入)

Pouch with floral embroidery

清 (1644—1911) | 清時代 (1644—1911) | Qing dynasty (1644-1911)
长 10 厘米; 宽 10.5 厘米 | 縦 10 cm 横 10.5 cm | Length: 10 cm, width: 10.5 cm
首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

此荷包为黄地花鸟刺绣。孔雀飞上枝头回望，独特的绿色翎羽纹样雍容艳丽，配色高雅。

黄色の地に花鳥の刺繍が施される。なかでも樹上で振り返る孔雀は、特有の緑の羽根文様がふっくらと艶やかで美しく、配色も洗練されておる。



纳绣云纹金“明察秋毫”眼镜套

納綉雲紋金 明察秋毫眼鏡套（文字刺繡の眼鏡入れ）

Pouch, for spectacles, with clouds and characters of “Ming Cha Qiu Hao”
(meaning sharp-eyed) in petit-point

清（1644—1911） | 清時代（1644—1911） | Qing dynasty (1644-1911)

长 14.5 厘米；宽 6 厘米 | 縦 14.5 cm 横 6 cm | Length: 14.5 cm, width: 6 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

以蓝、浅蓝、深蓝三蓝色丝线纳绣如意头云纹，并以月白、白色丝线勾云边，使图案具有立体感。正面和背面各用捻金线纳绣“明察”“秋毫”四字，用色沉稳，古朴大方。

濃さの異なる三種の藍色絹糸を用いて、如意（仏具の一種。棒状で先端が指を曲げたように丸くなっている）形雲紋を表す。薄い藍色と白色の絹糸で雲の輪郭を描くことにより、図案に立体感を与えている。正面と背面の両面に、捻った金糸の刺し子縫いによる「明察」「秋毫」の二文字が、落ち着いたある色使いで、素朴且つ上品な印象を加えている。

分染麻质水边风景鹤纹单衣（江戸城镇女性所穿和服）

染分麻地水辺風景鶴模様帷子

Clothing for urban women in Edo: speckled and variegated dyed linen Kimono with waterside-scenery design and crane pattern

18 世纪 | 18 世紀 | 18th century

身长 156.5 厘米；袖长 39 厘米 | 身丈 156.5 cm 袖丈 39 cm | Length: 156.5 cm, sleeve width: 39 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

此单衣在腰部将衣料分染为松皮菱形，下半身描绘水边风景，上半身有飞翔的鹤。这种在腰部改变底色和花纹的设计形式，多见于 18 世纪前半期至中期左右。根据其用色多样的友禅染的技法，推测它是市民阶层的女性穿戴，与出身武士门第的女性所穿着的衣物相比，此类物件保存下来的非常少。

生地を腰の部分で松皮菱形に染分け、下半身に水辺風景、上半身に飛翔する鶴を表している。このように腰部分で地色や模様を替える意匠は、18 世紀前半から半ば頃に見られる形式である。多色を用いる友禅染の技法から、町人階層の女性の所用と考えられる。武家女性の着物に比して現存品は大変少ない。（沓沢）



齐集梳妆图 | 君たち集り粧ひの図 Women Dressing Up in the Morning

1857年 | 1857年(安政4)5月 | 1857

长 75 厘米; 宽 35.7 厘米 | 縦 35.7 cm 横 75 cm | Length: 75 cm ; width: 35.7 cm

第一代歌川国贞 / 画 | 歌川国贞(初代) / 画 | Artist: The first Utawaga Kunisada

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

这幅画描绘的是青楼内的女人们清晨梳妆打扮的景象。她们中有人在用当时类似于牙刷的“房楊枝”来清洁牙齿，有的人在修剪脚指甲，还有的人在盘发髻。该作品情趣盎然地展示出当时女人早晨起来打理容妆的忙乱情景。

遊郭の朝を描いたもの。当時における歯ブラシである「房楊枝」で舌を磨く女性や足の爪を切る女性、髪を結い上げている女性など、いつの時代も大変な朝の身だしなみの様子をユーモラスに描写している。
(杏沢)



大丸屋前的三美人 | 大丸屋前の三美人 Three Beauties in front of a *Kimono* Shop

文化时期~天保时期 (1827—1843) | 1827—1843 年 (文化~天保期)

Between the tenth year of Bunka period and the Tenpō period (1827-1843)

长 79.2 厘米; 宽 38.7 厘米 | 縦 38.7 cm 横 79.2 cm | Length: 79.2 cm ; width: 38.7 cm

第一代歌川国贞 / 画 | 歌川国贞 (初代) / 画 | Artist: The first Utagawa Kunisada

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

大丸屋是京都的和服店“大文字屋”在江户开设的一家分店，这个于宽保三年（1743年）在日本桥大传马街第三街区开设的和服店兴盛一时，与越后屋、白木屋并称“江户三大和服店”。这幅作品描绘了在大丸屋前驻足的三位女性、写在圆圈中并被突显出来的“大”字垂帘，以及透过垂帘的间隙隐约可见店内忙碌的情景。

大丸屋は京都の「大文字屋」の江戸店として、日本橋大伝馬町3丁目で1743年（寛保3）に開業した呉服店で、越後屋、白木屋と並ぶ江戸三大呉服店の一つとして隆盛した。資料では店先に佇む三人の女性と丸に大の字を染め抜いた大のれんが描かれ、その隙間から忙しさが伝わるような店内の様子がのぞいている。（沓沢）



蓬莱仙境纹带手柄镜、镜盒 | 蓬莱模様柄鏡・鏡篋

Hand held mirror with engraved fairyland motif and case

江戸时期 (1603—1867) | 江戸時代 (1603—1867) | Edo period (1603-1867)

长 32.5 厘米; 宽 23.5 厘米 | 縦 32.5 cm 横 23.5 cm | Length: 32.5 cm, width: 23.5 cm

藤原吉次 / 作 | 藤原吉次 / 作 | Crafted by Fujiwara no Yoshitsugu

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

江戸时期以前使用的镜子是在铜中掺入锡和铅制成的青铜镜。到了奈良时期,开始使用从中国进口的镜子及其仿制品。此后,一边吸收中国制品的精髓,一边发展日式风格的本土产品。到了16世纪初期,带手柄的圆形镜子流行开来,并成为主流。此展品是江戸时期的女性在化妆整理妆容时使用的镜子。

江戸時代以前の鏡は、銅に錫や鉛を加えた青銅製の鏡が使用された。奈良時代までは、大陸からの舶載品やその模倣品であったが、それ以降は中国製の意匠を取り入れながら、和様化していく。16世紀初頭に円鏡から持ち手の付いた柄鏡が流行し、主流を占めた。江戸時代の女性が化粧の時など、身だしなみを整えるために用いられた。(杉山)



木刻富士桥樱花泥金梳 | 木台富士橋桜花蒔絵櫛

Woodcut comb with Mt. Fuji, bridge and, cherry blossom pattern in gold lacquer sprinkled decoration

18—19 世纪 | 18—19 世紀 | Between 18th and 19th centuries

长 11.2 厘米; 宽 4.2 厘米 | 縦 4.2 cm 横 11.2 cm | Length: 11.2 cm, width: 4.2 cm

有得斋 / 作 | 有得斎 / 作 | Crafted by Yūtokusai

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

在日本, 梳子自古以来既是梳头工具, 也是为了固定头发的发饰之一。日本人原来用的梳子纵向比较长, 但从奈良时期开始, 一种由唐朝引进的横向较长的梳子逐渐成为人们必备的日常用品。江户时期多用装饰物来表现个体的与众不同, 因此出现了款式设计丰富多样的梳子。类似于该展品这样施以泥金彩绘的梳子在当时就很流行。泥金彩绘是一种在尚未干燥的漆面上施以金银粉来表现图案的技法。这种技法是从中国传入的, 也被称为“描金”或“泥金漆画”。

櫛は髪を梳かすためや、結び上げた髪を固定するために古くから日本で使われていた髪飾りのひとつ。もともと日本人が使用していたのは縦長の櫛であったが、奈良時代に唐で使われていた横長の形状のものが渡来すると、それ以降横長の櫛が一般的となっていった。江戸時代には装飾品としての性格を強めたため、多種多様なデザインのもものが登場し、本資料のように蒔絵を施された櫛も人気であった。蒔絵とは、漆で描いた模様が乾かないうちに金銀等の粉を付着させて文様を表わす技法。この技法が中国に伝わり、「描金」、「泥金画漆」と呼ばれている。(川口)



鹤胫骨透雕竹纹笄 鶴脛骨篋文透彫笄

Hairpin with carved open work bamboo design, made from the shank bone of a crane

18—19 世纪 | 18—19 世紀 | Between 18th and 19th centuries

长 20 厘米; 宽 1.2 厘米; 厚 1 厘米 | 長さ 20 cm 横 1.2 cm 厚さ 1 cm | Length: 20 cm, width: 1.2 cm, thickness: 1 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

笄是用来盘饰顶部发髻用的。随着发饰的发展, 到了江户时期, 具有极高装饰性的发笄很受欢迎。在戴发笄时, 由于盘起的头发会将发笄的中部遮挡起来, 所以只有发笄两端的图案能够显露出来。以仙鹤的腿骨为材料而制作的笄在天和与贞享年间(1681~1688)被誉为品质最好的发笄。

笄とは、髪を巻きつけて髻を作るために使用された道具。江戸時代に入り、髪飾りが発達していくと、装飾性の高いものが人気を博すようになった。中央部分に髪を巻くため、外から見える両端に文様が施されている。本資料のような鶴の足の骨で作られた笄は、天和・貞享(1681-88年)頃には最高の品質のものとされていた。(川口)



芒草纹玻璃制木齿梳 | ガラス製すすき図木齿嵌込櫛

Glass panelled wood-toothed comb with silver grass pattern

江戸后期 (1746—1841) | 江戸後期 (1746—1841) | Late Edo period (1746-1841)

长 15 厘米; 宽 7.7 厘米 | 縦 7.7 cm 横 15 cm | Length: 15 cm, width: 7.7 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

以玻璃作为主材质并配以秋季盛开的小草花制作而成的梳子, 给人以凉爽的感觉。日本人对于一年四季的变化十分敏感, 这也是他们形成独特审美意识的原因之所在。这种对季节变化的感知在江户时期变得更加敏锐, 并在人们日常穿戴的设计上得到完美体现。比如, 在夏季穿着带有雪花纹的浴衣能够使人联想到冬天的寒冷来感知季节的变化, 以及使人感到比较闲适的意味等。这款梳子的设计给人以清凉的感觉, 应该也是在盛夏时节使用的物品。

ガラスの土台に秋草のすすきを配することで涼やかな印象を与える櫛。日本人は四季の変化を敏感に感じ取り、独自の美意識を形成させていった。江戸時代にはこの感覚がさらに研ぎ澄まされ、夏に雪の柄の浴衣を身に付けるといった季節感を先取りする美意識や遊び心などが装いの中にもみられるようになる。本資料も、清涼感が感じられるデザインのため、暑い夏に使用されていたと考えられる。(川口)



金地秋草纹泥金梳

きんじあきくさもんようまきえくし
金地秋草文様蒔絵櫛

Maki-e comb with motif in autumn grass on gold ground

18—19 世纪 | 18—19 世紀 | Between 18th and 19th centuries

长 9 厘米; 宽 4 厘米; 厚 0.8 厘米 | 縦 4 cm 横 9 cm 厚さ 0.8 cm | Length: 9 cm, width: 4 cm, thickness: 0.8 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

佩戴在女士发髻上作为装饰的梳子, 采用了泥金彩绘的制作工艺, 表面涂有漆料, 并镶嵌表现秋天花草的螺壳和海贝。其中, 荻草图案使用金、银两种彩绘的表现形式; 而菊花和爬山虎的花及叶子的部分则施以螺钿工艺。梳子上用螺钿表现的花朵被色彩斑斓的贝壳衬托得更加精致可爱。

蒔絵のほか、貝を加工して漆表面に貼り付ける螺鈿の技法で、秋の草花を表した挿櫛。草花の茎や蔓は金蒔絵、萩の葉は、金と銀の2種類の蒔絵で表現し、菊や葛の花・葉には螺鈿を施している。螺鈿の花々は、貝の光彩の複雑な色合いにより、一層、繊細で可憐な印象を与えている。(江里口)



黄杨木髹漆陀螺饰耳挖簪 | 拓植漆塗独楽飾耳搔簪

Ear pick-shaped boxwood hairpin

18—19 世纪 | 18—19 世紀 | Between 18th and 19th centuries

长 14 厘米; 宽 1.4 厘米; 厚 1.5 厘米 | 長さ 14 cm 横 1.4 cm 厚さ 1.5 cm | Length: 14 cm, width: 1.4 cm, thickness: 1.5 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

这是一枚尖端部带有耳挖勺的簪子。这种带耳挖勺的簪子在享保年间（1716~1735）十分流行。因清朝时期的中国也有同样形状的簪子出现，因此其被认为受到中国簪子的影响。为了让簪子比梳子或笄具有更强的装饰作用，设计者往往会下一番功夫让簪子的图案更加生动有趣。本件展品的主题图案是一个从中国经由高丽传入日本的陀螺。

先端に耳搔きが付いている簪。享保年間（1716-35 年）頃から耳搔き形の簪が人気になっていった。清時代の中国にも同様の形状のものがあることから、中国の簪に影響を受けたとも考えられている。簪は、櫛や笄と比べると装飾品としての役割が大きいため、非常に遊び心に富んだ意匠が多いのが特徴である。本資料では、中国より高麗を通して渡来した独楽がモチーフとなっている。（川口）



鹤鹑鸟笼小花饰银簪 | 銀鶉鳥籠小花飾簪

Silver hairpin decorated with tiny quail cage and flowers

江戸后期（1746—1841） | 江戸後期（1746—1841） | Late Edo period (1746-1841)

长 18.3 厘米; 宽 3.7 厘米; 厚 3.3 厘米 | 長さ 18.3 cm 横 3.7 cm 厚さ 3.3 cm | Length: 18.3 cm, width: 3.7 cm, thickness: 3.3 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

梳和钗皆受到从唐朝进口的舶来品的影响。在日本，人们原来使用的簪子是棒状的，这种器物在唐朝被称为“钗”。后来受到唐朝舶来品地影响出现了分叉的簪子，并被广泛使用。平安时期以后，长散发型开始成为主流，簪子逐渐消失。然而，到了江户时期，结发文化又兴盛起来，簪子再度成为帮助女性完成发型塑造的饰物。

簪も櫛と同様に唐から舶来品の影響を受けている。日本ではもともと 1 本の棒状の簪を使用していたが、唐で使われていた釵子と呼ばれる 2 本足の簪が輸入されるようになると、その形状が広く使われるようになった。平安時代に入ると垂髪が主流となったため、簪はその影を潜めるが、江戸時代に結髪文化が花開くと再び女性の髪を彩ることとなる。（川口）



浅葱色麻质鲛纹武士礼服一套 袴（浅葱紙布地鯨文丸に橘紋付）

Occasion wear for a *satmurai* warrior, made from linen with tangerine emblems

19 世纪上半叶 | 19 世纪前半 | Early 19th century

肩衣: 身长 81.7 厘米, 袖长 76 厘米; 短裙裤: 裤长 96.8 厘米, 宽 62 厘米 | 肩衣: 着丈 81.7 cm 衿丈 76 cm 袴: 丈 96.8 cm 幅 62 cm | Shoulder gown: length: 81.7 cm, sleeve length: 76 cm *Hakama*: length: 96.8 cm, width: 62 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

这种披挂在武士穿着的和服上面, 并和显示着不同家族家徽的上衣和裙裤状的礼服同属于正装。面料分棉、麻、丝绸等。这种服饰的经线用的是丝线, 纬线用的是 1 到 2 毫米宽的由日本纸为原材料编织的“纸布”制作而成。这种纸布的吸水性和透气性极好, 且不伤皮肤, 作为夏季服装的面料广受欢迎。

袴とは、それぞれの家を表す「家紋」が入れられた上下の服で、着物の上に着用する武士の正装として用いられた。材質は麻や木綿、絹など様々だったが、この袴は、たて糸は絹糸、よこ糸は 1 ~ 2 mm 幅に切った和紙で織った「紙布」という素材で作られている。紙布は、吸湿性や通気性に優れ、肌ざわりが良いことから、夏の衣料として好まれていた。(杏沢)

燕子南天竹泥金印籠 | 燕南天蒔絵印籠

Maki-e Inro (pill box) with swallow and nandina (or sacred bamboo) design

江戸后期 (1746—1841) | 江戸後期 (1746—1841) | Late Edo period (1746-1841)

长 8.9 厘米; 宽 4.5 厘米; 厚 2.9 厘米 | 縦 8.9 cm 横 4.5 cm 厚さ 2.9 cm | Length: 8.9 cm, width: 4.5 cm, thickness: 2.9 cm

羊遊齋 / 作 | 羊遊齋 / 作 | Artist: Hara Yoyūsai

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

江戸时期, 人们在日常出行时不携带多余物品, 和服只有怀里和袖兜可以放东西, 所以像褌袋、印笼、烟袋这种兼具收纳功能的挂件就很盛行。后来, 这些挂件不仅实用, 还加以精美的装饰, 逐渐带有饰品的意味, 成为江戸时尚人士不可或缺的物件。本展品是挂在腰间的用作装药品等的印笼, 运用泥金彩绘的手法精细地描绘了燕子和南天竹的形象。

江戸の人々は日常歩く際に余分な手荷物などは持たず、また和服には懐と袖のたもと以外には収納がなかったため、袋物や印籠、煙草入れのような収納性を兼ね備えた装身具が発達した。やがて装身具はその機能だけでなく、精巧な装飾が施されたアクセサリとしての意味合いをもつようになり、江戸のおしゃれには欠かせないものとなった。本資料は薬などを入れて腰に下げる印籠で、精緻な描写で燕と南天の蒔絵が施されている。(杏沢)





百合纹嵌螺钿印笼 | 百合螺钿印籠

Inrō inlaid with mother-of-pearl lily pattern
(Inrō: a decorative stack of containers for carrying identity seals and medicine)

1823 年 | 1823 年 (文政 6) | 1823

长 5.1 厘米; 宽 4.8 厘米; 厚 2.8 厘米 | 縦 5.1 cm 横 4.8 cm 厚
さ 2.8 cm | Length: 5.1 cm, width: 4.8 cm, thickness: 2.8 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-
Tokyo Museum

嵌螺钿工艺, 装饰有百合花图案的小巧印笼。

螺钿細工によって百合の花があしらわれた小ぶりの
印籠。(沓沢)



树下人物堆朱印笼 | 樹下人物堆朱印籠

Carved cinnabar lacquer Inrō with a pattern
depicting figures under the tree (Inrō: a
decorative stack of containers for carrying
identity seals and medicine)

江戸后期 (1746—1841) | 江戸後期 (1746—1841) | Late Edo
period (1746-1841)

长 6.6 厘米; 宽 4.9 厘米; 厚 2.4 厘米 | 縦 6.6 cm 横 4.9 cm 厚
さ 2.4 cm | Length: 6.6 cm, width: 4.9 cm, thickness: 2.4 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-
Tokyo Museum

这是一件用“堆朱”技法施以多重厚漆制作而成
的印笼。印笼及吊坠前后的装饰图案取自中国传说及神
话中的人物造型。

厚く塗った漆に彫刻で文様を施す「堆朱」の技法で
作られた印籠で、本体と根付部分の表裏にそれぞれ中国の
伝説・説話をモチーフにした人物などがあしらわれてい
る。(沓沢)

紫藤猿图刺绣烟袋 | 刺繍藤に猿図懐中たばこ入れ

Pipe case and tobacco pouch with wisteria and monkey embroideries

江戸时期~明治时期 (1603—1912) | 江戸~明治期 (1603—1912) | Between Edo period and Meiji period (1603-1912)

烟荷包: 长 10.4 厘米; 宽 9.1 厘米 烟管袋: 长 25.0 厘米; 宽 3.2 厘米 | 吋: 縦 9.1 cm 横 10.4 cm 煙管袋: 長さ 25.0 cm 横 3.2 cm | Pouch: Length: 10.4 cm, width: 9.1 cm Pipe case: Length: 25.0 cm, width: 3.2 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

生活在江户的男人们会把装烟具的烟袋作为装饰物穿戴在身上。烟袋有怀揣式的，也有别在和服腰间的。本展品是怀揣式的烟袋，它连同烟杆和装小东西的袋子一起组成一副成套的用具。该烟袋绣有手捧仙桃的猴子，猴子毛发的走向还特别用丝线细致入微地表现出来，刺绣的精湛技艺由此可见一斑。

喫煙道具を入れるたばこ入れは江戸の男性が身につける代表的な装身具のひとつで、懐中に入れるタイプと着物の帯に提げるタイプとがあった。本資料は懐中に入れるもので、きせる筒と懐紙入れがセットになっている。いずれも鮮やかな紺色の生地に松や藤、そして桃を手にした猿などが刺繍されており、特に猿は毛並みを糸の方向で表現するなど精緻な描写がされている。(沓沢)



葡萄纹金唐革系腰烟袋 | 葡萄手金唐革腰差したばこ入れ

Japanese leather paper tobacco pouch with grapes design made of embossed leather with gold pattern

江戸中期 (1680—1745) | 江戸中期 (1680—1745) | the Middle of Edo period (1680-1745)

烟荷包: 长 12.9 厘米; 宽 8.6 厘米; 厚 2.7 厘米 烟管袋: 长 26.5 厘米; 宽 4.8 厘米 烟管: 长 21.8 厘米 | 呷:
縦 8.6 cm 横 12.9 cm 厚さ 2.7 cm 煙管袋: 長さ 26.5 cm 横 4.8 cm 煙管: 長さ 21.8 cm | Pouch:
Length: 12.9 cm, width: 8.6 cm, thickness: 2.7 cm Pipe case: Length: 26.5 cm, width: 4.8 cm Pipe: Length: 21.8 cm
江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

“金唐革”是指在熟皮子上贴金箔，然后用模型按压，压出花纹并施以色彩。江户时期，金唐革通过荷兰传入日本后，被用来装饰在武器或烟袋等皮革制品上，深受欢迎。对于从海外传入的事物，日本多冠以“唐”字，因此，虽然该工艺与中国的唐朝没有关联，仍被称为金唐革。

金唐革とは、なめした革に金属箔を貼り、型で压してエンボスの模様を出し彩色を施した素材。江戸時代にオランダを通じてもたらされると、武具の装飾や煙草入れなどの革製品に加工され人気を博した。日本では海外からもたらされた事物に対して「唐」の字を当てることが多くあり、金唐革も中国の唐とは直接の関わりはないがそのように呼ばれた。(杳沢)



锦缎双条苜蓿花纹系绳烟袋 金欄二重唐草文一つ提げたばこ入れ Tobacco pouch with clover blossom embroideries

江戸时期 (1603—1867) | 江戸時代 (1603—1867) | Edo period (1603-1867)

长 10.2 厘米; 宽 5.6 厘米; 厚 2.5 厘米 | 縦 5.6 cm 横 10.2 cm 厚さ 2.5 cm | Length: 10.2 cm, width: 5.6 cm, thickness: 2.5 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

此为别在腰间的烟袋，是用金线编织的带有苜蓿花纹的细纹织物，其搭扣像两本重叠放置的书一样，设计显得格外别致。

帯に提げる腰差しタイプのたばこ入れで、金糸を織り込んだ唐草模様の金欄地に、本を2冊重ねた形状の留め具を施しているのが特徴。(杳沢)



红色呢绒地腾龙刺绣荷包 赤羅紗登り龍文刺繡筥迫

Embroidered pocket tissue case (*bakoseko*) in red
woollen cloth decorated with design of a rising dragon

江戸时期 (1603—1867) | 江戸時代 (1603—1867) | Edo period (1603-1867)
长 16.7 厘米; 宽 8 厘米 | 縦 8 cm 横 16.7 cm | Length: 16.7 cm, width: 8 cm
江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum



荷包是女人揣在怀里的随身饰品，用金线在红色呢绒上绣出龙和富士山的纹样。呢绒是将羊毛线织成平纹后拉绒制成的面料，由葡萄牙人带到日本，然后通过荷兰大量进口，被制成饰品或无袖短外套等，备受江戸时代人们珍爱。

筥迫は女性が懐に挟んで持つ装身具。赤い羅紗の生地に金糸の龍と富士山が刺繡されている。羅紗は羊毛糸を平織にして起毛された生地、日本へはポルトガル人がもたらし、その後オランダを通じて大量に輸入され、装飾品や陣羽織などに珍重された。(沓沢)

白色天鹅绒地牡丹纹荷包 白ビロード地牡丹模様筥迫

Pocket tissue case (*bakoseko*) in white velvet decorated
with peony embroidery

江戸后期—末期 (1746—1867) | 江戸後期到末期 (1746—1867) | Between the
late and the end of Edo period (1746-1867)
长 16.4 厘米; 宽 7.6 厘米; 厚 5 厘米 | 縦 7.6 cm 横 16.4 cm 厚さ 5 cm | Length:
16.4 cm, width: 7.6 cm, thickness: 5 cm
江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

此为在天鹅绒面料上绣以牡丹花、云朵等图案的荷包。天鹅绒是通过加工使表面起毛的绒纺织品的一种，天文年间(1532—1555年)由葡萄牙传入后在日本国内生产。江戸后期，除这样的一些小物件外，还用天鹅绒来制作和服衬领(可以拆卸的领子)等，是一种广受欢迎的布料。

ビロード地に牡丹の花や雲などを刺繡した筥迫。ビロード(ベルベット)は表面を毛羽立つよう加工したパイル織物の一種で、日本には天文年間(1532-55年)にポルトガルよりもたらされ、後に国産化もされた。江戸時代後期にはこうした小物のほか、着物の半襟(着脱可能な替え衿)などにも用いられるポピュラーな素材だった。(沓沢)



第四节

育儿

无论在哪个国家，人们都希望孩子茁壮成长。因此在育儿方面的礼仪和习俗名目繁多。

在北京，婴儿出生后第三天要宴请宾客，同时举行首次沐浴仪式，称作“洗三”。周岁生日时要举行“抓周”仪式，此外，还有赠送虎头帽、虎头鞋的习惯，意为驱鬼辟邪，保佑小孩健康成长。

在江户，孩子出生以后要洗“产汤”（首次洗澡）、满月时要去“宫参”（初次参拜神宫），然后还有“初食”（百日开食，即出生后第一百二十天准备一套小孩专用的餐具，让小孩模仿吃饭），以祈求一辈子吃喝不愁。现在的“七五三节”是由过去的三个仪式传承而来，即三岁时的“发置”（首次留发）、五岁时的“袴着”（首次穿和服裙裤）、七岁时的“带解”（换腰带），这些仪式都是为了庆贺孩子的成长。另外，小孩在仪式上穿着的襦袢等衣服，要配以各种寓意吉祥的图案，比如麻叶代表降伏妖魔，宝物代表荣华富贵，还有其他一些代表吉兆的图案，表达人们驱邪祈福的心愿。

育てる

国は違えども、子供の健やかな成長を祈る思いは共通していたが、そのために行われる儀礼・習俗は様々であった。

北京の場合、子供が生まれて3日目に来客を迎えて宴席を開き、そしてはじめて産湯に浸からせる「洗三」や、最初の誕生日に書籍や筆、そろばんなど様々な品を子供の前に並べ、そこから何を手に取るかで将来を占う「抓周」などの儀礼が行われた。また、こどもが健康に育つように、悪鬼を威嚇する虎などの意匠を施した帽子、靴などを贈る習慣もあった。

江戸では産湯、そして生後1月ごろの宮参りにはじまり、生涯食べることに困らぬよう、生後120日目頃に小さな祝い膳を用意してこどもに食事の真似事をさせる「お食い初め」や、現在の七五三の元となった、三歳の「髪置」、五歳の「袴着」、七歳の「帯解」などの儀礼を行い、子供の成長を祝った。また、産着をはじめとした子供の祝い着には、魔を封じる麻の葉や繁栄を願う宝物の模様、その他吉兆を示す様々な意匠を施し、祈りをこめた。



汉装妇婴图 | 漢装婦嬰図 (赤子を抱く漢族の女性) Portrait of a woman and a child wearing traditional Han clothing

清 (1644—1911) | 清時代 (1644~1911) | Qing dynasty (1644~1911)
长 120 厘米; 宽 63 厘米 | 縦 120 cm 横 63 cm | Length: 120 cm, width: 63 cm
首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

画中一挽髻汉装女子身穿立领，大襟右衽的月白色袄子，周身绣满蝙蝠纹饰，领口、袖口、衣服下摆、裤管边饰有黑色素缎，领口绣蝙蝠纹，袖口绣如意云头纹，裤管边绣蝴蝶纹。女子面容姣好，足蹬红色绣鞋，三寸金莲隐约可见。孩子头扎朝天辫，身穿黑、绿色相间的肚兜，一条红色的开裆裤，伸手似要抓住母亲耳朵上所戴的翡翠耳环。

髪を丸く結い上げた婦人が、赤子を抱き片足を組んで椅子に座る。婦人の服は、立襟の大襟。右合せで薄水色の上着の袖口、胸元、裾を黒で縁取り、蝙蝠、如意雲紋の刺繍で飾る。ズボンの黒裾縁には、蝶の刺繍。踵の高い弓鞋きゆうあひと呼ばれる纏足用の靴を履く。周囲を剃った頭頂部で髪を結んだ赤子は、腹掛けにお尻の割れた幼児用ズボン姿である。



抓周用品 | 抓周用品一組 (子供の将来を占う道具)

Zhuazhou kit (Zhuazhou is an Asian ritual held at a child's first birthday party, when the child is 2 years old by Chinese reckoning. Various objects would be put in front of the child. The child's first pick of object is believed to forecast his future career.)

民国 (1912—1949) | 民国時代 (1912—1949) | Republic of China (1912-1949)

抓周盘及盘中之物: 长 35 厘米; 宽 35 厘米 | 縦 35 cm 横 35 cm | Length: 35 cm, width: 35 cm

首都博物館蔵 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

在北京, 孩子周岁生日时要举行“抓周”礼, 即将剪刀、算盘、针线、毛笔、墨、书籍等各种物品散乱摆放在孩子面前, 任其信手抓取。根据小孩无意识抓取到的物品, 来卜测其将来的性格及生活、职业、前途等运程。

北京では1歳の誕生日に「抓周」という儀礼が行われる。子供の前はさみ、そろばん、針や糸のセット、毛筆、墨、書籍など様々な品物をばらばらに広げてつかませる。そこで何気なくつかんだ品物によって、子供の将来の性格や暮らしぶり、仕事、行動などを占うのである。



虎头帽 | 虎頭帽 | Tiger hat for children

民国 (1912—1949) | 民国時代 (1912—1949) | Republic of China (1912-1949)

全长 23 厘米; 耳宽 17 厘米 | 全長 23 cm 横 17 cm | Perimeter: 23 cm, width: 17 cm

首都博物館 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

男孩儿的帽子多为虎头形状, 寓意借助虎威降服恶魔、保佑孩子健康茁壮成长。女孩儿的帽子多为莲花形状, 含有希望女孩儿长大后姿容娉婷如玉莲的心愿。“虎头帽”通常与“虎头鞋”配套穿戴。意在祝愿小孩子出行平安, “无病无灾、长大当官”、“望子成龙”等美好心愿。

北京の習俗で、子供に初めて被せる帽子。男児用は虎の頭の形をしたものが多く、虎の威力を借りて悪魔を征服し、子供が丈夫で素直に成長するようにとの願いが込められている。また、女兒のもの多くは蓮の花の形をしており、蓮の花のような容姿になるようにとの願いが込められている。「虎頭帽」は通常「虎頭靴」と合わせて着用する。



围嘴 | 圍嘴 (よだれかけ) Children's bib with embroidery

民国 (1912—1949) | 民国時代 (1912—1949) | Republic of China (1912-1949)

外径 28 厘米; 内径 7.5 厘米 | 外径 28 cm 内径 7.5 cm | Outer diameter: 28 cm, inner diameter: 7.5 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

围嘴用于婴幼儿进食时围套在颈部, 避免食物残渣污染衣物。此展品红底绣两只狮子, 寓意驱走恶魔。

子供の衣装によく用いられる赤い布に、悪魔を払う願いを込めた獅子 2 匹を刺繍したよだれかけ。



虎头鞋 | 虎頭鞋 (虎の子供靴) Silk and cotton tiger-head shoes for children

民国 (1912—1949) | 民国時代 (1912—1949) | Republic of China (1912-1949)

长 16 厘米; 宽 4.2 厘米; 高 5 厘米 | 長さ 16 cm 横 4.2 cm 高さ 5 cm | Length: 16 cm, width 4.2 cm, height: 5 cm

首都博物馆蔵 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

老北京, 有给小孩儿穿上虎头图案鞋子的习俗。鞋上一定会绣上虎眼, 而且还有“姑家送鞋, 姨家送袜”的说法。之所以赠送这种带眼睛图案的鞋子, 是希望它能够指引小孩儿看路识途, 走路稳健, 以免磕碰摔倒。

北京では、子供に虎か猫の頭の模様をした靴を履かせるという習俗がある。靴の上には必ず虎や猫の眼が刺繍されている。また、父方の姉妹は靴を贈り、母方の姉妹は靴下を贈る習慣もある。このように眼の図案がある靴を贈るのは子供が進んで行く道を導き、また転んだり、ぶつかったりしないようにとの願いも込められているのである。



棉袍 | 棉袍 (子供用綿入れ) | Silk, satin and, cotton quilted robe for boys

民国 (1912—1949) | 民国時代 (1912—1949) | Republic of China (1912-1949)

袖长 123 厘米; 身长 89 厘米 | 袖丈 (通長) 123 cm 身丈 89 cm | Sleeves length: 123 cm, full body length: 89 cm

纸 | いも垣間見ら | Silk, satin and cotton

首都博物館蔵 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China



风筝（沙燕儿）

風箏（燕が飛ぶ形を模した凧）

Paper kite in the form of a flying swallow

现代 | 現代 | Modern

长 50 厘米；宽 60 厘米 | 縦 50 cm 横 60 cm | Length: 50 cm, width: 60 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China



沙燕儿风筝外形模仿燕子，是北京最具代表性的一种风筝类型，也被称为“扎燕儿”。在沙燕的腋窝、前胸、尾羽等处加上蝙蝠的吉祥图案，寓意幸福。此风筝为黑白相间的平头沙燕。

本資料のようなツバメを模した凧は代表的な形状で「沙燕児」と呼ばれる。ツバメの胸や左右のわき、尾と翼には中国で縁起が良いとされるコウモリも描かれ、幸福への願いが込められている。白黒に燕模様の凧。（日本の奴凧とは、模様違い。）

风筝线轴 | 風箏綫軸（糸巻き）

Kite string reel

民国（1912—1949） | 民国時代（1912—1949） | Republic of China (1912-1949)

长 44 厘米；直径 20 厘米；厚 3 厘米 | 縦 44 cm 直径 20 cm 厚さ 3 cm | Length: 44 cm, diameter: 20 cm, thickness: 3 cm

首都博物馆蔵 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

放风筝时使用的绕线轴。风筝线一般用丝线、麻线、棉线等制成，偶尔放大风筝时也会用上麻绳，用麻绳时，要将绳子穿过陶瓷做的环，以免伤手。

凧揚げに用いる糸巻き。糸は絹糸、麻糸、木綿糸などを用いる。時には大きな凧を麻縄であげることがあった。そのときには陶磁器で作った輪に縄を通して、手を傷つけないようにしたという。



一生用度之测算 (记有江戸人一生大事及所需费用的印刷品) 人間一生入用勘定

Colored woodblock print showing main events with estimated costs during a person's lifetime in Edo

江戸后期 (1746—1841) | 江戸後期 (1746—1841) | Late Edo period (1746-1841)
 长 46.5 厘米; 宽 32 厘米 | 縦 32cm 横 46.5cm | Length: 46.5 cm, width: 32 cm
 江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

这幅木版画印刷品逐一记录了从出生到 60 岁 隐居生活所需花销的费用。除生育费、参拜神社的 礼物费, 以及和仪式有关的花销外, 还包括相当于 540 克一天的买米钱等等, 精细地计算出在江户度 过这一生所需费用。

生まれてから 60 歳で隠居するまでに掛かるお金 を箇条書きにして書き上げた摺物。出産の費用や宮 参りの土産代など人生儀礼に関わる出費のほか、1 日 3 合食べたとしての米代など、江戸で一生を暮ら すうえで必要な費用が細かく算出されている。(沓沢)



妇人一生 婴儿开食仪式图（描绘婴儿百日开食仪式的锦绘
[彩色浮世绘版画]）

婦人一代鑑 喰初の図

Colored woodblock print showing the Okuizome ceremony for a baby on their 100th day since birth

1843 年 | 1843 年（天保 14） | 1843

长 35.8 厘米；宽 23.4 厘米 | 縦 35.8 cm 横 23.4 cm | Length: 35.8 cm, width: 23.4 cm

第一代歌川国贞 / 画 | 歌川国贞（初代） / 画 | Artist: the First Utagawa Kunisada

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

孩子出生后第 100 至 120 天，举行“开食”仪式，带着一生不为吃饭发愁的愿望，为孩子准备小小的庆贺膳食，让孩子模仿着吃饭。本展品描绘的正是这个场景，右上方附有开食仪式的注释。

子供が生まれて 100～120 日目には、生涯食べることに困らないようにという願いを込めて、小さな祝い膳を用意して食事の真似事をさせる「お食い初め」が行われた。本資料はその様子を描いたもので、右上には解説も付されている。（沓沢）



浅黄平纹绸百宝纹贴金婴儿服（江戸武士家庭所用婴儿服） 浅黄平絹地宝尽文摺箔産着

Plain woven silk *kimono* for a new born baby of a *samurai* family in Edo

1817 年 | 1817 年（文化 14） | 1817

身長 86.3 厘米；袖长 31.1 厘米 | 身丈 86.3 cm 袖丈 31.1 cm 袖丈 45.2 cm | Length: 86.3 cm, sleeve length: 31.1 cm, sleeve width: 45.2 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

这是对马藩第十四代藩主宗義章穿过的婴儿服。用贴金的方式，勾勒出如意宝珠、万宝槌、装钱的金袋、隐身蓑衣等所谓百宝图案。按照江戸习俗，人们忌讳在出生前缝制婴儿服和出生后立刻穿上衣服（和服），带袖的新婴儿服要在出生 3～7 天后才穿上。

对馬藩十四代藩主宗義章そうよしあやが使用したとされる産着。如意宝珠や打ち出の小槌、お金を入れる金囊、隠れ蓑などを描く、いわゆる宝尽くし模様すりほくが摺箔で入れられている。江戸時代には、生まれる前から産着を縫うことや、生まれてすぐに着物を着せることを忌む風習があり、袖のある新しい産着は生後 3～7 日になってから着せた。（沓沢）





婴儿百日开食仪式使用的食案、碗 | 食い初め膳・椀

Dinner table with bowls used by a baby girl at the Okuizome ceremony on her 100th day since birth

大正时期 (1912—1926) | 大正期 (1912—1926) | Taishō period (1912-1926)

食案: 长 21.8 厘米, 宽 21.7 厘米, 高 11.5 厘米; 饭碗: 直径 8 厘米,

高 5.3 厘米; 汤碗: 直径 7.1 厘米; 高 6.5 厘米 | 膳: 縦 21.7 cm 横 21.8 cm 高さ 11.5 cm 饭碗: 径 8 cm 高さ 5.3 cm

汁椀: 径 7.1 cm 高さ 6.5 cm | Table length: 21.8 cm, width: 21.7 cm, height: 11.5 cm; Rice bowl diameter: 8 cm, height: 5.3 cm

汁椀: 径 7.1 cm 高さ 6.5 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

大正时期开食仪式上实际使用过的食案和碗。一般情况下, 如果是男孩用的食器就会被全部涂成红色。如果是女孩用的, 则只有内侧涂红色, 可见该套展品应为女孩子所用。

大正期に実際に使用されたお食い初めのお膳。一般に子供が男の子ならずべて朱塗りに、女の子なら内側だけ朱塗りにするとされており、本資料は女の子が使用したためこの配色となっている。(沓沢)

剃头（描绘孩子剃头情景的锦绘） | 頭剃り

Illustration depicting a child having his head shaved

宽政时期 (1789—1801) | 寛政年間 (1789—1801) | Kansei period (1789-1801)

长 37.6 厘米; 宽 24.9 厘米 | 縦 37.6 cm 横 24.9 cm | Length: 37.6 cm, width: 24.9 cm

喜多川歌麿 / 画 | 喜多川歌麿 / 画 | Artist: Kitagawa Utamaro

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

该图创作者哥磨，留下了众多以母子为题材的锦绘，这幅锦绘描写的是为孩子理发的人与抱着孩子的母亲。江户时期，儿童的头发在3岁之前都要剃短，3岁后不再剃头，开始蓄发。此时举行的蓄发礼称为“置发礼”。

母と子をモチーフにした錦絵を多く遺した歌磨の作で、子の髪を剃る^{かみゆい}髪結とその子を抱く母を描く。江戸時代、子供の髪の毛は3歳になるまでは剃って短くしていた。そして3歳を迎えると髪を伸ばすようになり、その際に行う儀式を「髪置」と呼んだ。(沓沢)



江戸风俗锦绘 商人家的着装仪式（描绘庆祝幼儿首次穿和服
裙裤仪式情景的锦绘） | 風俗東之錦 町家の袴着

Illustration depicting the *Hakama-gi* ceremony where a boy dons hakama-wear
for the first time in his life at the age of five

18 世纪后下半叶 | 18 世紀後半 | Second half of the 18th century

长 36.7 厘米, 宽 24 厘米 | 縦 36.7 cm 横 24 cm | Length: 36.7 cm, width: 24 cm

鳥居清长 / 画 | 鳥居清長 / 画 | Artist: Torii Kiyonaga

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

作品描绘了身穿男式小和服上衣与裙裤的男孩以及牵着他手的母亲及其他人物的形象。江戸时期, 男孩到了 5 岁, 要举行脱去幼儿衣服、初次换上裙裤的“着装礼”; 女孩到了 7 岁则要举行解下儿童腰带、第一次系上和大人同样腰带的“解带礼”。“着装礼”和“解带礼”连同 3 岁时举行的“置发礼”一起, 是现在“七五三成长礼”的由来。

小さな袴を身に着けた男児と、その手をひく母らの姿を描く。江戸時代には、主に 5 歳になった男児に対して、幼児用の着物に代えて初めて袴を身に付けさせる「袴着」の儀礼を行った。また 7 歳の時には主に女兒が、子供用の帯から初めて大人と同じ帯を締める「帯解」の儀礼をした。これらは 3 歳の「髪置」と併せ、現在の「七五三」のルーツとなった。(沓沢)



传统玩具泥面子（类似拍纸牌的游戏方式） 泥めんこ

Disc-shaped toys, *doromenko*, made from clay

江戸时期（1603—1867） | 江戸時代（1603—1867） | Edo period (1603-1867)

直径 2.1 ~ 2.7 厘米；厚 0.6 ~ 1.1 厘米 | 径 2.1 ~ 2.7 cm 厚さ 0.6 ~ 1.1

cm | Diameter: 2.1 ~ 2.7 cm, thickness: 0.6 ~ 1.1 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum



泥面子是用黏土做成圆盘状烧制成型的玩具，江戸后期十分受欢迎。当时流行的泥面子有很多种，图案包括有家徽、十二生肖、相扑力士的形象或姓名，多种多样，反映出当时流行的各种事物。民间除了向远处的小洞里投掷，或向插在地面的小树枝附近投掷等玩法外，也有为了祈求丰收，在田间地头埋下泥面子的做法。

粘土を円盤状に型抜きし、焼いて作った玩具で、江戸時代後期より流行した。絵柄は家紋や干支、力士の姿や名前など様々で、当時の流行を反映した多くの種類があった。遠くの穴に投げ入れる、地面に挿した枝などの近くに寄せて投げる、といった遊びに用いた他、豊作祈願のため畑に埋めることもあった。（沓沢）

江戸时代的龙风筝 | 江戸風 龍

Edo style kite with a *kanji* symbol for dragon

昭和时期（1926—1989） | 昭和時代（1926—1989） | Shōwa period (1926-1989)

长 81.5 厘米；宽 47.4 厘米 | 縦 81.5 cm 横 47.4 cm | Length: 81.5 cm, width: 47.4 cm

桥本禎造夫妇 / 作 | 橋本禎造、橋本きよ / 作 | Produced by Hashimoto Teizō and Hashimoto Kiyō

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

日本各地形状各异的风筝让人们乐在其中。在江戸地区，一种被称为“四角风筝”的长方形风筝甚为流行。风筝的图案有采用武士或歌舞伎演员或故事主人公等鲜活形象的，也有用独具特色的超大字体作为背景图案的。

風は日本各地で様々な形状のものが作られ、楽しまれていたが、江戸では角風と呼ばれる長方形の風が流行した。絵柄は武者や歌舞伎役者、物語の主人公などを色鮮やかに描くものや、江戸文字のような特徴的な文字を大きく配したものなど様々あった。（沓沢）



纸糊狗形玩偶（亦作吉祥物，祈求产妇平安分娩、孩子健康成长） | 犬張子

Dog-shaped Papier-mâché doll

昭和时期（1926—1989） | 昭和時代（1926—1989） | Shōwa period (1926-1989)
长 26 厘米；宽 14.5 厘米；高 33.3 厘米 | 縦 26 cm 横 14.5 cm 高さ 33.3 cm
 | Length: 26 cm, width: 14.5 cm, height: 33.3 cm
江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

用纸糊的立式狗雕像，被人们认为是象征着孩子的平安出生，也被认为是能够驱除妖孽的生灵。因此，这种纸糊的狗既可作为守护产妇的护身符，也可作为祈福孩子成长的吉祥物，故常用作礼品馈赠他人。

犬の立ち姿を模した紙製の置物で、犬が安産の象徴とされたこと、魔を払う生き物と信じられていたことなどから、出産のお守りや子どもの成長祈願の縁起物として、贈答に用いられた。（沓沢）



帮助迷路孩子回家的信息牌 迷子札

Children's emergency contact information tag

江戸时期（1603—1867） | 江戸時代（1603—1867） | Edo
period (1603-1867)
长 5.7 厘米；宽 3.5 厘米 | 縦 5.7 cm 横 3.5 cm | Length: 5.7 cm,
width: 3.5 cm
江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan
Edo-Tokyo Museum

江戸地区，由于人口众多，孩子一旦和大人走散，找起来十分困难。由于亲人失联的情况屡屡发生，为保险起见，人们把姓名和住址刻写在小标签上，让孩子随身携带，万一走失了，拾到孩子的人就能凭着标签上提供的信息把孩子送回家。

人口の多い江戸では、親が子どもとはぐれると見つめるのが難しく、時に生き別れとなってしまうことすらあった。そのため資料のような住所と氏名を刻んだ札を子どもに持たせ、迷子の際にはそれを頼りに家へと送り届けた。（沓沢）



玩具跳猴儿、跳兔儿、跳钟

とんだりはねたり 猿、とんだりはねたり うさぎ、とんだりはねたり 釣鐘

Jumping dolls (with figurines of monkey, rabbit and bell)

昭和时期 (1926—1989) | 昭和時代 (1926—1989) | Shōwa period (1926-1989)

长 5 厘米; 宽 3.8 厘米; 高 4.8 厘米 | 各 縦 5 cm 横 3.8 cm 高さ 4.8 cm | Each doll: length: 5 cm, width: 3.8 cm, height: 4.8 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

图为自 18 世纪末期开始在浅草寺内售卖的一种玩具。这些玩具的结构原理是：把纸质的戴着盖帽的玩偶放在地上，然后把插入底部的竹子朝相反方向扭转，竹子在反作用力下使得玩偶跳起来，此时玩偶头顶上的盖帽飞出去，面部就会呈现出来了。

18 世紀末頃より浅草寺境内で売られていた玩具。紙製の人形にかぶりものをかぶせ、底の方に差し込まれた竹を反対側にひねって床に置くと、竹の反発力で人形が跳ね上がり、かぶりものが飛んで顔があらわれる仕組みになっている。(沓沢)



第五节

节日

由于日本长期采用中国制定的历法，日本古代宫廷中举行的仪式也受到了中国很大的影响，后来这些仪式和活动又传入民间，因此在这方面日本与中国也有许多共通之处。如五月初五的端午节和九月初九的重阳节，其中相同的节日要素很多，比如都要用菖蒲或菊花来装饰。但是两国也有不同之处，比如三月三日的上巳节，在江户是作为女儿节来庆祝的，而中国清朝时这一节日已逐渐衰微。此外，八月十五中秋节这天，北京和江户的人们共赏同一轮明月。而一年之中最重要的节日莫过于新年，但两座城市在节日装饰和饮食方面有很大不同，体现了各自的特色。

歳時

日本では長い間、中国から伝来した暦を採用していたことや、古代日本の宮中で行われていた儀礼がやはり中国からの影響が強く、その行事が後に民間に浸透していったことなどから、祝う日も共通している部分が多い。5月5日の端午や9月9日の重陽といった節句は共通項も多く、どちらも菖蒲や菊を飾り祝っていた。一方で3月3日の上巳は、江戸では雛祭りとして賑わいを見せたが、清代の中国では行事としては廃れていた。その他、8月15日の中秋における月見も盛んで、それぞれの都市から同じ月を眺めた。何より1年で最も重要な年中行事はやはり正月であったが、飾り付けや料理などは大きく異なり、特色が現れている。



彩绘门神 | 彩繪門神 | A pair of divine guardians of doors and gates

清 (1644—1911) | 清時代 (1644—1911) | Qing dynasty (1644-1911)

长 61.7 厘米; 宽 31.6 厘米 | 各縦 61.7 cm 横 31.6 cm | Length: 61.7 cm, width: 31.6 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

在中国, 每年腊月二十三过后, 家家户户就要在门上张贴“门神”来迎接新年。门神据说起源于古代的“桃符”, 桃木原本就有驱魔的力量, 古代刻神像于桃木上, 挂在门旁希望能辟邪除灾、保护家人平安、迎祥纳福等。

旧暦の12月23日以降、新年を迎える一環として、家々は門に「門神」の刷り物を貼る。中国の住宅の門はたいてい2枚の扉でできているので、そこに「門神」となる武人の像を2枚向かい合わせに貼る。門神は桃の木の上に神像を描き、魔除けとして門口に掛けた古代の「桃符」に由来する。元来、桃には魔よけの力があるとされており、転じて門神も魔よけ、家内安全、無事息災などの効果があると信仰される。





过新年（年画） | 過新年圖（正月用吉祥画）

Woodblock print for decoration during the Chinese New Year festivities

清（1644—1911） | 清時代（1644—1911） | Qing dynasty（1644-1911）

长 133 厘米；宽 73 厘米 | 縱 73 cm 横 133 cm | Length: 133 cm, width 73 cm

首都博物馆 | 首都博物館藏 | Capital Museum, China

年画是为庆贺新年而在门口和室内墙壁上张贴的装饰版画，与门神一样是过年时的必需品。中国明代以后采用木版印刷技术开始大量生产，制作出许多精湛艳丽的彩色木版年画。年画题材广泛，有祈祷福寿富贵的，有描绘神话传说和民间故事的，还有跟教育子女有关的，上至达官贵人、下至普通百姓，深得各个阶层的喜爱。本展品表现了除夕一家团圆、祭祖拜神、守岁、娱乐、包饺子的热闹场面。

新年を祝うために、門口や屋内の壁に飾られる版画で、門神とともに年越しの必需品である。明代（1368-1644）以降、木版印刷によって大量生産されるようになり、鮮やかに彩色した木版年画も多く作られた。福寿や富貴を祈願する画、神話伝説・民間故事など見て楽しむ画、さらに子女を教育する画など幅広い題材を扱って、富裕層から庶民まで親しまれた。本資料には、大晦日に家族団欒で神や先祖を拝んだり、餃子を作ったりして楽しむ様子が描かれている。

钟馗像 | 鍾馗像

Portrait of Zhong Kui (a vanquisher of ghosts and evil beings in Chinese mythology)

清 (1644—1911) | 清時代 (1644—1911) | Qing dynasty (1644-1911)

长 275 厘米; 宽 85 厘米 | 縦 275 cm 横 85 cm | Length: 275 cm, width: 85 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

图为五月初五端午节悬挂的钟馗画像。传说钟馗是唐玄宗身患疟疾时，梦到的一个专门捕食恶鬼的人物。玄宗问及他身份时，自报本名为钟馗，因科举未中而自杀身亡。唐玄宗梦醒后病见好转，于是命画家吴道子把钟馗的形象画下来，此后这一传说在民间广为流传。大约在明代以后，钟馗兼掌端午克制五毒之任，因此每逢端午各家各户都悬挂钟馗画像来驱鬼镇邪。

5月5日の端午の節句に掛ける「鍾馗」の像。鍾馗は唐の玄宗皇帝が瘧（今のマラリア）を病んだとき、夢に現れて悪鬼を捕らえて食べたという人物で、皇帝が身分を尋ねると、みづから鍾馗と名乗り、かつて科挙の試験に及第せず、自殺したものであると語った。皇帝が目覚めると病気が治っていたので、画家の呉道子に命じてその像を描かせたという。この伝説は後に一般に広まり、端午の節句に厄除けとして鍾馗図を家々に飾る風習が生まれた。



天中五毒献瑞图

天中五毒献瑞图(端午の節句に掛ける絵)

Painting depicting five venomous creatures and a tiger celebrating the Double Fifth Day Festival (AKA: Dragon Boat Day)

清 (1644—1911) | 清時代 (1644—1911) | Qing dynasty (1644-1911)
长 213 厘米; 宽 77 厘米 | 縦 213 cm 横 77 cm | Length: 213 cm, width: 77 cm
首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

端午节又称“天中节”，画中五毒是指蝎子、蛇、蜈蚣、蟾蜍、壁虎，传统民俗认为每年夏历五月端午日午时，五毒开始孽生，老虎有震慑五毒以辟邪的说法。画中除了动物之外，还绘有各种时令鲜果。

「天中」とは端午の節句のことで、五毒はその時期に活発になり、毒をもつとされるサソリ、蛇、ムカデ、ガマ、ヤモリの5種の生き物を指す。中心には五毒を避ける力がある虎が描かれており、端午の節句には厄除けのためにこうした絵を掛けた。また絵の中には虎や五毒以外に、様々な旬の果物も描かれている。



五毒肚兜 | 五毒兜肚 (端午の節句用腹掛)

A child's bellyband with embroidery of a tiger fending off the five venomous creatures (to protect the wearer)

清 (1644—1911) | 清時代 (1644—1911) | Qing dynasty (1644-1911)
长 33 厘米; 宽 33 厘米 | 縦 33 cm 横 33 cm | Length: 33 cm, width: 33 cm
首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

黒地绣花肚兜，中心图案为老虎，周边绣五毒。

民间认为五月是五毒出没之时，为保护小孩免受毒虫的侵害，要给他们穿戴绣有这类纹样的肚兜，取虎镇五毒辟邪之意。

黒地に花、真ん中に虎、そしてその周りにサソリ、蛇、ムカデ、ガマ、ヤモリの五毒が刺繍された子供用の腹掛け。5月になると活発になる五毒に対抗するため、子供にはこうした刺繍の施された腹掛けを着せた。



兔儿爷 | 兔兒爺(中秋節に供える人形) Clay sculpture of the Tu'er Ye Rabbit God

现代 | 現代 | Modern

高 19 厘米 | 高さ 19 cm | Height: 19 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China



兔儿爷是八月十五中秋节祭拜的兔首人身泥偶。传统习俗中，由家中女性参加祭月仪式，当母亲忙于操办仪式，无暇照看小孩时，其他家人便用兔儿爷哄孩子。

此件兔儿爷两耳高耸，三瓣嘴紧闭，头戴缨盔，身着盔甲，外罩红色披风，手持捣药杵，面容憨态可掬，端坐虎背上。整个兔儿爷表情夸张，造型别致，色彩明亮。

兔兒爺は旧暦の8月15日の中秋節に関わる人身兔首の泥人形で、露天などで売られて子供の人気を引いた。中秋節の儀礼で女性たちが忙しく子守りできない時には、他の家族が兔兒爺で子供をあやしたという。

本資料は頭から耳を生やし、鎧兜と紅いマントを身に着けて、手には薬をつく杵を持ち、虎にまたがったユニークな造形をしている。

中秋拜月图 | 中秋拜月図

Picture depicting moon-worshipping activities
on the Mid-Autumn Festival Day

清 (1644—1911) | 清時代 (1644—1911) | Qing dynasty (1644-1911)

长 123.3 厘米; 宽 62.3 厘米 | 縦 123.3 cm 横 62.3 cm | Length:
123.3 cm, width: 62.3 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

本展品是描绘八月十五中秋节祭月场景的绘画。祭台上奉着一尊兔爷，两个孩童正在跪拜，不远处一男童手捧寿桃正走向另一名孩童，旁边立着一位仕女，手拿灵芝。

祭月是中秋节的传统习俗。明清时期，祭月的神像逐渐演变为月光菩萨与捣药玉兔，兔爷的形象就是从捣药的玉兔而来。

8月15日の中秋に月を祭っている様子を描いた図。設けられた祭壇には兔兒爺が祭られ、2人の子供がそれを拜んでいる。離れたところには桃饅頭を持った子供と、靈芝(レイシ)を持つ女性がいる。中国では中秋節の際、家ごとに月を祭る伝統習俗があり、明・清の時代からは、薬をつく兎も祭る対象となった。



九九重阳登高图 | 九九重陽節高登図

Picture depicting the celebration of the Double Ninth Festival

清（1644—1911） | 清時代（1644—1911） | Qing dynasty（1644-1911）

长 132 厘米；宽 71 厘米 | 縦 71 cm 横 132 cm | Length: 132 cm, width: 71 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

九月初九重阳节有携带茶果酒肴登高的传统，故也称作“登高节”。另外，九月正逢菊花盛开，人们盛行赏菊，也会食用菊花制作的重阳糕，饮菊花酒。这幅画作描绘了人们重阳节时，出门踏秋、登高游览、赏花的场景。

9月9日の重陽の節句には、茶菓酒肴を携えて高い所にのぼるという伝統的な習俗があり、それを「登高」と呼んだ。また9月は菊が見ごろになる時期で観菊も盛んであったことから、菊で作られた重陽糕（餅）を食べたり、菊の酒を飲んだりもした。本資料には人々が重陽の節句に出かけ、高所へ登って花見をし、秋を楽しむ様子が描かれている。



一年十二个月之江戸风俗 上 | 十二ヶ月年中江戸風俗 上卷

Scenes from *Drawings of Twelve-Month Themes* depicting Edo customs in the celebrations of the Japanese New Year

幕末时期—明治二十二年 | 幕末—明治二十二年 | Ca. middle of 19th century-1889

长 620 厘米; 宽 31.5 厘米 | 全長 620 cm 縦 31.5 cm

Length: 620 cm, width: 31.5 cm

山本养和 / 画 | 山本養和 / 画 | Artist: Yamamoto Yōwa

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

该画卷描绘了一年中不同月份的江戸街头风景，画中多为典型的商人形象。在《熙代胜览》中，我们可以清晰地看到类似卖布头儿的商贩。布头儿是在裁剪和服的过程中剩余出来的布的边角料，也有从污损、破损的和服上裁剪出来的还能用的小块布料。江戸时期的日本，平民百姓对小块布头儿的布料也要珍惜使用。此图中一处描绘的是年轻女孩子们高兴地对着各种布头儿品头论足的情景，生动自然，着实讨人喜欢。

各月における特徴的な商人等を江戸の路上風景に描き込んだ絵巻。ここでは特に「熙代勝覧」にも描かれている小切売に着目して欲しい。小切とは、着物をつくり出す過程で発生する布地の切れ端、あるいは汚損・破損した着物から、まだ使える部分を裁断した布地のこと。江戸時代の日本では小さな布も大切にされた。若い女性が嬉しそうに品定めしている様子が微笑ましい。



风流十二节（女儿节） | 風流十二節 雛祭

Colored woodblock print depicting the *Hina-matsuri* (Doll's Festival or Girl's Day)

安永时期（1772—1781） | 安永年間（1772—1781）頃 | An'ei period (1772-1781)

长 26.2 厘米；宽 19.3 厘米 | 縦 26.2 cm 横 19.3 cm | Length: 26.2 cm, width:19.3 cm

磯田湖龙斋 / 画 | 磯田湖龍齋 / 画 | Artist: Isodako Ryūsai

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

这幅画作描写的是三月三日的上巳节。画面左边有女儿节人偶做装饰，还供放着菱形年糕、蛤蜊等。在江户时期，人日节（正月初七）、上巳节、端午节、七夕、重阳等五个传统佳节被幕府定为正式的节日，无论武家还是平民都要庆贺。相对于祝福男孩色彩较浓的端午节，上巳节被看作是女儿节。因此，人们在庆祝上巳节时摆出人偶做装饰已经成为约定俗成的事情。

3月3日の上巳の節句を描いたもので、画面左には雛人形が飾られ、菱餅や蛤なども供えられている。人日・上巳・端午・七夕・重陽の五節句は、江戸時代に幕府の公式行事として制定され、武家・町人を問わず祝っていた。男児を祝う色合いの強い端午と対照に、上巳は女兒の節句として認知され、雛人形を飾って祝うことが定番となっていた。（沓沢）





享保人偶 | 雛人形 (享保雛)

Hina dolls (Kyōhō-bina) for display on the day of the *Hina-matsuri* (Doll's Festival or Girl's Day) celebration

江戸中期 (1680—1745) | 江戸中期 (1680—1745) | the Middle of Edo period (1680-1745)

男偶: 长 21 厘米, 宽 31 厘米, 高 40 厘米; 女偶: 长 23.5 厘米, 宽 43 厘米, 高 40 厘米

男雛: 縦 21 cm 横 31 cm 高さ 40 cm 女雛: 縦 23.5 cm 横 43 cm 高さ 40 cm

Male doll length: 21 cm, width: 31 cm, height: 40 cm; Female doll length: 23.5 cm, width: 43 cm, height: 40 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

在江戸初期, 所出售的女儿节人偶有纸质的, 也有站立的立偶。但随着时代变迁, 坐偶成为主流, 形状、大小多种多样, 也出现了施以精巧装饰的人偶。该展品为“享保人偶”, 顾名思义就是享保年间 (1716 — 1736) 流行的人偶, 其特点是大气而装饰豪华。正因为其豪华, 后来幕府还贴出告示, 对人偶制作的尺寸加以限制。

雛人形は江戸時代の初め頃には紙のものや立った姿の立雛などもあったが、時代が下るにつれて座り雛が主流となって形や大きさも様々になり、精巧な装飾を施されたものも登場した。本資料の享保雛はその名の通り享保年間 (1716-36年) に流行したもので、大型で豪華な装飾に特徴がある。その豪華さゆえに、後に幕府から寸法に制限を加える「お触れ」も出された。



日本木版画 鲤鱼旗 | 木版和紙 鯉のぼり Carp streamer (woodblock print)

江戸时期 (1603—1867) | 江戸時代 (1603—1867) | Edo period (1603-1867)
长 39 厘米; 宽 19.5 厘米 | 縦 19.5 cm 横 39 cm | Length: 39 cm, width: 19.5 cm
磯田湖龍齋 / 画 | 磯田湖龍齋 / 画 | Artist: Isodako Ryūsai
江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

在日本，每年五月五日的端午节，也被视作男孩子的节日。在武士阶层为统治主体的江戸时期，这一节日受到了特别尊崇。节日当天，老百姓不但要装饰有驱邪作用的菖蒲和艾蒿，还要在庭院前悬挂上形如鲤鱼的鲤鱼旗，以此来祈愿孩子的出生和成长。该展品是挂在屋内的一种简易装饰物。

5月5日の端午の節句は、男児の節句であるという認識があり、武家社会であった江戸時代には特に尊ばれた。この日は邪を払うとされる菖蒲や蓬を飾るほか、「こいのぼり」と呼ばれる鯉を象った幟を庭先に立てて、子供の成長と出世を願う習俗があった。資料は屋内でも飾れる紙製の簡易なもの。(杏沢)

十二个月图 五月钟馗画 | 鍾馗図

Portrait of Shōki (the Japanese name of the Chinese mythological figure “Zhong Kui”)

江戸后期 (1746—1841) | 江戸後期 (1746—1841) | Late Edo period (1746-1841)

长 128.4 厘米; 宽 49.9 厘米 | 縦 128.4 cm 横 49.9 cm | Length: 128.4 cm, width: 49.9 cm

长谷川雪旦 / 画 | 長谷川雪旦 / 画 | Artist: Hasegawa Settan

江戸东京博物馆重点展示 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

钟馗是中国古代被当作祛病消灾的神灵而信仰的形象。据传，唐朝时期一位皇帝（唐玄宗）为疾病所困扰，在他的梦中出现了引发他疾病的小鬼，后来钟馗出现了，消灭了小鬼，皇帝醒后病愈。在中国的端午节有挂钟馗画像的习俗，后来这一习俗流传到了日本，日本人会在五月初五端午节这天，悬挂钟馗题材的画作、旗帜以及摆放男孩节人偶等来庆祝节日。

鍾馗は中国・唐の時代に病に苦しむ皇帝の夢に現れて、病気の元となった小鬼を退治したという人物で、疫病を払う神として信仰された。端午の節句に鍾馗を描いた絵などを飾る習慣は中国にあり、日本にもそれが伝わって、5月5日は本資料のような鍾馗をモチーフにした絵画や幟のぼり、五月人形などを飾るようになった。
(杏沢)



五节之端午节 黄昏不见月（描绘端午节景象的锦绘） | 五節句の内 夕見ぬ月

Colored woodblock print depicting the celebration of *Tango no Sekku* (the Japanese version of Double Fifth Day in the lunar calendar)

江戸后期（1746—1841） | 江戸後期（1746—1841） | Late Edo period (1746-1841)

长 34.8 厘米；宽 23.4 厘米 | 縦 34.8 cm 横 23.4 cm | Length: 34.8 cm, width: 23.4 cm

歌川国芳 / 画 | 歌川国芳 / 画 | Artist: Utagawa Kuniyoshi

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

这是一幅以端午节为主题的锦绘，画面绘有男孩节人偶和旗幡以及手拿榊树叶的女子。端午节的节日食品原本是粽子，这也是由中国传入的，但从17世纪末到18世纪，日本出现了食用榊叶糕的习俗，并迅速普及，江戸地区也就渐渐不吃粽子了。

端午の節句を主題にした錦絵で、画面左手には五月人形と幟が描かれ、女性は柏の葉を手をしている。端午の節句の行事食としてはもともと^{ちまき}粽が一般的で、これは中国から伝わったものであったが、17世紀末から18世紀にかけて柏餅を食べるという習俗が現れて急速に広まり、江戸では粽が廃れていった。

（沓沢）



儿童五节游玩图（描绘七夕节的锦绘） | 子宝五節遊七夕

Colored woodblock print depicting the celebration of *Tanabata* (the Star Festival) from *Precious Children's Games of the Five Festivals*

寛政时期 (1789—1801) | 寛政年間 (1789—1801) | Kansei period (1789-1801)
长 38.1 厘米; 宽 25 厘米 | 縦 38.1 cm 横 25 cm | Length: 38.1 cm, width: 25 cm
鳥居清长 / 画 | 鳥居清長 / 画 | Artist: Torii Kiyonaga
江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

人们在七月初七七夕节，将写有自己愿望的纸笺、装饰物等系在小竹子上，寄托思念。正如此图中所描绘的，私塾中也过七夕节，不仅祈愿，还要让孩子们以写有诗歌的字帖为模本把愿望写在纸笺上，以求书法的进步。而且，这天通常食用挂面，也给认识的朋友赠送挂面。

七月七日七夕には笹竹に願い事を書き入れた短冊や飾り物を付け、人々は思いを託した。本資料に描かれるように寺子屋においても七夕は行われていて、この場合は願い事だけでなく、子供たちに詩歌の手本をもとに短冊へ書かせ、書の上達も祈った。またこの日は素麺を食することが一般的で、付き合いのある相手にそれを贈答することもあった。(沓沢)



《见立十二个月》之七月织女、八月中秋赏月 見立十二ヶ月七月織女八月月見

Scenes of the Chinese Valentine's Day and the Mid-Autumn Festival from *Figures for the Twelve Months*

1854年4月 | 1854年(安政1)4月 | April, 1854

长 36.8 厘米; 宽 25.2 厘米 | 縦 36.8 cm 横 25.2 cm | Length: 36.8 cm, width: 25.2 cm

第三代歌川丰国 / 画 | 歌川豊国(三代)・国久 / 画 | Artist: The third Utagawa Toyokuni

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

该作品是以年度活动为主题的系列画作之一，描绘了七夕的织女节和阴历八月十五日中秋节观赏满月的情景。在日本，赏月是在八月十五日和九月十三日这两天，日本的阴历十五日这一天和中国的阴历十五日日期是相同的。赏月当天，人们用芒草等秋天生长的草做装饰，并用米粉团和芋头等食物摆满桌案，享受赏月的乐趣。

年中行事を描くシリーズ画の一つで、七夕の織姫と十五夜の月見の様子を描く。日本の月見は8月15日と9月13日の2回あり、十五夜は中国とも共通する日付になっている。この日はススキなどの秋草を飾り、団子と里芋などを供えて月見を楽しんだ。(沓沢)



风流五节之重阳节（描绘重阳节景象的锦绘） | 風流五節句之内 重陽 Colored woodblock print depicting the celebration of the Chōyō (AKA: the Chrysanthemum Festival)

1843 年 | 1843 年（天保 14）頃 | 1843

长 37.4 厘米；宽 25.5 厘米 | 縦 37.4 cm 横 25.5 cm | Length: 37.4 cm, width:25.5 cm

第一代歌川国贞 / 画 | 歌川国贞（初代） | 画 | Artist: the First Utagawa Kunisada

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

重阳节又称“菊花节”，此时是赏菊的最佳时节，菊花成了举行各种活动的关键。这一天，江户人除饮用浸泡了菊花的菊花酒外，还要做应景的栗子饭。而且，菊花作为园艺植物也颇受欢迎。届时，还要举行盛大的培育菊花的园艺技能大赛。

重陽は別名「菊の節句」と呼ばれ、この時期に見頃を迎える菊の花が行事を中心となった。江戸の人々は菊の花を浸した菊酒をこの日に飲んだほか、同様に旬を迎える栗飯などを準備することもあった。また菊は園芸品種としても人気があったことから、このときには育てた菊の出来栄を競う会なども盛んに行われた。（沓沢）



第六节

教育

中国清朝的官办教育机构大体分为三级，最高一级是中央官学“太学”（国子监），其下是各地区设置的府学、州学和县学。此外，民间还有很多私塾。这些皆以儒学为主要教学内容，学生学习的最重要的目的是为了参加科举考取功名。

江戸时期的日本，官办教育机构除了有幕府直接管理的昌平坂“学问所”（学校）以外，还有各藩掌管的藩校等，主要面向武士阶层开展以儒学为中心的教育。民间则存在着各种各样的私塾，特别是“寺子屋”遍及全国各地，成为为庶民普及初级教育的重要场所。“寺子屋”除了教授读写以外，还针对学生的需求，编制教学计划，讲授算数、经商、地理等以实际应用为主的知识内容。

学ぶ

清代の中国では、明代に整備された最高学府となる「国学（国子監）」を頂点に、各地域に設置された府・州・県学、さらにその下で初等教育を担う社学・義学という三段階の公的な教育機関が存在し、儒学の啓蒙と、そして何より科挙の及第に向けた教育が為されていた。

江戸時代の日本では、公的な教育機関として幕府の直轄となる昌平坂学問所があったほか、諸藩が有する藩校などもあり、武士に向けて儒学を中心とした教育が行われていた。一方民間に目を向けると様々な私塾が存在し、特に庶民の子供たちが通う「寺子屋」は全国各地にあつて、初等教育を担う重要な場となっていた。寺子屋では、読み書きのほか算数や商売、地理など実学を中心とした内容を、生徒の必要に合わせた個人別のカリキュラムのもとに教えていた。



“科举”与“学问吟味”

“科举”是隋朝开始实行的官员选拔制度。清朝沿袭明朝，将科举考试分乡试、会试和殿试三级。考试内容多围绕儒家经典《大学》《中庸》《论语》《孟子》“四书”出题。

有段历史似乎不太为人所知，江户时期也曾经一度参考科举制度举办过考试。这项名为“学问吟味”的考试源于老中（江户幕府的职名）松平定信所倡导的宽政改革，是其改革的内容之一。从1792年（宽政四年）到1868年（庆应四年）期间，共计举办过19次考试，考题亦出自四书五经，与中国科举相似的地方很多。不同的是，虽然考试合格会对今后步入仕途有利，但是不会像科举考中那样直接得到录用。

科举と学问吟味

「科举」とは隋代に始まった官僚になるための採用試験制度で、これに合格すると家柄や身分に関係なく登用されたが、試験は非常に難しく、また官僚となれば地位と名誉が約束されることもあって、競争は苛烈を極めた。

清代の科举はその後の受験資格を得るための「童試（学校試）」と呼ばれる試験と、郷試・会試・殿試という三段階の本試験から構成され、数万～十数万人いる本試験の受験者から、殿試に至るのはわずか数百人という難関だった。試験は儒教の古典である『大学』『中庸』『論語』『孟子』の「四書」を中心に出题され、回答には「八股文」という特殊な文体が用いられた。

そして、あまり知られてはいないが、江戸でも科举を参考とした試験が行われていた時期があった。「学问吟味」と呼ばれたその試験は、老中松平定信による寛政の改革の一環として始められ、1792年（寛政4）から1868年（慶応4）の間で計19回行われた。試験問題も四書五経から出题するもので、科举と似かよ部分が多かったが、一方で合格しても、その後の出世に影響はあったが、科举のような直接登用にはつながらなかった。

闹学童图 | 鬧学童图（學習中に騒ぐ学童） | Pupils playing in class

清（1644—1911） | 清時代（1644—1911） |
Qing dynasty (1644-1911)
长 128 厘米；宽 73 厘米 | 縦 73 cm 横
128 cm | Length: 128 cm, width: 73 cm
首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital
Museum, China

画中描绘的是私塾里学童趁先生打盹酣睡时，乘机嬉闹的场景。同样的场景也出现在描绘江戸的“寺子屋”（私塾）的画作里。

私塾で、先生の休んでいるすきに騒ぎ出す学童を描く。江戸の寺子屋を描いた絵にも同様なものがある。



殿试卷 | 殿試解答作 (科挙の最終試験答案) 張鳳枝 / 答案

A candidate answer sheet for the final imperial examination

1795 | 1795 年 (乾隆六十年) | 1795

全长 216 厘米; 宽 42.5 厘米 | 全長 216 cm 縦 42.5 cm | Full unfolded length: 216 cm, width: 42.5 cm

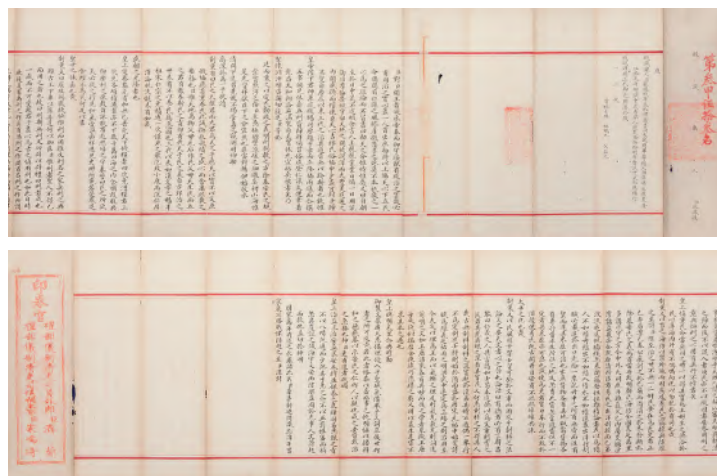
首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

科举制是中国古代通过考试选拔官吏的制度。清朝沿袭明朝的制度,分乡试、会试、殿试三个阶段。应试者会试中试后获得参加殿试的资格,会试由皇帝亲自主持,一般在紫禁城太和殿举行。

此殿试卷是乾隆六十年 (1795 年) 参加殿试,入选三甲五十三名,贵州毕节人张凤枝的答卷。张凤枝,字同六,号鸣歧,清高宗禅位仁宗乙卯恩科进士,官至江苏江安粮道。

科挙は、隋時代から清時代まで続いた中国の高級官僚資格試験制度である。清朝では明朝の制度を踏襲し、郷試、会試、殿試の 3 段階があり、最終の殿試は、皇帝立会の下、紫禁城太和殿で行われた。

本資料は、1795 年 (乾隆 60) に殿試を受験し、三甲五十三位に入った、貴州畢節出身の張鳳枝の答案作である。後に、役職の階級は江蘇省の江安糧道に至る。



清牙雕百寿图管笔 | 象牙百寿図毛筆

Ivory carved writing brush with the design of one hundred forms of the Chinese character for 'shou' (meaning longevity)

清 (1644—1911) | 清時代 (1644—1911) | Qing dynasty (1644—1911)

长 21 厘米, 顶宽 0.7 厘米, 底宽 0.9 厘米 | 長さ 21 cm キャップ径 0.9 cm 柄直径 0.7 cm

Length: 21 cm, holder diameter: 0.7 cm, cap diameter: 0.9 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China



清詹云从什锦墨（1套10件）

詹雲從墨詰合せ

Assorted inksticks crafted by Zhan Yuncong

清乾隆（1736—1795） | 乾隆年間（1736—1795） | During the reign of Qianlong Emperor, Qing dynasty (1736-1795)
首都博物館 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China



清漆砂深池长方形砚 | 漆砂深墨池長方硯

Rectangular lacquer-sand inkstone with fitted box

清（1644—1911） | 清時代（1644—1911） | Qing dynasty (1644-1911)
长 14.2 厘米，宽 8.5 厘米 | 縦 14.2cm 横 8.5cm | Length: 14.2 cm, width: 8.5 cm
首都博物館 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

此砚色泽青绿，长方形，大淌池，胎质轻巧，坚细耐磨，形制规整。砚侧刻篆书铭“葵生”。砚配天地盖，红色髹漆，漆色深沉古雅。盖面浮雕一枝寒梅，花瓣以螺钿镶嵌，晶莹剔透，古朴精美，盖底钤刻篆书印“卢葵生制”。配以瘦木砚匣。

硯全体が長方形の青緑色で、胎質は硬くなるのが特徴である。その側に篆書を刻んで、「葵生」と言う銘を記す。硯は赤い漆で覆われているが、浮き彫りにした蓋の表面に1本の冬至梅を浮き彫りにして、花びらは螺鈿細工で施し、きらきらと透明で、古朴で美しい。蓋の底に「盧葵生制」が見え、盧葵生の作品と示す。



《绘本荣家种》中的私塾景象 | 『絵本栄家種』より寺子屋の風景 Illustration depicting the scene of a private elementary school (*Terakoya*)

1790年 | 1790年(寛政2) | 1790

长 12.5 厘米; 宽 17.2 厘米 | 縦 17.2 cm 横 12.5 cm | Length: 12.5 cm, width: 17.2 cm

胜川春潮 / 画 | 勝川春潮 / 画 | Artist: Katsukawa Shunchō

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

这是将女性的一生制成画册的作品，该画册描绘的是女子幼年时期在私塾学习的场景。私塾是男女生同在一起学习的学校，私塾先生也有女性，这在城市尤为常见。私塾被称为“寺子屋”，顾名思义就是将寺院或神社的房间腾出来作为教室使用。但展品中描绘的私塾是老师自己家的住宅改成的教室，这种小型的私塾在江户比较普遍。

『絵本栄家種』は女性の一生を絵本にした作品で、展示の場面は幼少期の寺子屋での学びを描いている。寺子屋では男女が共に学び、また先生にあたる師匠にも女性がおり、特に都市部では多かった。寺子屋はその名の通り寺社の一室を使用することもあったが、本資料に描かれているような師匠の自宅を利用する零細なものが江戸では一般的だった。(沓沢)



书桌 | 天神机

Desk for private elementary school (*Terakoya*) pupils

1812年 | 1812年(文化9) | 1812

长 91 厘米; 宽 35.7 厘米; 高 25.8 厘米 | 縦 35.7 cm 横 91 cm 高さ 25.8 cm | Length: 91 cm, width: 35.7 cm, height: 25.8 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

“天神桌”是孩子们学习时使用的课桌。私塾规定，孩子在入学时要自带课桌，并放在教室里使用。《熙代胜览》中也画有拉着幼子，扛着课桌的男子，好像正在去私塾的路上。

天神机とは子供たちが使用した学習用の座り机で、寺子屋では入門の際に机を持参して教室に置き、使用する決まりになっていた。「熙代勝覧」にも、寺子屋へと向かうところなのか、天神机を担いで幼い子供の手をひく男性が描かれている。(沓沢)





《近代职业大全》中的私塾景象 「近世職人絵尽」より寺子屋の様子

Scene of a private elementary school (*Terakoya*) from “Kinsei Shokunin-e Zukushi”(Illustrations of Various Occupations and Professions), Vol. One

1890年 | 1890年(明治23) | 1890

长 1148 厘米; 宽 36.5 厘米 | 全長 1148 cm 横 36.5 cm | Length: 1148 cm, width: 36.5 cm

狩野晏川 / 画(北尾政美 / 原画) | 狩野晏川 / 画(北尾政美 / 原画) | Artist: Kanō Ansen (original by: Kitao Masayoshi)

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

该展品描绘了孩子们在私塾里学习的身影。他们好像并没认真学习，有的在高兴地涂鸦，氛围宽松活跃。但是，如果太过分了，就会受到训斥。左上方就画着一个孩子被罚坐在摞起来的桌子上，手里还提着水桶举着线香大哭。在桌子上被罚坐或罚站是固定的惩罚方式，线香用来计算被惩罚的时间。

寺子屋で学ぶ子供たちの姿を描く。あまり真面目に学んでいないのか、落書きをして楽しむ子がいるなど、大らかな雰囲気がある。しかし、行き過ぎると叱られるようで、左上には重ねた机の上に水桶と線香を持って座らされ、泣いている子供もいる。机の上に立たされたり座らされたりといった罰は定番で、線香はその時間を計るために持たされた。(沓沢)



《实语教》《童子教》（私塾用道德教科书）| 実語教童子教 *Textbook on Morals* for private elementary school (*Terakoya*) pupils

1783 年 | 1783 年（天明三年） | 1783

长 18 厘米；宽 24.5 厘米 | 縦 24.5 cm 横 18 cm | Length: 18 cm, width: 24.5 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

在私塾学习中使用的教科书称为“往来物”，这是因为它们是用来往信件的形式所编写，故得其名。江户时期，因为出版技术的发展，出版了各种各样的“往来物”。本展品是以儒教、佛教教义为基础进行道德教育的教科书，从中可以学到人生所需的各种礼节和与人交往的方式。

寺子屋での学習で使用した教科書を「往来物」と呼ぶ。これは、手紙の往信・返信の形で記述されていたことからその名があり、江戸時代には出版技術が発展したため、多種多様な往来物が刊行された。本資料は儒教・仏教の教えを基礎に道徳を説いた教科書で、生きていくうえで必要となる行儀作法や人との付き合い方などの様々を学ぶことができた。（杏沢）

《生意往来》（私塾用经商教科书）| 商売往来 *Textbook on Trade* for private elementary school (*Terakoya*) pupils

1818 年 | 1818 年（文政元年） | 1818

长 17.5 厘米；宽 25.3 厘米 | 縦 25.3 cm 横 17.5 cm | Length: 17.5 cm, width: 25.3 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

这是江户时期传播最广的“往来物”之一。书中的做买卖时使用的文字、货币、商品名称等自不必说，还收录了经商心得等内容，从中可学到怎样成为商人的基本技能。传授这些职业知识和技术的“往来物”，还包括农业、木工等领域的知识，内容丰富、种类繁多。

江戸時代に最も流布した「往来物」のひとつ。商いで使用する文字や貨幣、商品名などはもとより、商売をしていくうえでの心得なども収録されており、商人になるための基礎を学ぶことができた。こうした職業に関わる知識・技術を伝えるための往来物は、農業や大工など様々なものが刊行された。（杏沢）

《圣世江戸往来》（私塾用江戸地理教科书）| 聖代御江戸往来 *Textbook on the Geography* for private elementary school (*Terakoya*) pupils

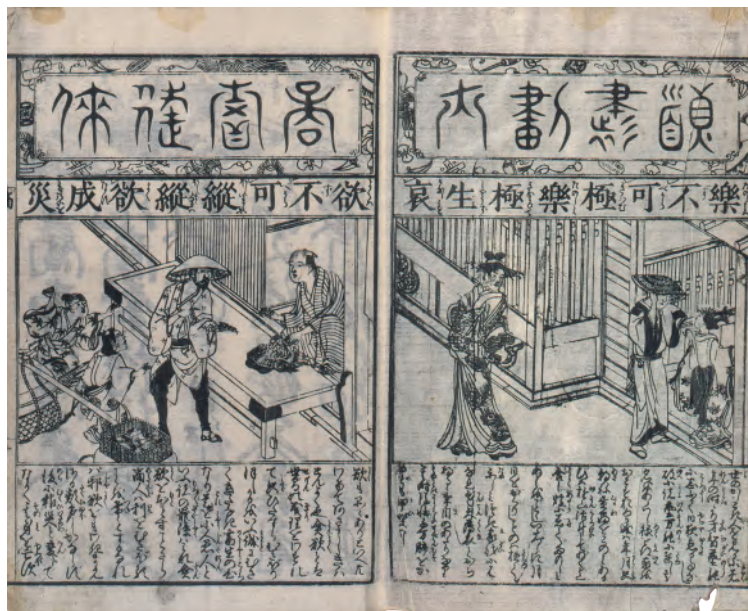
1779 年 | 1779 年（安永八年） | 1779

长 17.3 厘米；宽 25.2 厘米 | 縦 25.2 cm 横 17.3 cm | Length: 17.3 cm, width: 25.2 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

这是江户时期的“往来物”之一，它总结了江户城的方位、地名、里程数、名胜以及各地的特产等，相当于地理教科书。后来，随着江户的发展，不断增补、修订，广为普及。

「往来物」のひとつで、江戸の方角や地名、里程、名所や諸国の名産などをまとめた、いわゆる地理の教科書にあたるもの。江戸の発展にともない増補・改訂がなされて広く普及した。（杏沢）



《汤岛圣堂图》 | 湯島聖堂図

Illustrated folding screen decorated with the picture of the Confucius Shrine (*Yushima Seido*) in the Yushima area

1799年后 | 1799年(寛政十一年)以降 | Post-1799

长 167 厘米; 宽 101 厘米 | 縦 101 cm 横 167 cm | Length: 167 cm, width: 101 cm

櫻井雪鮮 / 画 | 櫻井雪鮮 / 画 | Artist: Sakurai Sessen

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

昌平坂学术机构是寛政改革后, 受到资金奖励而建立的一处直属幕府的教育机构。它位于汤岛街区, 毗邻孔子庙, 幕府大臣和各藩来的孩子们都在这里读书。画作展现了昌平坂学术机构以及毗邻的孔子庙的情景, 右侧的孔子庙是仿照中国四合院而设计建造的。

昌平坂学問所は寛政の改革における学問の奨励を受け、孔子を祀った湯島聖堂に隣して建てられた幕府直轄の教育施設で、幕臣や諸藩の子弟たちがここで学んだ。本図は隣り合う聖堂と学問所を俯瞰で描いたもので、右側の聖堂が中国に倣い四合院の形式で建てられていることがわかる。(沓沢)



登科录（幕府所举行的考试合格者名单） | 登科録

List of candidates who passed the civil examinations held by the Shogunate government
Post -1865

1865年后 | 1865年（慶応1）以降 | Post1865

长 17.7 厘米；宽 26.5 厘米 | 縦 26.5 cm 横 17.7 cm Length: 17.7 cm, width: 26.5 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

通过“学问吟味”学术考查，把通过考试的合格者按照成绩分成照甲、乙、丙三等，并记录在案，有别号“蜀山人”的大田南亩和人称“金四郎”的远山景晋等人的名字。虽然考试合格者不能马上获得职位，但有些人会因为考试结果而受到优厚待遇。例如，大田南亩在 1794 年（宽政六年）举行的考试中，成绩位列 237 名考生之首而受到褒奖，也在两年后受到重用。

「学问吟味」での合格者を甲・乙・丙といった成績順に記したもので、その中には大田南畝（蜀山人）や遠山景晋（金四郎）らの名前も見える。この合格により即役職に登用されることはなかったが、たとえば南畝は、1794 年（寛政 6）実施の試験で受験者 237 名のうち首席で合格し、褒賞を受け 2 年後に出世するなど、結果よっての優遇は存在した。（沓沢）



幕府所举行的考试标准答案集 甲寅廷試稿

Booklet of model answers for the civil examinations held by the Shogunate government

1852 年 | 1852 年（嘉永 5） | 1852

长 16.7 厘米；宽 23.8 厘米 | 縦 23.8 cm 横 16.7 cm

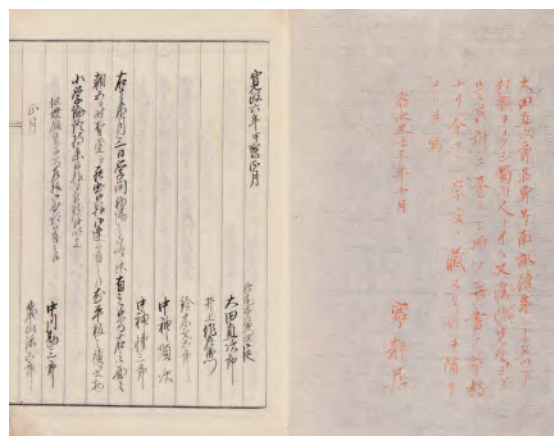
| Length: 16.7 cm, width: 23.8 cm

大田南畝 / 著 宁静居某 / 写 | 大田南畝 / 著 宁静居某 / 写
| Authored by Ōta Nanpo, copied by Neiseikyō Nanigashi

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

此件为大田南亩在学术考察中所做的答题样本的手稿。这样的手抄本广泛流传，为那些想考试合格的人提供了帮助。

大田南畝が記した学问吟味の模範解答集の写本。こうした写しは広く流布しており、試験の合格を目指すうえで助けになった。（沓沢）



第七节

娱乐

看戏是上至宫廷下至民间最大的娱乐消遣。汇集了各地文化的北京上演着各种地方戏剧，在兼收并蓄的基础上诞生了京剧，并逐渐成为中国的国粹之一。人们在茶馆里一边品茶一边欣赏戏曲、评书和相声等曲艺表演，茶馆同时也成为信息交流的场所。在外城天桥一带集中了多家戏园子、茶馆和撂地场子，杂耍班和艺人群体也聚集于此，娱乐消遣可谓一应俱全。每逢庙会，还会有街头表演等各种娱乐活动。养鸟、斗蛐蛐儿也十分盛行。

看戏同样也是江戸人最大的消遣，不论身份地位，无论是武士还是商人、手艺人、甚至女性都乐在其中。相扑也很受欢迎，有许多表现歌舞伎和相扑活动的锦绘（世俗画）出售。更简单的娱乐是去浅草寺等寺庙神社门前或防止火灾蔓延的空地等闹市区，那里集中了杂耍棚和小吃摊，是城市的一大游乐去处。此外，还有“赏虫鸣”、“逗鹤鹑”等感受季节、欣赏虫鸣鸟啼一类的富有闲情雅趣的活动。

遊ぶ

観劇は、宮廷から庶民にいたるまで最大の娯楽であった。広大な領域から文化が集まる北京では、各地方の演劇が上演され、それらを吸収、洗練させた京劇が誕生した。喫茶しながら演劇や講談・漫才などの演芸が楽しめる茶館は、情報交換の場でもあった。なかでも外城の天橋地区は、劇場、茶館、相撲（躰技）場のほか雑伎や芸人集団も集まり、娯楽の全てが揃っていた。寺院の祭事（庙会）では、大道芸など各種の娯楽が集合していた。喫茶や喫煙が生活に定着し、鳥を飼ったり、コオロギを飼育して聞わせることも盛んであった。

江戸の人々にとっても芝居見物は最大の娯楽で、身分の区別なく武士や町人、女性も楽しんだ。相撲の人気も高く、多くの歌舞伎や相撲の錦絵が売りに出された。より手軽な娯楽として、浅草寺などの寺社門前や火除け地などに広がる盛り場に出かけた。そこは、見世物小屋や食物屋台が集まる都市の一大遊興地だった。また、「虫聞き」や「^{うずら}鶉合わせ」のような、季節感や鳴き声を愛でる風雅な趣味もあった。



京剧戏装 | 京剧衣装 (臨潼山の武将装束)

Beijing Opera costume (worn by the actor playing a military officer in *Lin Tong Mountain*)

民国 (1912—1949) | 民国時代 (1912—1949) | Republic of China (1912-1949)

长 16.7 厘米; 宽 23.8 厘米 | 身丈 180 cm 袖全長 186 cm | Full length of sleeves: 186 cm, body length: 180 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

此套戏装为京剧名角之一马连良 (1901—1966 年)《临潼山》中登场的大靠、靠旗。“靠”是中国戏剧服装专用名称,在戏中是表现元帅、大将所穿用的戎服。此件为马连良先生在《临潼山》一出戏中扮演唐代皇帝李渊穿用的靠,体现了京剧融合汉族传统服饰的特点。形制为圆领,紧袖口,衣身分为前后两片,长及足,周身绣满表示甲片的图案纹样,特别是腹部所绣一对面相觑的龙虎,更显威武。背部扎系“靠盒子”,内插四面三角形的“靠旗”,颜色与靠衣相同,造型呈向外放射状。在戏剧中使用插靠旗,表示人物已经全副武装,处于临战状态。

京劇の演目の一つ『臨潼山』に登場する武将の鎧衣装。“靠”と呼ばれるこの衣装は、漢民族の伝統を融合させた京劇の特徴である。京劇を代表する役者の一人、馬連良 (1901 ~ 1966) がこの『臨潼山』で唐代の皇帝李淵を演じた際に着用した。特に虎と龍があしらわれた腹部は馬派の舞台衣装の特徴である。後方に放射線状に配置された三角形の旗は衣装と同じ色彩で、この旗を使うことにより完全に武装され、劇中において臨戦状態であることを表現している。



京剧故事挑头 | 京劇故事挑頭

Flags showing scenes of plots of different plays

清 (1644—1911) | 清時代 (1644—1911)

| Qing dynasty (1644-1911)

长 83 厘米; 宽 34.5 厘米 | 縦 83 cm 横 34.5 cm | Length: 83 cm, width: 34.5 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

张贴在舞台上的装饰旗。挑头上绘有剧目情节，用来讲述戏剧故事，便于观众提前理解剧情。

舞台上に張り出される装飾用の旗。それぞれ演目の大まかなストーリーが描かれており、観客が前もって物語を理解するために用いられていた。



京都三庆班剧本 | 京都三慶班脚本

Scripts used by the Sanqing Troupe (one of the Four Famous Anhui Opera Troupes)

清 (1644—1911) | 清時代 (1644—1911)

| Qing dynasty (1644-1911)

长 8.5 厘米; 宽 5.5 厘米 | 縦 8.5 cm 横 5.5 cm | Length: 8.5 cm, width: 5.5 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

三庆班，是中国清朝中后期活跃于北京的徽班之一，与四喜班、春台班、和春班并称为“四大徽班”。

“老三鼎甲”，同时也是“同光十三绝”之一的名角程长庚（1811—1879）曾担任其班主。三庆班尤其擅长编戏，一些剧目流传至今。

清朝中期到北京で活躍した演劇集団「徽班」の一つ三慶班が使用した脚本。四喜班、春台班、和春班と併せて四大徽班と呼ばれていた。三慶班は、特に長い編成の演目を評価され、今日に至っても、なおその演目の一部は広く伝えられている。後に“同光十三絶”の一人としても活躍する役者、程長庚(1811～1879)を輩出する。



斗蟋蟀图 | 闘蟋蟀図 (コオロギを闘わせる子供)

Painting depicting children enjoying cricket fighting

清 (1644—1911) | 清時代 (1644—1911) | Qing dynasty (1644-1911)

长 127.1 厘米; 宽 63.7 厘米 | 縦 127.1 cm 横 63.7 cm | Length: 127.1 cm, width: 63.7 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

游廊旁，三位儿童围在一起斗蟋蟀，引得一大一小两位女童怀抱着红衣孩提也前来观看，图下方有一孩童正俯身捉拿从罐中逃跑的蟋蟀。整个画面人物之间彼此呼应，神情连续，生活气息浓郁，富有情趣。

コオロギの飼育は、王公貴族から庶民、子供までもが夢中になった趣味である。闘わせる目的があったため、コオロギの値段は頭の形、歯、首のすわり具合、脚、ひげ、体色などで決められた。粘土や陶磁器の蓋付壺で飼ったが、道具類に凝る人も多く名人が作った容器には高値がついた。(江里口)



蚰蚰盖罐 | 蟋蟀盖罐 | Lidded jar for keeping pet crickets

清 (1644—1911) | 清時代 (1644—1911) | Qing dynasty (1644-1911)

盖直径 9.7 厘米; 底径 11 厘米; 高 7.5 厘米 | 盖径 9.7 cm 底径 11 cm 高さ 7.5 cm | Diameter (lid): 9.7 cm; (bottom): 11 cm, height: 7.5 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

斗蚰蚰，是中国一项古老的娱乐活动，清代时风靡北京城，就连饲养的用具都非常讲究。图中饲养蚰蚰的罐子，盖顶、器身、底部分别有 6 组团龙祥云图案，盖内侧印有 大象图案。盖顶外侧刻有“黻斋玩”与“庚寅秋日”字样。在罐子口沿下方、底沿上方、盖顶边缘各饰有一圈“回纹”，寓意富贵不断头。底面刻印“彭年”二字，这是清代制陶的著名手艺人杨彭年的作品，“黻斋”很有可能是他的店名。

コオロギの飼育容器。蓋上に「黻齋玩」「庚寅秋日」の文字が刻まれる。楕円形の雲気に潜む龍の吉祥文が、蓋表と胴部に貼付される。蓋の頂部と側面及び身の上下には、富貴が続くようにとの願いが込められた回紋が廻る。蓋は印籠蓋形式で、裏面に半肉彫りの大きな象一頭が貼付表出される。底面に「彭年」の刻印を持つ。これは、陶器の容器制作の名手であった楊彭年のことで、「黻齋」は彼の店名と考えられる。



斗蚰蚰工具 | 飼養蚰蚰工具 (探子、過籠) Bamboo tools for cricket fighting

现代 | 現代 | Modern

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

蚰蚰探子：斗蚰蚰的工具；由一根竹篾儿，头上绑一小段鸡毛翎管，在翎管上插上三五根有弹性的动物胡须做成的。用来拨动蚰蚰，让其分开或赶到一起，还可以撩拨蚰蚰尾部，以招其怒，引着蚰蚰去“斗架”。有些讲究的用象牙制成，并描绘各种纹样。

蚰蚰过笼：用于将蚰蚰从一个容器导入另一个容器。

探子は、棒の先に切り揃えた鶏の羽軸をつけ、その軸穴に弾力のある動物のひげなどを 3～5 本入れ束ねる。コオロギの誘導や引分けさせる時に使うほか、尻をつついて怒らせ挑発した。棒には、文様を描いたものや、象牙製の華美なものもあった。

過籠は、一端が開口していて、コオロギを他の容器に移す際に使う道具である。



鸟笼 | 鳥籠 | Bird cage

民国 (1912—1949) | 民国時代 (1912—1949) | Republic of China (1912-1949)
直径 29 厘米; 高 32 厘米 | 径 29 cm 高さ 32 cm | Diameter: 29 cm, height: 32 cm
首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China



养鸟、听鸟叫是很多北京人生活的一大乐趣。精工细作的鸟笼及笼中鸟也彰显了养鸟人的身份。

鸟笼由笼钩、笼抓、顶盖、内顶顶棚、笼圈、笼丝(竹丝)、笼门、托粪板等组成,笼内安有栖木(鸟杠)、食罐和水罐。此鸟笼设备齐全,没有过多繁缛的装饰。

小鳥を飼い、鳴き声を愉しむことは人気の趣味で、北京でもこだわりを持つ人々が多かった。細部にも意匠を凝らした鳥籠は、中の鳥と共に人間のステータスを証明する。

邸内だけでなく、鳥籠を下げて散歩し、道路沿いや茶館に集まって鳥籠を吊しては、鳴き声を愉しみ世間話に興じた。この清代から続く光景は、現在の北京でも見られる。

白釉红彩鸟食罐 白釉紅彩鳥食罐 (鳥の飼料入) Bird feeder

清 (1644—1911) | 清時代 (1644—1911) | Qing dynasty (1644-1911)
直径 6.2 厘米; 高 5.2 厘米; 厚 3.8 厘米 | 径 6.2 cm 高さ 5.2 cm 厚さ 3.8 cm | Diameter: 6.2 cm, height: 5.2 cm, depth: 3.8 cm
首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

装饰白地红彩宝相花纹的鸟食罐。呈半圆形，口部和底部包铜。食罐和水罐，一般为瓷质，老北京讲究的是“五罐一堂”，即两个食罐、两个水罐和一个吃软食、活食的“抹儿”。食罐中装硬食，即谷子、黍子、小米以及鸡蛋拌小米之类。软食即以肉切碎拌鸡蛋、和食面一类。

赤い宝相花文で飾られた粉彩磁器製の餌入れ。片面を垂直に切り落としたようなドーム型を呈し、口と底を銅で包む。水入れを2つ、餌入れを3つ備えることが普通で、道具だけでなく餌にも工夫が凝らされた。2つある硬食用餌入れには米やヒエなどの穀物類に卵を混ぜ、軟食用餌入れには細かくした羊肉に卵を混ぜた。



鼻烟壶（珐琅彩人物纹鼻烟壶，瓷釉里红龙鼻烟壶，白玉山水人物鼻烟壶，白地红套料荷花鼻烟壶）

鼻烟壶（珐琅彩人物纹烟壶、瓷釉里红龙烟壶、白玉山水人物鼻烟壶、白地红套料荷花烟壶）

Snuff bottle with the design of figures; Snuff bottle in underglazed red with the design of dragons; Snuff bottle with the design of landscape and figures; Snuff bottle with overlaid red-lotus design

清（1644—1911） | 清時代（1644—1911） | Qing dynasty (1644-1911)

通高 4.8—9.7 厘米 | 高さ 4.8—9.7 cm | Height: 4.8-9.7 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

鼻烟于明朝时从欧洲传入中国，康熙年间蔚为风尚。有关鼻烟的制作，先将优质的烟叶烘烤研磨，再掺入香料和药材配制后，密封数年发酵沉淀而成（使水分吸收香味提升的发酵过程）。蘸在拇指上用鼻吸闻，据说不但具有提神的功效，还可促进血液循环。中国鼻烟壶采用玻璃、陶瓷等多种材质，设计制作精美，匠心独运。珐琅彩人物纹鼻烟壶器物底书“乾隆年制”4字篆书款。

明時代にヨーロッパから伝来した嗅ぎ煙草が一般に普及したのは、康熙帝の頃であった。良質の火焙った葉タバコを粉碎して香料や薬剤を配合・調整し、数年間密封して発酵・陳化させる。親指に付けて鼻から吸うと、視覚が明晰となり血行を良くする効果があるという。ガラス、陶磁器など多種の材質で意匠に凝ったものが作られた。



珐琅水烟袋 | 琺瑯水煙袋 (水キセル)

Chinese Hubble-bubble pipe

民国 (1912—1949) | 民国時代 (1912—1949) | Republic of China (1912-1949)
高 41 厘米; 宽 8 厘米 | 高さ 41 cm 横 8 cm | Height: 41 cm, width: 8 cm
首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

水烟袋是吸烟的一种烟具, 装填细而均匀的烟丝, 烟气从水中通过后吸服。此件为黄铜制地, 主要由盛水的胎体、燃烧烟草的燃烟斗、长长的吸烟管和烟丝筒四部分组成。胎体为水烟袋的主要部分, 装饰着珐琅。水烟多为南方生产。清中期以后吸水烟在北京非常流行, 特别深受妇女和老人的喜爱。据说慈禧太后就非常喜欢抽水烟。

水煙袋は、糸のように細い刻み煙草を使い、煙草の煙を水に通して吸う喫煙具。水を入れる胴部と煙草燃焼部、長い管状パイプ、煙糸筒で構成される。胴体には珐瑯で水上の東屋や樹木、山や石、建物が表され、華やかである。水煙は南方産で、清中期以後に北京で大流行した。特に老人や女性にたいへん好まれ、後の西太后も愛好したという。



烟草盒 | 煙草盒

Tobacco container

清 (1644—1911) | 清時代 (1644—1911) | Qing dynasty (1644-1911)
高 8 厘米; 直径 7.5 厘米 | 高さ 8 cm 直径 7.5 cm | Height: 8 cm, diameter: 7.5 cm
首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

盛放烟丝用的金属小罐, 采用掐丝珐琅的工艺镶嵌松石绿, 呈鱼鳞状, 顶盖中心用画珐琅的方式绘有团寿图案。颜色明亮艳丽, 设计简洁精炼, 令人过目难忘。

刻み煙草用の金属製容器で、挿掐糸珐瑯の技法で松石緑を埋め、鱗状の文様を描く。蓋の中央部に、寿の文字を丸く図案化した文様を施し、鮮やかな色と洗練されたデザインが印象的である。



旱烟斗 | 旱烟煙管 | Tobacco pipe

现代 | 現代 | Modern

长 67 厘米 | 長さ 67 cm | Length: 67 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

黄铜质地的吸烟用具，装填的烟末略粗。满族妇女大多有吸烟的习惯。至今东北有些满族聚居区，婚礼上还有“装烟礼”的风俗仪式，一杆精致的旱烟袋也是必不可少的嫁妆。

銅製の喫煙具で、満州族の女性には喫煙の習慣があり、煙管は嫁入り道具には欠かせない物であった。現在でも東北の満州族居住地区では、婚礼に煙草を入れる儀式が残っている。



烟草包 | 煙草入 | Tobacco pouch

清 (1644—1911) | 清時代 (1644—1911) | Qing dynasty (1644-1911)

长 11 厘米; 宽 9 厘米 | 縦 11 cm 横 9 cm | Length: 11 cm, width: 9 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

烟草包是装烟末的专有工具，一般是系在烟具上的束口袋。此袋绣工精美，蓝色的绸缎上，绣着几只摇曳的兰草，和亭亭玉立盛开的兰花，枝叶与花瓣都采用渐变的手法，表现出绣工高超的技术。黑色绸缎的上部系有绳子，以便悬挂和收紧，底部一周以黄色锁绣技法装饰边缘。整体配色协调沉稳，又不失高雅。

这样的烟草包在印版《康熙六旬万寿图》中也能看到，其中描绘了右手拿烟管、左手拿烟草包的人物，以及店铺门前当作商品招幌悬挂的袋子，可见在 18 世纪的中国曾非常普及。

刻みタバコなどの喫煙用具を入れる巾着袋で、サテン地にオモダカのような白い花を刺繍する。この形の煙草入れは、『万寿盛典』にもみることができる。右手に煙管、左手に煙草入れを持つ人や、店先に商品看板のようにつり下げられた巾着袋などが描かれており、18 世紀には広く普及していたことがわかる。



摔跤图 | 摔跤图 (中国相撲図卷)

Hanging scroll depicting *Shuaijiao* wrestlers (pertaining to the ancient jacket wrestling in the form of a martial arts system)

清 (1644—1911) | 清時代 (1644—1911) | Qing dynasty (1644-1911)

长 148 厘米; 宽 68 厘米 | 全長 148 cm 縦 68 cm | Length: 148 cm, width: 68 cm

首都博物馆 | 首都博物館蔵 | Capital Museum, China

清朝为了训练八旗子弟的摔跤技术，曾设立“善扑营”。民间在北京的各个市场（旧货市场、路边货摊、杂耍卖艺表演集中的场所）都设有摔跤表演场。

图中 15 名摔跤手身穿满族传统套裤，发辫束起，其中有五组人物，两两成对，正施展扑、拉、甩、绞等技巧制服对手，另外五人聚在周围，或整理衣服，亟待上场，或细细端详，领会要领，此画展现了摔跤不仅能强身健体，更具有很高的观赏性和娱乐性。

相撲に似た一種の競技パフォーマンスである。清朝には八旗の子弟の摔跤技術を訓練するために「善撲營」が設立された。摔跤のパフォーマンスは多くの観客を魅了するものであった。北京の各市場（蚤の市や露店、大道芸人がパフォーマンスをするところなど）には「摔跤」（レスリング）の競技場が設置される。



《东都名胜二丁町戏剧繁荣图》（描绘江戸戏院繁盛地的锦绘）
東都名所二丁町芝居繁荣之図

Colored woodblock print depicting the boisterous playhouse streets near to Theater District of Edo

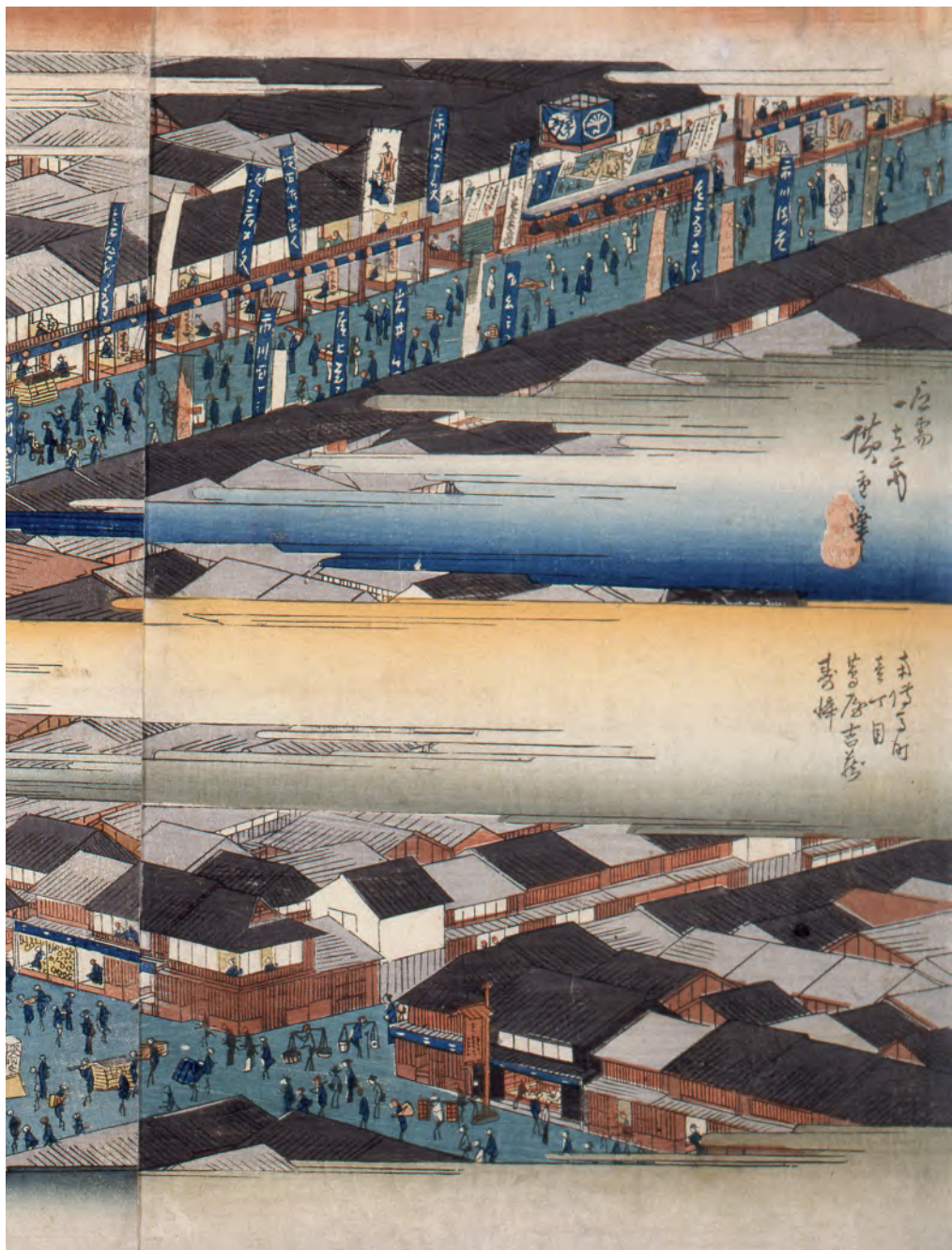
天保年间（1830—1843） | 天保年間（1830—44年） | Tenpō (1830-1844)

长 76 厘米；宽 37 厘米 | 縦 37 cm 横 76 cm | Length: 76 cm, width: 37 cm

歌川广重 / 画 | 歌川広重 / 画 | Artist: Utagawa Hiroshige

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum





这是会聚歌舞伎戏剧表演的二丁町的俯瞰图，画面中央上方带高台的建筑叫“市村座”剧场，其右侧里面是“中村座”剧场。以“市村座”剧场为中心的葺屋町和与之相邻的“中村座”剧场为中心的堺町合称为“二丁町”。直至因天保改革，戏棚搬迁到浅草猿若町为止，这里一度作为江戸歌舞伎演出的中心，曾经热闹非凡。

歌舞伎の芝居町を俯瞰で描いた図で、画面中央上の櫓のある建物が市村座、その右奥が中村座である。市村座を中心にした葺屋町と、中村座を中心にした堺町という隣り合った2つの町は併せて二丁町と呼ばれ、天保の改革により芝居小屋が浅草猿若町へと移転するまで、江戸歌舞伎の中心として賑わっていた。（沓沢）

《戏剧大繁盛之图》（描绘戏院内部情景的锦绘） | 芝居大繁昌之图

Colored woodblock print depicting the inside of a theater

1815—1842年 | 1815—1842年（文化12—天保13） | 1815-1842

长 75 厘米；宽 37.6 厘米 | 縦 37.6 cm 横 75 cm | Length: 75 cm, width: 37.6 cm

歌川丰国画 | 歌川豊国画 | Artist: Utagawa Toyokuni

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

一般认为，这幅图取材于文化十四年三月首演的《樱姬东文章》中的歌舞伎舞蹈。舞台中央的左侧画的人物是第七代市川团十郎。观众席上从盛装打扮的女子到单手拿食物看戏的平民，各色人物布满画面，说明当时的歌舞伎艺术受到各阶层人民的广泛喜爱。

文化十四年三月初演の「桜姫東文章」での所作事（歌舞伎舞踊）に取材したと思われるもので、舞台の中央左には七代目市川團十郎が描かれている。客席は着飾った女性から、食べ物を片手に見る庶民まで様々な人物が埋め尽くすように配されており、当時の歌舞伎が広い層に愛されていたことが伝わる。（杏沢）





《剧场训蒙图集》（歌舞伎各相关事项的解说） | 『戲場訓蒙図彙』
Illustrated Guidebook for Kabuki Beginners explaining many of facts concerning
the *Kabuki* theater

享和三年正月 | 1803年(享和3) | 1803

长 21.5 厘米; 宽 15.7 厘米 | 縦 21.5 cm 横 15.7 cm | Length: 21.5 cm, width: 15.7 cm

式亭三馬 / 著, 胜川春英・歌川丰国 / 画 | 式亭三馬 / 著 勝川春英・歌川豊国 / 画

Authored by Shikitē Sanba, illustration by Katsukawa Shun'ei and Utagawa Toyokuni

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

这是一本运用插图解说歌舞伎各种相关事项的启蒙读本。凭借以写滑稽小说著称的剧作家式亭三马的巧妙构思，将歌舞伎的世界比作一个国家介绍给世人。幽默地讲述了自创立以来发展的历史，从当代明星演员到后台工作，甚至到发型、化妆、舞台上出现的动植物，都一一做了详尽的介绍。

歌舞伎に関する様々な事項を絵入りで解説した本であるが、滑稽本で知られた戯作者式亭三馬によって、歌舞伎の世界をひとつの国として紹介するという趣向が取られている。歌舞伎の歴史を天地の開關から説明するなどユーモアに富んだ記述で、当代の人気役者から裏方の仕事、さらには髪型や化粧、登場する動植物にいたるまで様々な事項を紹介している。(沓沢)

助六所縁江戸桜（绘有江戸时期古典歌舞伎流行剧目出场人物的锦绘） 助六所縁江戸桜

Colored woodblock print depicting actors dressed in *Sukeroku Yukari no Edo Zakura*

1811年 | 1811年（文化8） | 1811

长 75 厘米；宽 37 厘米，带框长 91.2 厘米；宽 46.5 厘米，三个连续的画面 | 縦 37cm

横 75cm | Length: 75 cm (91.2 cm with frames), width: 37 cm (46.5 cm with frames)

歌川丰国 / 画 | 歌川豊国 / 画 | Artist: Utagawa Toyokuni

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

这幅锦绘取材于歌舞伎代表剧目之一的《助六所縁江戸桜》，描绘了文化八年二月在市村座剧场首演的情景。中间站立者为第七代市川团十郎饰演的助六（主人公），左边是第五代岩井半四郎扮演的扬卷（艺妓名），右边是第五代松本幸四郎扮演的意休（另一角色名）。在歌舞伎的世界里，有世袭艺名的习惯，市川团十郎是其中最著名望的名号。最初饰演“助六”的就是第二代市川团十郎，深受当时人们的喜爱。

歌舞伎の代表的な演目のひとつである「助六所縁江戸桜」の文化8年2月市村座での初演に取材した錦絵。中央は七代目市川團十郎演じる助六、左は五代目岩井半四郎の揚巻、右は五代目松本幸四郎の意休。歌舞伎の世界では名跡と呼ばれる名前を代々襲名する習慣があり、市川團十郎はそのなかでも最も権威ある名であるとみなされている。本資料の「助六」も、原型となるものを二代目團十郎が演じ、人気を得たものである。（沓沢）





绣有门松和羽球球板等表示正月意义图案的黑缎子面女士和服
 黒緞子角松に羽子板の飾り総縫正月柄内掛

Kimono custom (uchikake) for female characters with the New Year's motif of kado-matsu-and-battledore racket embroideries (replica)

现代 | 1992年(平成4) | 1992

身長 198.3 厘米; 通袖长 142 厘米 | 丈 198.3 cm 衿丈 142 cm | Length: 198.3 cm, Sleeve length: 142 cm

松竹衣裳株式会社 | 松竹衣裳株式会社 / 制作 | Crafted by the Shōchiku Costume

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

这是歌舞伎演员演出剧目《助六由縁江戸桜》的主要人物之一——青楼女子扬卷时穿的礼服复原装。这种礼服穿着时是从上而下套在身上的，无需束带。礼服的背部点缀着绳结饰物伊势虾，下摆是用大角松以及代表新年正月的竹梅和羽球球板等图案作为装饰。

歌舞伎の演目「助六由縁江戸桜」の主要人物の一人、遊女揚卷の衣裳の^{うちかけ}襦袢を復元したもの。襦袢とは、帯を締めずに上から羽織って着用する小袖様式の衣服。この襦袢には、背中心に水引と熨斗がつけられた伊勢海老が、裾には大きな角松飾りが配され、他にも竹、梅、羽子板といった正月を表わす文様があしらわれている。(川口)

中村班的登场亮相名单 | 中村座顔見世番付

Full ranking cast list of the Nakamura troupe's debut performance of the year

1772年 | 1772年(明和9) | 1772

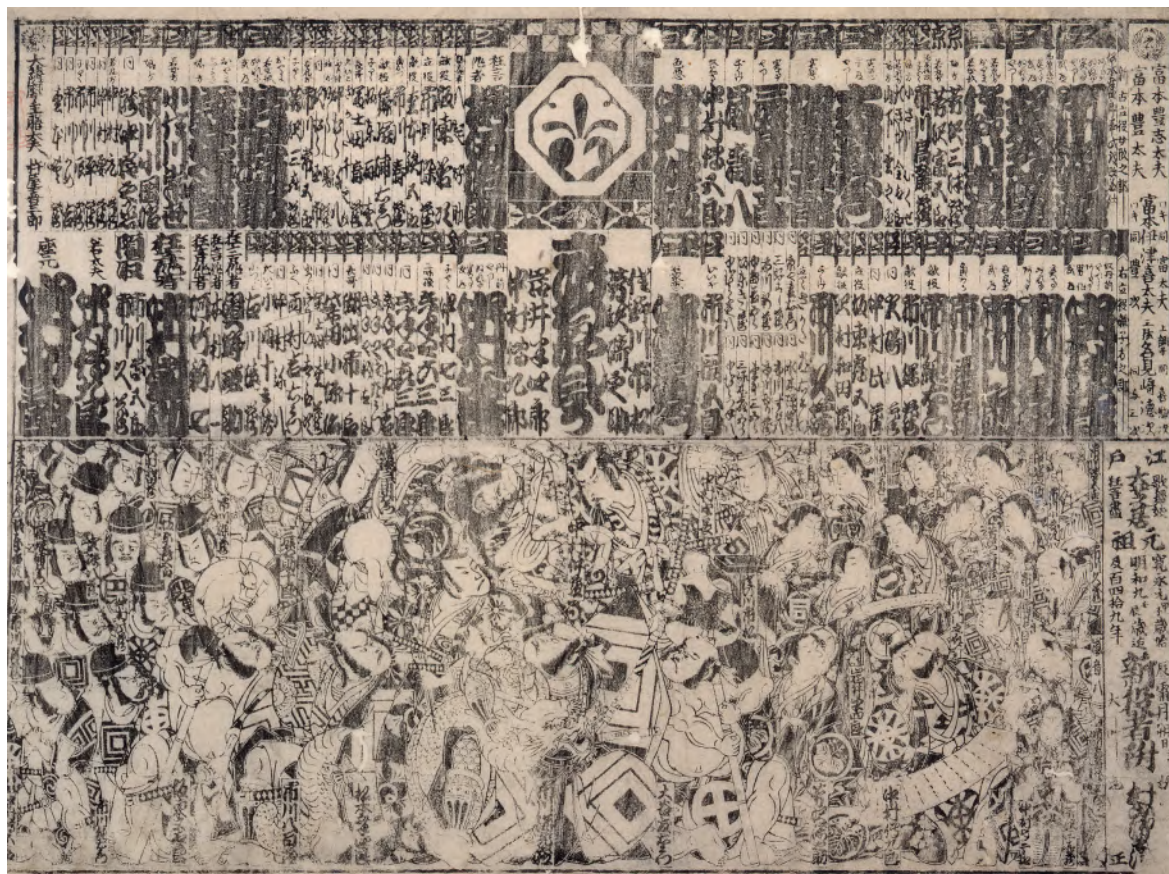
长 43 厘米; 宽 32 厘米 | 縦 32 cm 横 43 cm | Length: 43 cm ; width: 32 cm

第一代鸟居清満 / 画 | 鳥居清満 (初代) / 画 | Artist: The first Torii Kiyomitsu

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

江戸時代の歌舞伎演职人员大都和剧院签订为期一年的合同，时间一般为当年的11月到次年的10月。11月是剧团在一年中的首次亮相，全体演职员都要粉墨登场，这是一项非常重要的活动。在此之前，用以画像和文字为主的中村班的登场亮相名单也要介绍新的演员。这张名单的上半部分罗列了演职员、剧作家、伴奏以及舞美设计等工作人员的名字，下半部分并排展示了演职员的画像。文字或画像的大小以及排序是根据剧团中演员们的序列决定的。

江戸時代の歌舞伎役者は、芝居小屋と一年（11月から10月まで）単位で契約を結んだ。一年はじめの興行となる11月の「顔見世興行」は、その先一年の新たな顔ぶれを披露する重要な興行であった。顔見世番付は、その興行に先立って刊行され、一座の顔ぶれを文字と絵によって伝えた。本資料の上半分には、役者、狂言作者、囃子方、振付師などの名が連記され、下半分には、役に扮した役者達の絵姿が並ぶ。文字や絵の大きさや配置は、一座内での役者達の序列に従って決められた。（春木）



常盤津本 《积恋雪关扉》 | 常磐津本 『積恋雪関扉』

Script of the rhythmic narratives for the *Tokiwazu dance-drama Tsumoru Koi Yuki no Sekinoto*

1784年11月 | 1784年(天明4)11月 | November, 1784

长 26.3 厘米; 宽 19.2 厘米 | 縦 26.3 cm 横 19.2 cm | Length: 26.3 cm, width: 19.2 cm

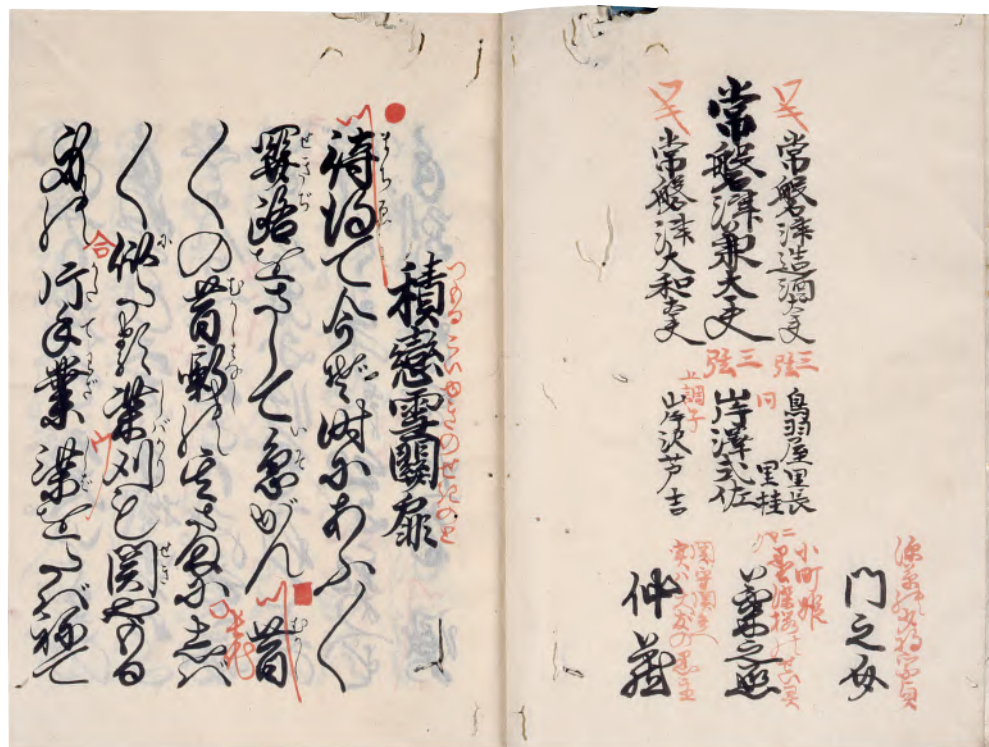
宝田寿来 / 作词, 初代鸟羽屋里长 / 作曲 | 宝田寿来 / 作詞 / 初代鳥羽屋里長 / 作曲

| Lyrics by Takarada Jurai / Composed by The first Tobaya Richō

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

《积恋雪关扉》是一部以在大雪中开满樱花的逢坂山关卡为舞台背景，由平安时代的歌者及樱花仙子以舞蹈形式表现的歌舞伎剧目。该剧的舞台效果梦幻而多变，当时颇受欢迎，即便在当代，该剧也被频频上演。表演者在三味弦的伴奏下，一边舞蹈一边和着“净琉璃”的曲调。故事在旁白和音乐的节拍中娓娓道来。本展品展示的是旁白诵读的格律韵文。据说曾经有很多人练习此韵文，所以从江戸后期到明治时期作为样本被反复印制出版。

『積恋雪関扉』は、雪中に桜が咲く逢坂山の関を舞台に、平安歌人や桜の精が舞い踊る、歌舞伎舞踊劇。幻想的で変化に富んだ舞台は人気が高く、現代でもたびたび上演される演目である。舞踊は、三味線による伴奏と、太夫による節をつけた語りに合わせて行われる。本資料は、太夫が読む詞章を掲載した書物である。本演目の詞章は、稽古用にもとめる人が多かったようで、江戸後期から明治にかけて、版本となり繰り返し出版された。(春木)





仿照相扑赛台与相扑裁判指挥扇而制的烟具盘 土俵軍配意匠煙草盆

Tabako-bon (tobacco tray) in the form of a *sumo* wrestling ring and a *gunbai* umpire's fan

江戸后期 (1746—1841) | 江戸後期 (1746—1841) | Late Edo period (1746-1841)

长 21.7 厘米; 宽 13 厘米; 高 15.5 厘米 | 縦 13 cm 横 21.7 cm 高さ 15.5 cm | Length: 21.7 cm, width: 13 cm, height: 15.5 cm

珉雪斎久甫 / 铭文 | 珉雪斎久甫 | 銘 | Maker's mark inscribed on tray (maker's name: Binsetsusai Kyūhō)

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

江戸前期, 相扑在京都、大阪等周边地区相当盛行。但到了 18 世纪后半期, 由于著名力士的参加以及专供幕府将军御览的大相扑赛事的举办, 江戸逐渐成为相扑比赛的中心并得到繁荣发展。此件烟具盘就是把象征相扑的裁判指挥扇和相扑赛场的场景融入到设计中, 立体再现了江戸时期采用的赛场的样貌, 成为了解当时相扑竞技的珍贵资料。

相撲は江戸時代の前期には京都や大阪など上方で盛んであったが、18 世紀の後半に入ると名力士の登場や将軍の上覧相撲開催などもあり、江戸に中心が移って隆盛を迎えた。本資料は相撲の象徴である軍配と土俵をデザインに取り入れた煙草盆で、土俵は江戸時代に用いられていた形を立体で再現していることから、当時の相撲興行の様子を知るうえでも貴重な資料である。(沓沢)

劝布施大相扑比赛之入场仪式图

勧進大相撲土俵入之図

Colored woodblock print depicting the ring-entering ceremony of *sumo* wrestlers

1844—1847 | 弘化年間（1844—1847年） | 1844-1847

长 75 厘米；宽 37 厘米 | 縦 37 cm 横 75 cm | Length: 75 cm, width: 37 cm

第一代歌川国贞 / 画 | 歌川国贞（初代） | 画 | Artist: the First Utagawa Kunisada

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

该画作描绘了大相扑开赛前力士们在赛台上举行仪式的情景。画面左侧是已经入场的西方力士，右侧则是上场的东方力士。很多锦绘都以这种构图方式描绘相扑以及相扑比赛的盛况，并介绍拥有高级头衔的相扑力士，带有明星秀的意味。

土俵入りの様子を描いたもので、画面の左側には土俵入りを終えた西方の力士を、右側には代わって土俵へ上がる東方の力士をそれぞれ配している。この構図で描いた相撲錦絵は数多くあり、相撲興行の風景を描くとともに、幕内力士の顔ぶれを紹介するプロマイド的な意味もあったと思われる。（沓沢）



巨型竹编工艺（一田庄七郎的作品）

籠細工（浪花細工人一田庄七郎）

Colored woodblock print depicting the basketry work of Guan Yu, a hero in ancient China, by the craftsman Ichida Shōshichirō (the original basketry work was displayed on a sideshow at Asakusa entertainment district)

1819年 | 1819年（文政2） | 1819

长 37 厘米；宽 26 厘米 | 縦 37 cm 横 26 cm | Length: 37 cm, width: 26 cm

第一代歌川国贞 / 歌川国贞（初代）画 | Artist: the First Utagawa Kunisada

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

竹编工艺是指将竹子编成网眼状制成工艺品。大阪的手艺人一田庄七郎于 1819 年（文政二年）在浅草举行的夏季展演活动中大受欢迎。据说，当时现场聚集了 40 万到 50 万看客。展示的亮点便是本展品所描绘的全长超过 7 米的巨型关羽像，这也说明江戸百姓对《三国志》故事十分熟悉。

籠細工とは竹の籠目を編んで作る細工物のことで、大阪の細工人一田庄七郎が行った 1819 年（文政 2）夏の浅草興行は大変な人気となり、40～50 万人もの見物客を集めた。この興行の目玉となったのは、本資料にも描かれている全長 7 メートルを超える巨大な関羽像で、江戸庶民が『三国志』の物語に親しんでいた様子も伝わる。（沓沢）



东都名胜两国地区纳凉图 | 東都名所兩國夕涼みの図

Enjoying the Summer Evening in the Cool Air in the Ryōgoku Area in the Eastern Capital

1856年 | 1856年(安政3) | 1856

长 74.8 厘米; 宽 37.4 厘米 | 縦 37.4 cm 横 74.8 cm | Length: 74.8 cm ; width: 37.4 cm

歌川国乡 / 画 | 歌川国郷 / 画 | Artist: Utagawa Kunisato

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

该作品描绘了隅田川沿岸两国桥周边的情景。每年五月二十八日到八月二十八日这三个月期间，老百姓会被允许来这里纳凉或者燃放烟花，因此每到傍晚时分这里都会有来乘凉的熙熙攘攘的人群。我们从该画作上可以看到桥上人头攒动、嘈杂拥挤，河面上停满了贩卖食物以及泛舟纳凉的小船，好一派江戸夏季喧闹的景象。

隅田川に掛かる兩國橋の辺りでは、毎年5月28日から8月28日までの3ヶ月の間川での納涼や花火の打ち上げが許され、夕方になると涼を求める人々で大いに賑わった。本図もその様子を描いたもので、橋上は人の頭しか見えないほどの大混雑、川面も納涼船と、食べ物を販売する船などで埋め尽くされており、江戸の夏の喧騒を伝えている。(沓沢)



唐诗选画本 | 『唐詩選画本』

Selected Poems of the Tang Dynasty with Illustrations

1790年 | 1790年(寛政2) | 1790

长 16 厘米; 宽 22.7 厘米 | 縦 22.7 cm 横 16 cm | Length: 16 cm, width: 22.7 cm

鈴木芙蓉 / 画 | 鈴木芙蓉 / 画 | Artist: Suzuki Fuyō

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

由中国明代文学家李攀龙编纂并传播的《唐诗选》，在江户初期传入日本。作为学习唐诗的入门教材，日文版采用老百姓使用的平假名进行文字书写，并以漫画或插图的形式来表现古诗词的意境；而且对于唐诗里出现的汉字也用假名标注出读音并伴有相关注解，因此该书能被更多的人喜爱和接受，很受读者欢迎。

明の李攀龍の編纂と伝わる『唐詩選』は、江戸時代初期に日本に伝来した。唐詩の入門書として大流行し、注釈書類も多数著された。本書は、絵本仕立てで、唐詩を絵の「讀」に用いている。文字は、庶民が読める平仮名を使い、漢字にも振り仮名を付けており、より多くの人に親しまれた。(江里口)



《西游记》购书收据 | 覚(本代請取証)

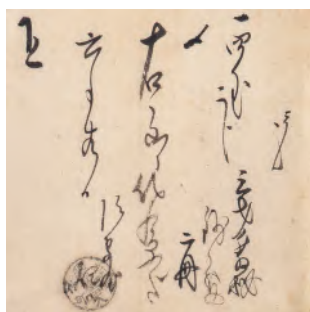
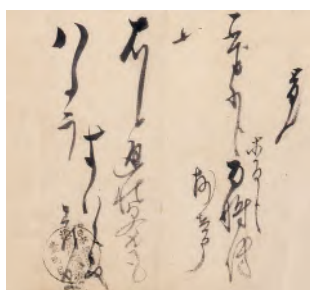
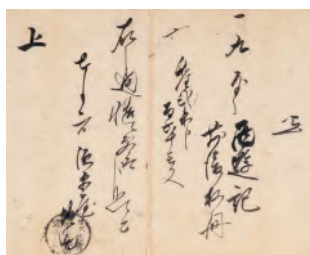
Receipt of purchasing the book *Journey to the West* authored by Tachibana Nankei

江戸时期 (1603—1867) | 江戸時代 (1603—1867) | Edo period (1603-1867)

长 22.2 厘米; 宽 15.5 厘米 | 縦 22.2 cm 横 15.5 cm | Length: 22.2 cm, width: 15.5 cm

須原屋伊助创建 | 須原屋伊助作成 | Issued by Suharaya Isuke

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum



这是一张由坐落在日本桥附近的“須原屋伊助”书店开具的写明书籍价格的购书收据。收据上显示：《西游记》前后编 10 册，共计 9 两银（一两约为 3.768 克）。这是一套记录作者橘南溪自 1782 年游历日本四国、九州等地见闻的旅行游记（非中国的《西游记》）。当时的 9 两银相当于现在的 2300 日元。江户地区销售古典汉语图书的书店与售卖通俗小说及浮世绘版画的书店还是有区别的。18 世纪中期以后，印刷技术的进步不但扩大了各个阶层的读者群，也增加了各类书籍读物的销售量。

日本橋にあった本屋・須原屋伊助店の本代の領収書。『西遊記』前後編 10 冊が銀 9 匁であったことがわかる。この本は日本の紀行・随筆で、橘南溪が 1782 年から四国や九州等を旅した際の見聞録。「銀 9 匁」は、現在のお金で約 2,300 円位である。江戸の本屋は、漢籍等の書物を扱う店と、大衆小説や浮世絵版画などを扱う店に大別され、18 世紀中期以降、印刷技術の向上や読者層の広がりなどにより、急速に発展し、多種多様な書物が販売された。(江里口)

《绘本通俗三国志》（第五编第八卷、第九卷）
『絵本通俗三国志』五編卷之八、五編卷之九
An Illustrated Popular History of the Three Kingdom

1836—1841年 | 1836—1841年（天保7—12） | 1836-1841

长 22.2 厘米；宽 15.5 厘米 | 縦 22.2 cm 横 15.5 cm | Length: 22.2 cm, width: 15.5 cm

池田东篱亭 / 编 第二代葛饰戴斗 / 画 | 池田東籬亭 / 編 / 葛飾戴斗（二代） / 画 | Edited by Ikeda Tōritē /
Illustrated by The second Katsushika Taito

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

《三国演义》在 17 世纪初期传入日本，并在民间传播，由湖南文山〔元禄时期（1688~1704）京都天龙寺二僧人义辙、月堂的笔名〕翻译的《三国志通俗本》于 1689 年至 1692 年间出版发行并大受欢迎之后，口语化的小说译本也陆续发行。这本《三国志通俗本》以平假名书写，并嵌入插图，因此更能被广大读者接受。书中的刘备、关羽等已经成为日本人耳熟能详的人物形象。

『三国志演義』は、遅くとも 17 世紀初め頃までには日本に伝来していたが、庶民に広まったのは、これを翻訳した湖南文山の『通俗三国志』が 1689 年～92 年に刊行されてからである。大ヒットとなり、この後、中国の口語体小説の翻訳本が次々と出版された。本書は『通俗三国志』を平仮名の絵入り本にしたもので、さらに読者が広がり、劉備や関羽等の登場人物は、日本人にも身近な存在となった。（江里口）



在浅草寺山后举行赏驴表演的广告画 驢馬浅草觀世奥山二於て興行仕候

Leaflet for donkey performance and other entertainment near the Sensōji

1841年 | 1841年(天保12) | 1841

长 48.1 厘米; 宽 35.8 厘米 | 縦 35.8 cm 横 48.1 cm | Length: 48.1 cm, width: 35.8 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

这是一幅在浅草寺院内进行赏驴表演的宣传画。毛驴在中国是普通的家畜，但在日本却是稀有的外来进口动物，因此成了观赏对象。而且，据说看到毛驴后，天花的症状就会减轻，这一功效也成为招揽看客的理由。

浅草寺境内で行われたロバの見世物興行の宣伝チラシ。ロバは中国では一般的な家畜だが、日本では珍しい舶来の動物だったため、見世物の対象ともなった。また、ロバを見ると天然痘が軽くなる、というような「効能」も人集めのために語られた。(沓沢)



鹤鹑争鸣图屏风 | 鶉会之図屏風

Illustrated folding screen showing tweeting quails

18 世纪后半叶 | 18 世紀後半 | Second half of the 18th century

长 151 厘米; 宽 135 厘米 | 縦 135 cm 横 151 cm | Length: 151 cm,

width: 135 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

鹤鹑因其美妙的啼鸣声而受到欢迎。江户时期，鹤鹑不仅受到武士阶层，也受到平民百姓的喜爱。甚至还发行了饲养手册，上面记录了饲养和辨别良种的方法、叫声的优劣等内容。18 世纪后半叶，非常流行举行鹤鹑的啼鸣和体态优劣的比赛。因雄性鹤鹑在清晨的叫声比较优美，所以争鸣比赛一般都在一大早举行。

^{うずら} 鶉は鳴き声をめでる鳥として人気があり、江戸時代には武家はもとより町人にも愛好され、飼育方法や良い鳥の見分け方、鳴き声の良し悪しなどを記した飼育のマニュアルが刊行されるほどだった。鳴き声や姿の優劣を競い合う^{うずらあわせ}鶉合(鶉会)は、18 世紀後半に大流行し、早朝の雄の声が美しいとされたことから鶉合も朝に行われた。(沓沢)



东都名胜《道灌山虫闻图》（绘有听虫鸣之处的锦绘）

東都名所 道灌山虫聞之図

Colored woodblock print depicting people enjoying insects chirping in the Dōkanyama area

1839—1842 年 | 1839—1842 年（天保 10—13） | 1839-1842

长 37.1 厘米；宽 25.7 厘米 | 縦 25.7 cm 横 37.1 cm | Length: 37.1 cm, width: 25.7 cm

歌川广重 / 画 | 歌川広重 / 画 | Artist: Utagawa Hiroshige

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

道灌山即现在的东京都荒川区西日暮里附近的高地。江戸时期，这里因是秋天欣赏虫鸣的胜地而闻名。这里还是一个地势制高点，所以也是一个极好的远眺佳所。文人们秋夜来此，一边赏月一边聆听金钟儿的叫声。

道灌山は現在の東京都荒川区西日暮里付近に位置した高台で、江戸時代には秋の虫たちの声を聴いて楽しむ虫聴きの名所として知られていた。山の手の台地の最高地点でもあることから眺望も優れており、秋の夜には文人たちが訪れて、月を見ながら松虫や鈴虫の鳴く声に聴き入った。（沓沢）



夏季商人出售虫子的露天摊

夜商内六夏撰（虫売り）

Colored woodblock print depicting a street vendor selling insects

1847—1852 | 1847—1852 年（弘化 4—嘉永 5） | 1847-1852

长 37.2 厘米；宽 25.8 厘米 | 縦 37.2 cm 横 25.8 cm | Length: 37.2 cm, width: 25.8 cm

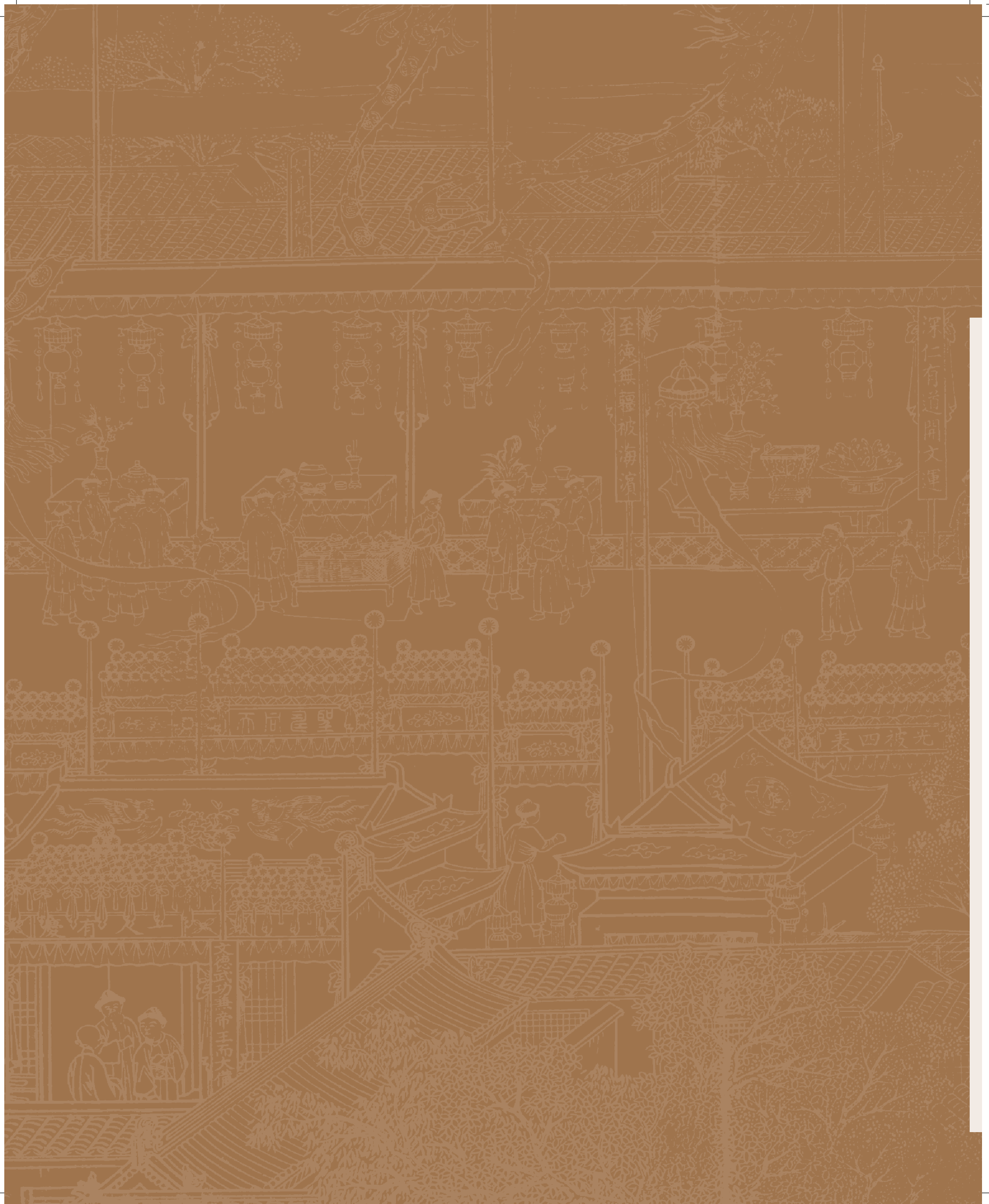
第三代歌川丰国 / 画 | 歌川豊国（三代） / 画 | Artist: the Third Utagawa Toyokuni

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

这是一幅描绘贩卖虫子的露天摊位的锦绘。江戸百姓购买养在笼子里的各种虫子，以赏虫为乐，因此卖虫子还成为夏夜一道美妙的风景线。出售的虫子除蝈蝈、蟋蟀和金钟儿等鸣虫外，还有萤火虫和棉铃虫等。此外，放虫子的小笼子也很讲究。等到了盂兰盆节的时候，人们就像在佛教的放生大会上一样，有把买来的虫子放归野外的习俗。

虫を売る屋台を描いた錦絵。江戸の庶民は虫籠に入れた様々な虫を買って楽しみ、虫売りは夏の夜の風物詩ともなった。販売されていたのはキリギリスや松虫、鈴虫といった鳴く虫のほか、蛍やコオロギなどもあり、入れる虫籠も凝っていた。また、買った虫はお盆になると、仏教における放生会^{ほうじょうえ}のように野に逃がす習慣もあった。（沓沢）





18世纪的东京，被称为江户，政治的稳定和商业的活跃，带来了富足的市民生活以及城市文化的丰富多样。书法、绘画、雕塑、漆器以及纺织品等城市技艺在贵族和武士阶层的美学关注下，吸收传统技法特点的同时，汲取民间和国外艺术的精髓，对当代日本的艺术文化产生了深远的影响。

瓷器方面，荷兰东印度公司作为西方瓷器贸易的纽带，向日本寻求订单。客观上促进了日本制瓷业的发展。兼具中国纹样和日本构图特点的日本瓷器深受欧洲贵族的青睐。喜爱漆器工艺的日本民族将漆器工艺用于建筑装饰、陈设品、家具、礼品等生活的方方面面。日本美术的典型样式——浮世绘，借鉴西方写实艺术来体现江户市民生活。而它作为一种平民艺术，真实地反映了近代日本的人文价值。除此之外，江户丰富多彩的城市技艺使得这个城市的文化艺术变得精彩异常。



都市の文化芸術

18世紀の東京は、江戸と呼ばれていた。政治的に安定していたこと、経済的に繁栄していたことから、豊かな市民生活や都市文化の多様性をもたらされた。江戸では身分を超えて自由な交友を結ぶ文化サロンが発生し、文学・芸術・学問の広範な発展をみた。一方、漆芸や彫刻、染織などの工芸も、海外からの技法や素材も取り入れ、伝統的な技術を飛躍的に発展させ、総じて現代の日本の文化芸術にも大きな影響を及ぼした。

磁器については、東インド会社からの、日本への発注拡大により、窯業の発展が促された。中国式の模様と日本式の構図を併せ持つ日本の磁器は当時のヨーロッパ貴族たちの愛顧を博した。日本において伝統的に愛用されてきた漆も、建築の装飾、愛玩用の置物、家具や贈答の品など各方面に使用されるようになった。また、現在、日本美術の代表として語られることの多い浮世絵は、西洋の写実的な手法にも影響を受け、江戸の暮らしぶりを見事に映し出した。そのほかにも都市江戸を舞台として、各種の江戸文化が開花、成熟し、発展を極めた。



Art and culture in the city of Edo

Tokyo was known as Edo in the 18th century, the political stability and the successful business activities, during this period of time, assured its people a wealthy life and the diverse urban cultures. With the focus on the aesthetic aspect from the aristocrats or the samurai class, the craftsmanship in artistic and cultural works, including calligraphy, paintings, sculptures, lacquer wares, and textiles, progressed to a much higher standard. It was a time that saw not only a legacy of a far-reaching and profound impact on contemporary Japanese art and culture, but also the traditional techniques and craftsmanship in Japanese folk arts which were blending with the essence of foreign artisanship.

Due to various problems and difficulties in trade with China by the end of the Ming dynasty, and the increased market demands in ceramic products from the western world, the Dutch East India Company (Verenigde Oost-Indische Compagnie or VOC, established in 1602) started to substitute Chinese ceramic wares for the Japanese ones. The change accelerated the development of the porcelain industry in Japan. Japanese porcelain, a combination of Chinese patterns and Japanese designs, was very much favored by the European aristocracies. Meanwhile, in Japan, lacquer wares were popular items in daily life. They were made as decorations on architecture, furniture, ornaments and gifts. Ukiyo-e is a unique genre of Japanese art, however, the idea of western realism was widely applied in Ukiyo-e by the Japanese artists to illustrate stories of urban life in the new capital, Edo. As a popular art form among ordinary people, Ukiyo-e works played a part in advocating the humanist values of Japan. The city of Edo had been kept vibrant and alive by all the wonderful and amazing cultures and arts, and the people who created them.



清朝与日本之间的人员往来

江户时期，清朝的各种艺术品通过长崎这一唯一的通商门户进入日本。此外，将禅宗派别之一的黄檗宗传播推广到日本的明代高僧隐元等人东渡扶桑，他们带来的知识和技术对日本文化产生了巨大影响。

擅长花鸟写生的清朝画家沈铨（号南苹）也是众多文化传播者的其中一位。在爱好中国绘画的第八代将军德川吉宗的安排下，沈铨受幕府之邀于1731年（享保十六年）12月来到日本，在长崎的“唐人街”（专门为中国人设置的居住区）生活了1年10个月。在日逗留期间，他把自己的绘画技法传授给了担任汉语翻译的神代彦之进（熊斐）。沈南苹回国后，其弟子又相继来日，熊斐又向他们学习，最终确立起以花鸟画为主的工笔写实的创作技法。该技法后被称作“南苹画派”，由师从熊斐的宋紫石及鹤亭等人将其传播到日本各地，特别是在江户一带，深受人们的追捧和喜爱。

清との人的交流

江戸時代、外国との唯一の窓口であった長崎を通じ、清より様々な文物が日本へともたらされた。そして、禅宗の一派である黄檗宗を日本へと広めた高僧隠元なども来日し、彼らから伝えられた知識や技術は日本の文化へ多大な影響を与えた。

写生的な花鳥画を得意とした清代の絵師、沈銓（南蘋）もその一人である。彼は中国絵画を愛好した八代将軍吉宗の施策により幕府からの招聘を受け、1731年（享保16）12月に来日し、長崎の唐人屋敷（中国人居留地）で1年10カ月の間暮らした。滞在中には中国語の通訳をする役職にあった神代彦之進（熊斐）にその絵画技法を教えている。南蘋の帰国後も弟子の来日は続き、熊斐は彼らにも学んで、精緻な筆法による写生的な花鳥画を主とする画法を確立させた。後に「南蘋派」と呼ばれるその画法は、熊斐に師事した宋紫石や鶴亭らによって日本各地へと伝えられ、特に江戸で大いに人気を集めた。



沈铨绘《芝鹿图轴》

《古今画丛后八种》画谱 | 古今画藪後八種画譜

An Illustrated Introduction to Traditional Chinese Brush Painting Techniques

1771 年 | 1771 年 (明和 8) | 1771

长 17 厘米 (对开 31 厘米); 宽 26.6 厘米 | 縦 26.6 cm 横 17 cm | Length: 17 cm, width: 26.6 cm

宋紫石 / 著・画 (原名: 楠本 幸八郎) | 宋紫石 / 著・画 / 作 | Artist/author: Sō Shiseki (real name: Kusumoto Kōhachirō)

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum



这是江戸画师宋紫石所著的画谱（绘画样本集），序言中还出现了沈铨（号南苹）的名字。宋紫石是南苹画派的代表人物，他曾在长崎跟熊斐学画，又于 1758 年（宝历八年）师从旅日的清代画家宋紫岩，并确立了自己独特的画风。宋紫石出版了好几部类似本展品这样的画谱，这对南苹画派画法风格的普及起到了重要作用。

江戸の画人宋紫石による画譜（絵の手本集）で、序文には沈詮の名も登場する。宋紫石は南蘋派の代表的な人物で、長崎で熊斐^{ゆうひ}に学び、さらに 1758 年（宝暦 8）に渡来した清人画家宋紫岩にも師事し画法を確立させた。宋紫石は資料のような画譜をいくつも出版し、南蘋派の絵画技法の普及に大きな役割を果たした。（沓沢）



《一年十二月图》十一月之寒牡丹 | 十二ヶ月図 十一月寒牡丹 Peonies in November in the cold season from the *Drawings of Twelve-Month Themes*

江戸后期 (1746—1841) | 江戸後期 (1746—1841) | Late Edo period (1746-1841)
长 128.4 厘米; 宽 49.9 厘米 | 縦 128.4 cm 横 49.9 cm | Length: 128.4 cm; width: 49.9 cm
长谷川雪旦 / 画 | 長谷川雪旦 / 画 | Artist: Hasegawa Settan
江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

画家在一年十二个月中的每个月选择一个适合的绘画主题进行创作，全年一共十二幅画作。这幅作品表现的是一年当中的第11个月份，并以在夏冬两季开花的牡丹作为主题。为了抵御大雪和寒冷，冬季开花的牡丹上有像被草帽一样的东西覆盖的情景被画家表现了出来。长谷川雪旦是江戸后期的画家，他不拘泥于流派，荟萃各种绘画风格于一身，其素描的功底出类拔萃，并以为江戸地志杂志《江戸名胜图绘》创作插图而享誉画坛。

一年十二ヶ月の、各月にふさわしい画題を1幅ずつ選んで描いた十二幅揃いの掛軸のうち、11月にあたる。夏と冬の2回咲く牡丹を画題にし、冬に咲かせる時に、雪や寒さから花を守るため、藁の帽子のようなものをかけた姿を描いている。雪旦は、江戸後期の画家で、流派にこだわらず、様々な絵画様式を身に付け、素描力にも優れていた。絵入りの江戸地誌『江戸名所図会』の挿絵を描き名声を得た。(江里口)



《吉原游女图》（丁字屋） | 揚屋図（丁字屋） Painting depicting the Pleasure Quarter, “Chōjiya”

1789—1817 年 | 1789—1817 年 (寛政—文化期) | 1789-1817

长 128.3 厘米; 宽 84.5 厘米 | 縦 128.3 cm 横 84.5 cm | Length: 128.3 cm ; width: 84.5 cm

第二代鳥居清忠 / 画 | 鳥居清忠 (二代) / 画 | Artist: The second Torii Kiyotada

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

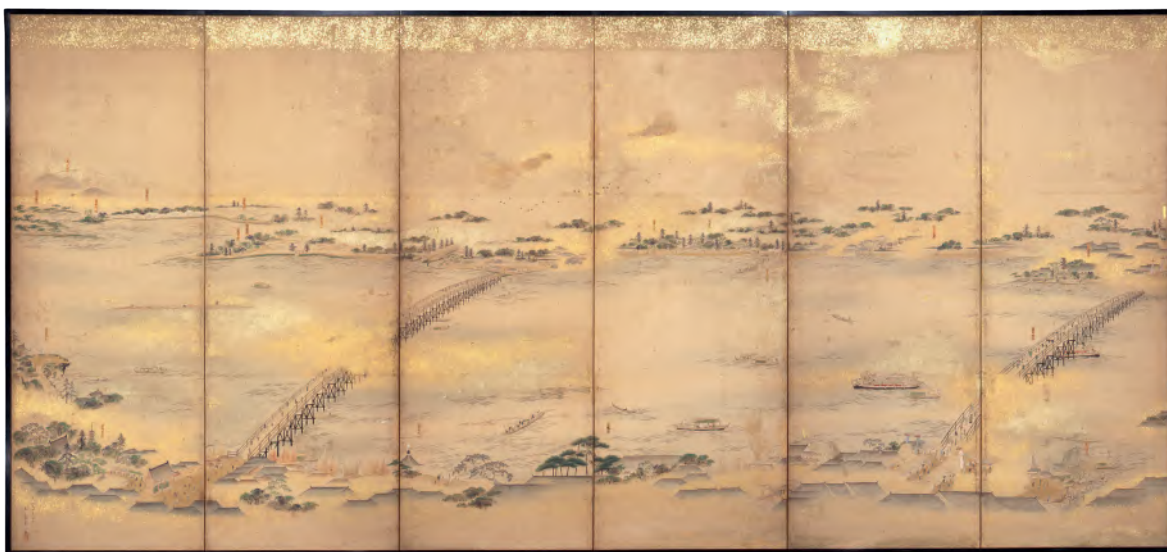
新吉原是浅草地区北部整顿出来的被幕府承认的花街柳巷，在那里工作的青楼女子没有自由、境遇悲惨，但她们独特的美丽和时尚却是浮世绘画家经常采用的绘画主题。这一作品以坐落在新吉原的老字号“丁字屋”为背景，对男客人、青楼女子以及刚刚踏入青楼的少女进行了形象的描绘。

新吉原は浅草の裏手に整備された幕府公認の遊郭で、そこで働く遊女たちは自由の少ない悲惨な境遇にある一方、美しさや流行のファッションを象徴するモチーフとして浮世絵などに多く描かれた。本図は新吉原でも老舗の大店であった「丁字屋」をモチーフとしたもので、客らしき男性と遊女、そして遊女の見習いである禿らが描かれている。（沓沢）





右翼



左翼

隅田川景物屏风（6扇1对） | 隅田川風物図屏風（6曲1双）

Folding screens showing scenery along the Sumida River

1826年 | 1826 | 1826

两扇屏风均为六折长 361.2 厘米；宽 166.7 厘米 | 六曲一双 各縦 166.7 cm 横 361.2 cm | Length: 361.2 cm, width: 166.7 cm

鸟文斋荣之 / 绘 | 鸟文斋荣之 / 筆 | Artist: Chōbunsai Eishi

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

该屏风描绘了流经江戸城的具有代表性的河流——隅田川的景色。屏风右翼展示的是河流入海的河口处；左翼描绘的是从此河口处顺流而上，经两国到浅草寺再到待乳山周边。屏风记录下隅田川沿岸的名胜，还附带有标注出该名胜名称的小牌，是一幅体现各风景区的全景图。该作品非常珍贵，不可多得。

江戸を流れる代表的な河川であった隅田川の景観を描いた屏風。右隻は海へと流れ込む河口部分を、左隻はそこから川を遡り、両国から浅草寺、待乳山まつちやまの辺りまでを収めている。川沿いの名所には名称を記した札が付されており、その情報とともに景勝地を一望することができる非常に珍しい作品である。
(查沢)

贵族府邸内外游乐图屏风 | 邸内邸外遊楽図屏風

Folding screens showing high-ranking officials enjoying viewing flowers in their residence accompanied by escorts

江戸时代 (1603—1867) | 江戸時代 (1603—1867) | Edo period (1603-1867)

长 272.4 厘米; 宽 94.2 厘米 | 縦 94.2 cm 横 272.4 cm | Length: 272.4 cm, width: 94.2 cm

菱川派 / 画 | 菱川派 / 画 | Artist: unknown (a painter from the Hishikawa School)

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

这幅画描绘了人们春天赏花聚会的场景。画中弯曲的膝盖和腰肢展现了女性柔韧的身姿，是典型的菱川派画法。浮世绘绘画风格发展初期的作品主要是对近代早期都市平民的日常生活及玩耍嬉戏场面的展现。绘画风格从早期的对形式各异的场景、众多的人物和大型画面的描绘，发展转变为后来的对特定场景、为数不多的人物和小型画面的描绘。

春の花見の宴会を描く。膝や腰をくの字に曲げ、しなやかさをあらわす女性の立ち姿は、菱川派の特徴である。近世初期、都市に暮らす人々の遊楽の様子を描く、こうした絵画が数多くつくられ、のちの浮世絵の端緒となった。さまざまな場面を、大人数で、大画面に描くものから、特定の場面を、少ない人数で、小さな画面に描くものが派生し、浮世絵に発展したとされる。(春木)



东海道线全长五十三个驿站沿线的名胜 原站之富士山的清晨 東海道五十三次之内 原 朝之富士

Hara: Mount Fuji in the Morning from the Series *Fifty-three Stations of the Tōkaidō*

天保时代 (1830—1844) | 天保年間 (1830—1844) | Tenpō period (1830-1844)

长 37.3 厘米; 宽 25.1 厘米 | 縦 25.1 cm 横 37.3 cm | Length: 37.3 cm, width: 25.1 cm

安藤广重, 别名第一代歌川广重 / 画 | 歌川広重 (初代) / 画 | Artist: The first Utagawa Hiroshige

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

《东海道沿线五十三驿站》是安藤广重首次以东海道线为题材创作的绘画作品。该系列绘画共 55 帧, 包括 53 帧描绘驿站周边的风景及江户和京都风景的图画。从原宿 (东海道线第 13 站) 出发, 很快就会到达浮岛原站。在浮岛原站所看到的富士山山体高大、姿态匀称而优美。从画面的整体布局来看, 画家突出了山顶的部分, 着重显现出富士山的高度, 同时也着实再现了那些驻足回望、对富士山风景流连忘返的旅行者的形象。

東海道五十三次は、歌川広重が初めて東海道を描いた、全 55 枚のシリーズで、53 の宿場風景に、江戸と京の 2 図を加え、55 枚とした。原の宿を出るとまもなく湿地帯のような浮島ヶ原が広がる。そこから見る富士は巨大で、均整のとれた優美な姿という。画面に設けた枠をはみ出すように山頂を描き、その高さを強調する。足を止め、振り返って眺める旅人の姿が、去りがたい風景であることを物語る。(春木)



东海道线全长五十三个驿站沿线的名胜 蒲原站之夜之雪

東海道五十三次之内 蒲原 夜之雪

Kanbara: A Night in the Snow from the Series *Fifty-three Stations of the Tōkaidō Road*

天保时代 (1830—1844) | 天保年間 (1830—1844) | Tenpō period (1830-1844)

长 37.3 厘米; 宽 25.1 厘米 | 縦 25.1 cm 横 37.3 cm | Length: 37.3 cm, width: 25.1 cm

第一代歌川广重 (安藤广重) / 画 | 歌川広重 (初代) / 画 | Artist: The first Utagawa Hiroshige

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

幕府统治末期的天保年间, 以葛饰北斋和安藤广重为代表的画家把浮世绘风景绘画的技艺水平发展到了极致。江户时期, 旅行作为一种文化风尚在民间传播开来。普通百姓把到伊势神宫朝圣作为人生中一件快乐的事情。浮世绘风景画在这种普通百姓热衷旅行的背景下盛极一时。安藤的风景绘画把旅行者喜怒哀乐的细微情感以艺术的手法处理得淋漓尽致。虽然在作品中看不到那些弓着背走路的行人的脸, 但是整幅画面中却充满了悲伤的情调。

浮世絵の風景画が興隆を極めるのは、幕末に近い天保年間 (1830-1844) 頃で、葛飾北斎と歌川広重がその旗手であった。江戸時代には、庶民の間にも旅を愛好する文化が広まり、伊勢神宮への参詣を目的にした旅行は、庶民の一生に一度の楽しみであったという。浮世絵の風景画が流行した背景には、庶民の旅への関心があった。広重の風景画は、そうした旅人たちの感情の機微までを描くと評される。背中を丸めて歩く人々の、その顔色はうかがえないながらも、画面にはその哀愁が横溢する。(春木)





梨皮地葵紋扇面泥金鞍 金梨子地軍配に葵紋蒔絵鞍

Maki-e saddle with gold flakes sprinkled onto the surface and decorated with the hollyhock emblem of the Tokugawa shogun and images of a military leader's fan

1673 年 | 1673 年 (寛文 13) | 1673

长 41 厘米; 宽 27.6 厘米; 高 39 厘米 | 縦 41 cm 横 27.6 cm 高さ 39 cm | Length: 41 cm, width: 27.6 cm, height: 39 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

这是一具以梨皮地为背景、施以泥金彩绘和 22 把形式各异的军令牌及德川家族家徽为图案的马鞍，做工十分考究。马鞍里面有“寛永十三年”字样。

梨子地に絵柄を違えた 22 枚の軍配と徳川家の家紋である葵紋を蒔絵で施したきらびやかな鞍で、裏面には寛文 13 年の記年がある。(沓沢)

梨皮地松竹梅泥金棋盘 梨子地松竹梅蒔絵碁盤

Maki-e Go board with gold flakes sprinkled onto the surface and decorated with images of pine trees, bamboo and plum blossoms

江戸后期 (1746—1841) | 江戸後期 (1746—1841) | Late Edo period (1746-1841)

长 44.9 厘米; 宽 41 厘米; 高 25.8 厘米 | 縦 44.9 cm 横 41 cm 高さ 25.8 cm | Length: 44.9 cm, width: 41 cm, height: 25.8 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

围棋起源于古代中国，后经朝鲜半岛传入日本。最初是在学者或僧侣之间切磋棋艺，后来在贵族和武士中也流行起来。据推测，此件器物大约的制作年代是 18 世纪末至 19 世纪前期。绘制梨皮地图案的手法是当时泥金彩绘的技法之一，此图案因与梨的表皮相似，故而得名。该棋盘展现了江戸时期的武士在和平年代的生活。

囲碁は、古代中国を発祥とし、日本へは朝鮮半島を経由して伝えられたとされている。最初は、学者や僧侶の間で行われたが、次第に貴族や武士たちの間でも打たれた。本資料は、18 世紀末から 19 世紀前期頃に製作されたものと推定される。梨子地とは、蒔絵の技法の一種で、果物の梨の肌に似ていることから、その名が付けられた。平和な時代であった江戸時代の武士の生活を垣間見ることができる。(杉山)





梅子树嵌螺钿提盒 | 梅樹螺鈿提重

Tiered lunchbox inlaid with mother-of-pearl decorations

江戸后期 (1746—1841) | 江戸後期 (1746—1841) | Late Edo period (1746-1841)

长 30.3 厘米; 宽 16.9 厘米; 高 29.4 厘米 | 縦 16.9 cm 横 30.3 cm 高さ 29.4 cm | Length: 30.3 cm, width: 16.9 cm, height: 29.4 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

提盒是一种顶部装有提手，把盒子、盘子、杯子、瓶子等餐具组合收纳在一起的便携式食盒，有“赏花便当”之称。通常在猎鹰会、品茶会等野外活动中使用。提盒上嵌有螺钿，以红梅花、白梅花、樱花、牡丹花及山茶花作为装饰。螺钿用贝壳磨制成相关的图案，然后根据需要而镶嵌在漆器上的一种工艺。在日本，这种工艺经常在日常用品和刀具类的制作上使用。

提重とは、花見弁当とも言い、天板に提手が付く枠組みに、重箱、徳利、皿、盃などの食器類を組み合わせて納める携帯用の一式。鷹狩りや茶会など、野外で行う行事の際に使用された。本資料は、螺鈿で梅樹や紅梅、白梅、桜、牡丹、椿を描き出された提重。螺鈿は、貝殻を文様の形に切り、貼り付けた上に漆で固定した技法のこと。日本では、調度品や刀装具などに多用された。(杉山)

草花折枝果实泥金餐具 草花折枝果实蒔絵膳椀一具

Maki-e tableware and serving benches with botanical design (two trays with loofah design)

1825 年 | 1825 年 (文政 8) 10 月 | 1825

底层主食台长 33.5 厘米; 宽 33.5 厘米; 高 13.5 厘米 二层副食台长 31 厘米; 宽 31 厘米; 高 13 厘米 | 本膳 縦 33.5 cm 横 33.5 cm 高さ 13.5 cm 二の膳 縦 31 cm 横 31 cm 高さ 13 cm | Serving bench for staple food: length: 33.5 cm, width: 33.5, height: 13.5 cm Serving bench for non-staple food: length: 31 cm, width: 31 cm, height: 13 cm

桔屋友七 (即浅野友七) | 橘屋友七 (浅野友七) 作 | Crafted by Tachibanaya Tomoshichi (Asano Tomoshichi)
江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

这是漆器大师桔屋友七制作的红漆碗碟。根据有关资料记载,该型制的餐具是为婚礼而准备,曾定制了 20 套,这是其中的一套。餐具施以大红地泥金彩,绘有花草水果等图案,并以喜庆的祝福语作为装饰,集中体现出江戸文化华美的特点。据推测,该套餐具应该是有渊源的家族使用过的物品。

塗師の橘屋友七が製作した朱塗りのお膳とお椀。婚礼などのために製作され、箱書から 20 人前が準備されたと考えられる。朱地に金蒔絵で、様々な草花や果実の文様を描き、華やかなお祝い事に相応しい装飾となっている。由緒ある家で使用したものと考えられ、華やかな江戸文化の雰囲気伝える資料である。(杉山)



芙蓉花 VOC 字纹青花盘 | 染付芙蓉手 VOC 字文皿

Blue-and-white porcelain plate with hibiscus flowers and the VOC mark in the center

1690—1720 年 | 1690—1720 年代（元禄—享保期） | 1690-1720

直径 39.6 厘米；高 6.8 厘米 | 径 39.6 cm 高さ 6.8 cm | Diameter: 39.6 cm, height: 6.8 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

盘子中央的印记是“荷兰东印度公司”在荷兰语中首字母缩写后的大写字母：VOC。17 世纪前期，从中国出口欧洲的瓷器中，一种盛开的芙蓉花作为装饰图案的品种深得人们的喜爱。但后因中国国内政局的变化，外销瓷器的商业行为被禁止。在这种情况下，为了满足荷兰东印度公司的需求，含有此类图案的瓷器只得在肥前国（今佐贺县）的有田镇进行生产。

皿の中央のマークは、オランダ東インド会社（Vereenigde Oostindische Compagnie）の頭文字「V」・「O」・「C」をデザインしたもの。17 世紀前半に中国からヨーロッパへの輸出品として、芙蓉手の陶磁器が人気を博したが、中国国内の情勢により海外への輸出が禁止された。そのため、オランダ東インド会社が同様の陶磁器を求め、肥前国（現佐賀県）の有田で製作されることとなった。（杉山）





武士救火装束 女用头巾

武家火事装束 女子用立烏帽子形火事頭巾

Samurai-class firefighter's clothing: woman's tall Eboshi-shaped hood of crimson wool

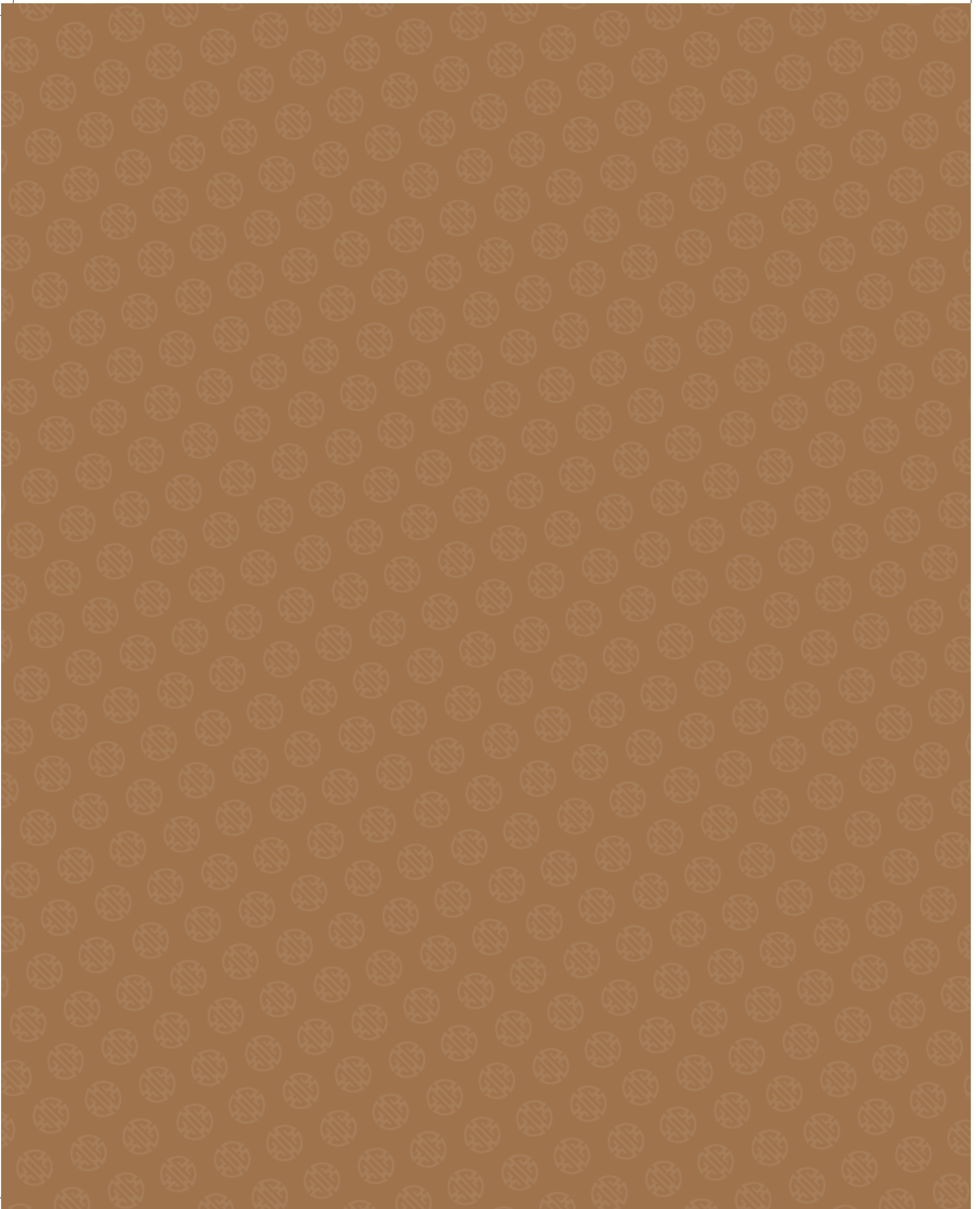
江戸后期 (1746—1841) | 江戸後期 (1746—1841) | Late Edo period (1746-1841)

长 98.5 厘米; 宽 74 厘米 | 丈 98.5 cm 幅 74 cm | Length: 98.5 cm, width: 74 cm

江戸东京博物馆 | 江戸東京博物館蔵 | Tokyo Metropolitan Edo-Tokyo Museum

这是一款在鲜红色粗毛纱上用金线绣有龙纹的女用头巾。发生火灾时，在江户生活的大名负责指挥救火，因此在火灾现场他们都会穿着精心设计的最新款救火服装。女性也会在逃离火灾现场及避难时戴着这种乌帽子状的头巾，穿着护胸甲和防护外套等以保护自身。

緋色の羅紗地に金糸で龍の刺繍がほどこされた女子用の火事装束。江戸で暮らす大名には、当番で火消の指揮役が割り当てられ、消火活動の際には意匠を凝らした火事装束を身にまとい先導した。また女性も烏帽子形の頭巾、胸当、羽織を着用して邸内の防火や避難にあたることがあった。(沓沢)



结语

中国与日本是隔海相望的邻邦，地缘将两个国家紧密地联系在一起，两千年的往来交流，彼此的文化都受到了对方不同程度的影响。



北京与东京这两座东亚的历史文化名城，业已建立起近四十年的友好城市关系，密切的文化交流是题中应有之义。此次展览通过对比展示的方式，将人们对自身生活城市所了解和熟悉的历史，迁移到同一时代另一座城市的衣食住行之中，帮助人们更感性地理解其他城市的历史文化，从而希冀在情感上引起共鸣。

“德不孤，必有邻”，真诚友好，以德为邻，祝愿两座城市、两个国家，在未来的日子里有美好的前景。

終わりに

中国と日本は海を隔てた隣国です。地政学的密接な関係に位置づけられております。2000年来の友好交流の歴史において、互いに相手国に対し影響を与え合ってきました。

北京と東京、共に東洋における歴史文化都市として発展しました。首都同士としては40年以上の友好があり、密接な文化交流の関係を築いてきました。本展覧会は、北京と



東京を比較しながらご覧いただく展示手法を採用し、都市の歴史を、同時代のもう一つの都市の暮らしと見比べてご覧いただきます。これにより、自らが暮らす都市ともう一方の歴史と文化を理解する一助となれば幸いです。本展が、皆様の相互の深い共感を呼び起こすことを願っております。

「徳は孤ならず、必ず隣有り」（論語・理仁編）。東京と北京、そして日中両国の、未来における更なる繁栄を、祈念いたします。

Epilogue

China and Japan are neighbors across the sea. The geographical realities had generated opportunities in improving mutual understandings and relations. They have also been influencing each other with their cultures and arts throughout more than 2,000 years of communication.

Beijing and Tokyo are two famous cities in East Asia with rich culture and history. Maintaining a close relationship and bilateral ties between the two cities has been important in the past 40 years. We hope this exhibition is able to help the audience to experience the urban city life in these two different places at the same period of time in history. Exhibits from Beijing and Tokyo are presented together in contrast within given time frames. Such arrangement is aiming to give the audience an idea of traditions and the culture with which people might not be as familiar as they are with that from their own hometown.

Confucius said that ‘Virtue is not left to stand alone. He who practices it will have neighbors’. Being loyal to friends and charitable to neighbors, are the teachings of Confucianism for neighboring countries, just like Japan and China, in dealing with mutual relations. We wish the two cities — Beijing and Tokyo, and the two countries — China and Japan, a promising future for the years to come!



图书在版编目 (C I P) 数据

都市·生活——18世纪的东京与北京/ 江戸东京博物馆

首都博物馆编. -- 北京: 北京出版社, 2018.10

ISBN 978-7-200-14435-2

I. ①都… II. ①江… ②首… III. ①十二生肖—文化

—中国—普及读物 IV. ①K892.21-49

中国版本图书馆CIP数据核字(2018)第025979号

首都博物馆 书库

丁种 第肆拾肆部

都市·生活——18世纪的东京与北京

首都博物馆编纂委员会

主 任 郭小凌

常务副主任 白 杰 韩战明

委 员 靳 非 齐密云 黄雪寅 杨文英

杨丹丹 龙霄飞 彭 颖 齐 玫

鲁晓帆 刘绍南 黄春和

编 辑 孙芮英 张健萍 杨 洋 裴亚静

杜 翔 龚向军 李吉光

都市·生活——18世纪的东京与北京

责任编辑 刘 娜

特约编辑 杨 洋

特约日文编辑 金 昕

装帧设计 雅昌设计中心

出版发行 北京出版集团公司

社 址 北京北三环中路6号

邮 码 100120

印 刷 北京雅昌艺术印刷有限公司

开 本 965×635 1/16

字 数 116千字

印 张 12

版 别 2018年10月第1版

印 次 2018年10月第1次印刷

定 价 86.00元